

出口遺跡

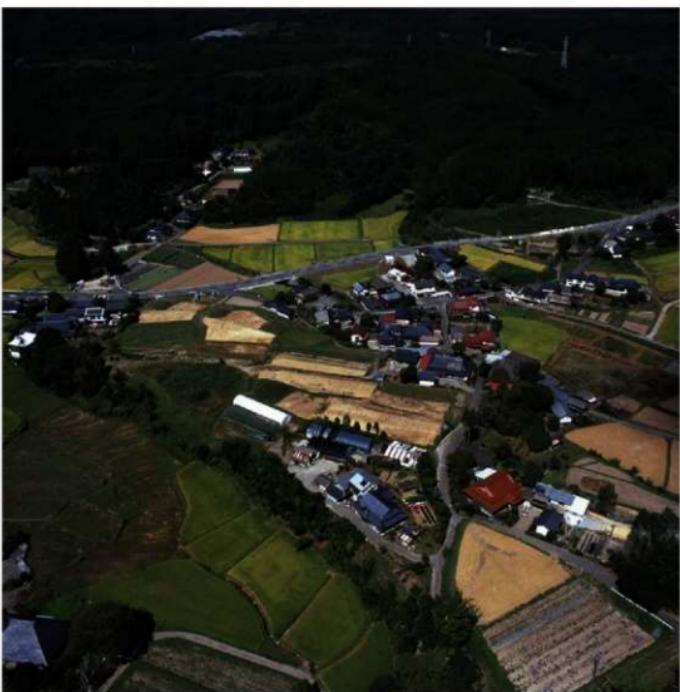
—県営中山間地域総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一

2017年

日田市教育委員会



出口遺跡の空中写真（西から）奥に龜石山を望む



出口遺跡調査の空中写真（南から）

卷頭写真図版 3



出口遺跡出土繩文土器 1



出口遺跡出土繩文土器 2

卷頭写真図版 4



出口遺跡出土縄文土器 3



出口遺跡出土縄文土器 4

序 文

この報告書は、日田市教育委員会が平成 25 年度に県営中山間地域総合整備事業の工事実施に伴って発掘調査をおこなった、出口遺跡の調査内容をまとめたものです。

出口遺跡では、周辺を流れる出口谷川左岸に位置する沖積地からは縄文時代後期前葉頃と考えられる縄文土器が大量に出土し、同じく出口谷川の左岸に広がる緩斜面からは中世～近世の建物群が発見されました。

これらの発見から、調査地周辺の河川付近は、縄文人が生活するのに適した良好な場所で、中・近世には周囲の斜面を切り開いて集落を營むなど、この地域の開発過程の一端を確認することができました。五馬台地から小国へと至る狭小な谷部にあるこの地域の歴史を知る上で貴重な成果といえます。

こうした発掘調査の内容をまとめた本書が、今後、文化財の保護や活用、出口地区の歴史解明、学術研究等にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、ご協力を賜りました出口地区圃場整備組合や地元の皆様方、全ての関係者の方々に厚くお礼を申し上げます。

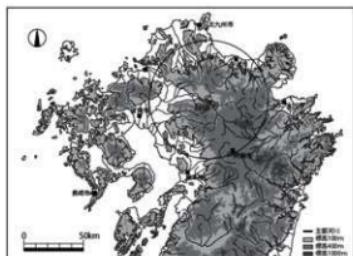
平成 29 年 3 月

日田市教育委員会

教育長 三苦 真治郎

例 言

1. 本書は、日田市教育委員会が平成 25 年度に実施した出口遺跡の調査報告書である。
2. 調査は、平成 25 年度に県営中山間地域総合整備事業の工事実施に伴い、大分県西部振興局の委託業務として日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
3. 調査に当たっては、出口地区圃場整備組合、市農業振興課に協力を賜った。
4. 発掘調査は、予備調査・本調査ともに上原が担当した。
5. 出口遺跡の測量及び空中写真撮影は、株式会社埋蔵文化財サポートシステム大分支店に委託し、その成果品を使用した。
6. 遺構の写真撮影は上原が行った。
7. 遺物実測・製図・写真撮影・遺構製図は、株式会社埋蔵文化財サポートシステム大分支店と有限会社九州文化財リサーチに委託し、その成果品を使用した。また、遺物実測・製図・写真撮影・遺物図の割付・観察表及び遺構・遺物の説明文の一部については有限会社九州文化財リサーチに委託し、その成果品を編集して使用した。
8. IVの漆椀塗膜分析は、株式会社パレオ・ラボに委託し、その成果品を編集して使用した。
9. 掲図中の方位・文中の方位角は、真北を示す。
10. 出土遺物、図面及び写真類は日田市埋蔵文化財センターに保管している。
11. 本書の執筆は I (1) については若杉が行い、III (2) の遺構・遺物文章、(3) ~ (8) の遺構文章、及びIVは委託業務の成果品を編集・加筆して使用しそれ以外を上原が行った。全体の編集は上原が行った。



日田市の位置



大分県の行政区分

本文目次

I 調査の経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の組織	4
(3) 発掘作業の経過	5
(4) 整理等作業の経過	5
II 遺跡の位置と環境	6
III 調査の内容	
(1) 調査の概要	8
(2) A 区の遺構と遺物	8
(3) B 区の遺構と遺物	45
(4) C 区の遺構と遺物	52
(5) D 区の遺構と遺物	58
(6) E 区の遺構と遺物	63
(7) F 区の遺構と遺物	64
(8) G 区の遺構と遺物	70
IV 自然科学分析	74
V 総括	77

挿図目次

第1図 工事実施区域と調査区位置図 (1/15,000)	2
第2図 調査区位置図 (1/2,500)	3
第3図 出口遺跡調査地周辺遺跡分布図 (1/25,000)	7
第4図 調査区位置図 (1/1000)	9
第5図 A 区遺構配置図 (1/100) 及び上層図 (1/80)	11
第6図 1 号土坑実測図 (1/40)	12
第7図 A 区 1 号土坑出土遺物実測図 (1/4)	13
第8図 A 区遺物包含層 (1/50)	14
第9図 A 区遺物包含層上層 (1/60)	15
第10図 A 区遺物包含層上層 (1/60)	16
第11図 A 区包含層出土遺物実測図 1 (1/4)	17
第12図 A 区包含層出土遺物実測図 2 (1/4)	18
第13図 A 区包含層出土遺物実測図 3 (1/4)	19
第14図 A 区包含層出土遺物実測図 4 (1/4)	20
第15図 A 区包含層出土遺物実測図 5 (1/4)	21
第16図 A 区包含層出土遺物実測図 6 (1/4)	22
第17図 A 区包含層出土遺物実測図 7 (1/4)	23
第18図 A 区包含層出土遺物実測図 8 (1/4)	24

第19図	A区包含層出土遺物実測図9(1/4)	25
第20図	A区包含層出土遺物実測図10(1/4)	26
第21図	A区包含層出土遺物実測図11(1/4)	27
第22図	A区トレチ出土遺物実測図1(1/4)	34
第23図	A区トレチ出土遺物実測図2(1/4)	35
第24図	A区トレチ出土遺物実測図3(1/4)	36
第25図	A区トレチ出土遺物実測図4(1/4)	37
第26図	A区出土遺物実測図1(1~6:2/3, 7:1/2)	39
第27図	A区出土遺物実測図2(2/3)	40
第28図	A区出土遺物実測図3(2/3)	41
第29図	A区出土遺物実測図4(1/2)	42
第30図	A区出土遺物実測図5(1/2)	43
第31図	A区出土遺物実測図6(1/2)	44
第32図	B区遺構配置図(1/150)	46
第33図	B区1・2号掘立柱建物実測図(1/125)	47
第34図	B区出土遺物実測図1(1/3, 4~6:16:18:1/4)	48
第35図	B区出土遺物実測図2(1/3, 16:19:1/4)	49
第36図	B区出土遺物実測図3(1/4)	50
第37図	B区出土遺物実測図4(41~43:1/4, 44:1/3)	51
第38図	B区出土遺物実測図5(1:2/3, 2・3:1/2)	51
第39図	C区遺構配置図及び土層断面図(1/200・1/60)	53
第40図	C区1号掘立柱建物実測図(1/60)	54
第41図	C区2号掘立柱建物実測図(1/60)	55
第42図	C区3号掘立柱建物実測図(1/60)	56
第43図	C区出土遺物実測図1(1~6:1/4, 7~16:1/3)	57
第44図	C区出土遺物実測図2(1/4)	57
第45図	D区遺構配置図(1/250)	58
第46図	D区堅穴建物実測図(1/60)	59
第47図	D区堅穴出土遺物実測図(1/4)	59
第48図	D区1号掘立柱建物実測図(1/60)	60
第49図	D区2号掘立柱建物実測図(1/60)	61
第50図	D区出土遺物実測図1(1/4)	62
第51図	D区出土遺物実測図2(3/4)	62
第52図	E区遺構配置図(1/200)	63
第53図	E区出土遺物実測図(1/4)	64
第54図	F区遺構配置図(1/200)	65
第55図	F区1号掘立柱建物実測図(1/60)	66
第56図	F区2号掘立柱建物実測図(1/60)	67
第57図	F区出土遺物実測図1(1/4)	68
第58図	F区出土遺物実測図2(1/2)	69
第59図	G区遺構配置図(1/200)	70
第60図	G区1号掘立柱建物実測図(1/60)	71
第61図	G区2号掘立柱建物実測図(1/60)	72
第62図	G区出土遺物実測図1(1~3・5・6:1/3, 4:1/4)	72
第63図	G区出土遺物実測図2(1:2/3, 2:1/2)	73

写 真 図 版 目 次

- 巻頭写真図版 1
出口遺跡の空中写真（西から）
- 巻頭写真図版 2
出口遺跡調査の空中写真（南から）
- 巻頭写真図版 3
出口遺跡出土縄文土器 1
- 出口遺跡出土縄文土器 2
- 巻頭写真図版 4
出口遺跡出土縄文土器 3
- 出口遺跡出土縄文土器 4
- 写真図版 1
上 調査地全景（東から）
下 調査区（C～G 区）全景（北から）
- 写真図版 2
上 A 区空中写真（南から）
中 A 区空中写真（東から）
下 C～G 区空中写真（南から）
- 写真図版 3
上 A 区包含層検出状況（北から）
中 A 区包含層検出状況（南から）
下 A 区発掘状況（北から）
- 写真図版 4
上 A 区 1 号土坑土層断面（東から）
中 A 区 1 号土坑土層断面（北から）
下 A 区 1 号土坑完掘状況（西から）
- 写真図版 5
① A 区包含層（G-2）発掘状況 1（西から）
② A 区包含層（G-4）発掘状況 2（西から）
③ A 区包含層（G-5）発掘状況 3（西から）
④ A 区包含層（G-8）発掘状況 4（西から）
⑤ A 区包含層（G-8）発掘状況 5（西から）
⑥ A 区包含層（G-10）発掘状況 6（西から）
⑦ A 区包含層（G-11）発掘状況 7（西から）
⑧ A 区包含層（G-16）発掘状況 8（西から）
- 写真図版 6
① A 区南北土層（北側）
② A 区南北土層（南側）
③ A 区東西土層（東側）
④ A 区東西土層（西側）
⑤ B 区検出状況（西から）
⑥ B 区発掘状況（西から）
⑦ B 区発掘状況（南から）
⑧ B 区 1・2 号掘立柱建物発掘状況（西から）
- 写真図版 7
① C 区空中写真（北から）
② C 区発掘状況（東から）
③ C 区発掘状況（西から）
④ C 区 1・2 号掘立柱建物発掘状況（東から）
⑤ C 区 3 号掘立柱建物発掘状況（南から）
⑥ C 区土層断面（東から）
⑦ C 区土層断面（南から）
⑧ D・E 区空中写真（北から）
- 写真図版 8
① D 区発掘状況（東から）
② D 区東側検出状況（東から）
③ D 区発掘状況（西から）
④ D 区竪穴建物土層断面（東から）
⑤ D 区 1 号掘立柱建物発掘状況（北から）
⑥ D 区 2 号掘立柱建物発掘状況（南から）
⑦ E 区発掘状況（西から）
⑧ E 区発掘状況（西から）
- 写真図版 9
① F 区空中写真 1（南から）
② F 区空中写真 2（北から）
③ F 区東側発掘状況（西から）
④ F 区 2 号掘立柱建物発掘状況（西から）
⑤ G 区空中写真（北から）
⑥ G 区発掘状況（東から）
⑦ G 区発掘状況（西から）
⑧ G 区 1 号掘立柱建物発掘状況（東から）
- 写真図版 10～16
出土遺物写真

本文写真目次

写真1 重機作業風景	5
写真2 発掘調査風景	5
写真3 整理作業風景	5
写真4 G区出土漆器椀	73
写真5 漆器椀赤色塗膜断面	76
写真6 塗膜分析資料(漆器椀)	76

表目次

第1表 県営中山間地域総合整備事業出口地区に伴う調査一覧	1
第2表 生漆と赤外吸収位置とその強度	74
第3表 赤色塗膜層等のX線分析結果	74
第4表 塗膜分析結果	75
第5表 漆器椀塗膜の赤外線スペクトル	75
第6表 出土土器観察表(1)	80
第7表 出土土器観察表(2)	81
第8表 出土土器観察表(3)	82
第9表 出土土器観察表(4)	83
第10表 出土土器観察表(5)	84
第11表 出土土器観察表(6)	85
第12表 出土土器観察表(7)	86
第13表 出土土器観察表(8)	87
第14表 出土土器観察表(9)	88
第15表 出土土器観察表(10)	89
第16表 出土土器観察表(11)	90
第17表 出土土器観察表(12)	91
第18表 出土土器観察表(13)	92
第19表 出土土器観察表(14)	93
第20表 出土石器・石製品観察表	94

I 調査の経過

(1) 調査に至る経緯

県営中山間地域総合整備事業（日田地区事業主体：大分県西部振興局農林基盤部、以下、県振興局）は、中山間地域の立地条件にあった農業の展開方向を探り、ほ場整備や農業用排水施設整備、農道整備などの生産基盤・環境整備等を総合的に行い、農業・農村の活性化を図ることにより、定住の促進・都市との共通社会基盤の形成及び国土・環境の保全に資することを目的とした事業である。今回、調査原因となったのは日田市南東部の天瀬町出口地区内の櫛迫、中村、夕川の3工区について、平成22～28年度予定で計画されたものである。これらの工区の事業実施前にはそれぞれ予備調査を実施して、遺跡の所在についての確認と協議をおこなった。その結果、本調査が必要と判断されたのは中村工区（東側）のみで、櫛迫工区については遺跡の所在が確認されたものの工事による削平の恐れがないことから工事を許可した。中村工区（西側）・夕川工区では遺跡の所在は確認されなかった。（第1表）

今回報告する中村工区（東側）は、平成24年度に大分県教育庁文化課（以下、県文化課）が実施した農林業関係事業実施予定地の分布調査の結果、周知の埋蔵文化財包蔵地（出口遺跡）に該当しており、予備調査が必要と判断された。

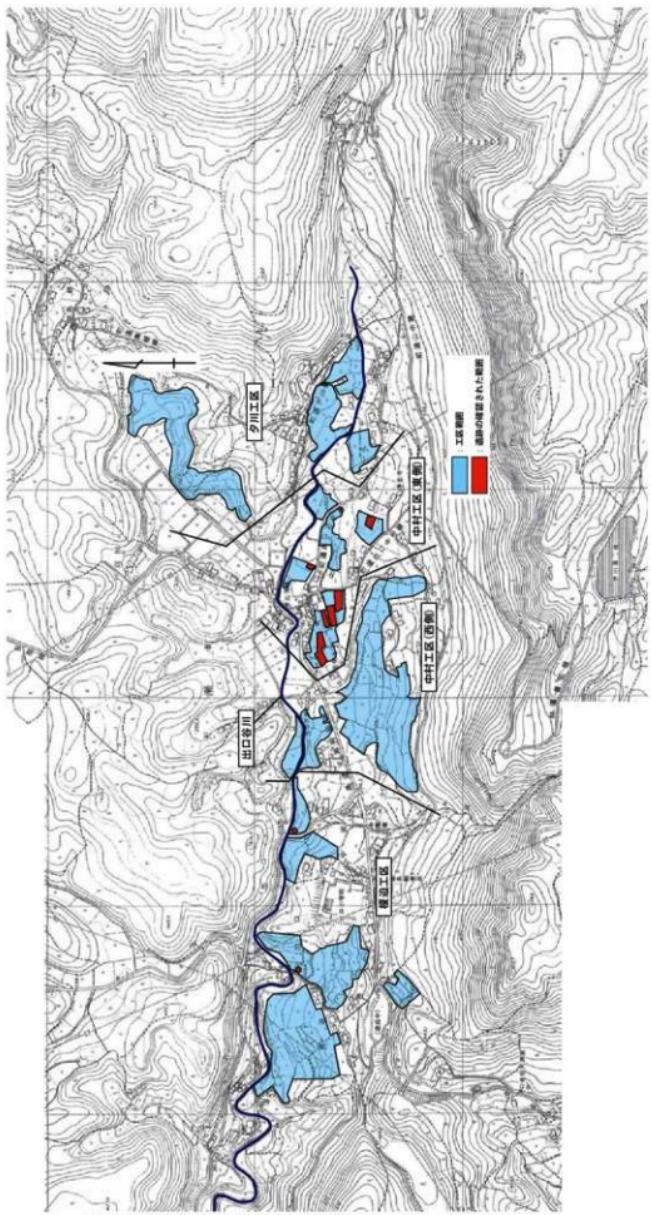
この中村工区（東側）については、平成25年度での事業実施が予定されていたため、県振興局より平成24年9月27日付けで予備調査の依頼、平成24年10月2日付けで文化財保護法第94条の通知の進依頼を受け、稟判後の平成24年11月28日～12月13日にかけて予備調査を実施した。工事対象面積3.1haのうち、基本的に工事により掘削を受ける水田を対象に調査を行い、28ヶ所（面積約334m²）のトレンチのうち、9ヶ所のトレンチから縄文土器、近世の遺構や陶磁器が確認された。県振興局へこれらの調査結果と遺跡の取り扱いについて協議が必要な旨の報告を行い、工法変更による遺跡の保存について協議を行ったものの、変更による保存措置是不可能であったことから、削平を受ける範囲7ヶ所（3,621m²）を対象に発掘調査を実施することになった。

文化財保護法のやり取りは、平成25年3月7日付けで法第94条の通知を大分県教育委員会あてに進達し、同年3月21日付で調査実施の通知を受け、同年3月25日付で県振興局あてに伝達を行った。

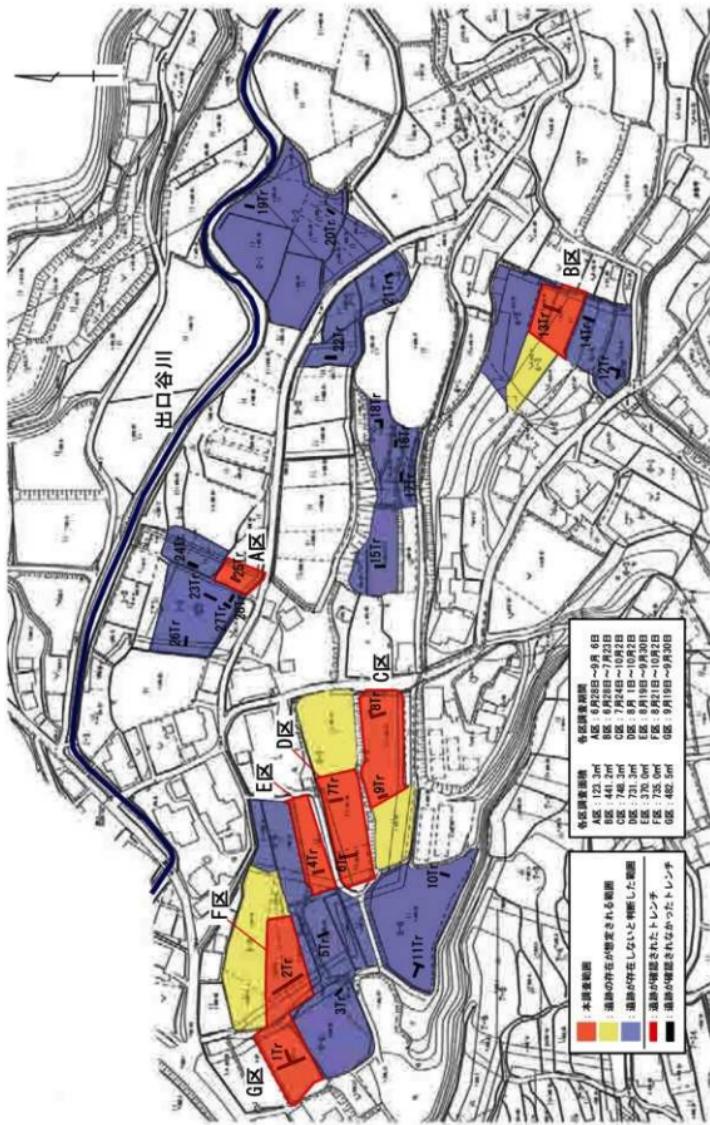
平成25年4月24日には調査費や調査期間、調査前の地元への周知、調査中の工事との調整等について、県振興局と確認を行い、5月13日付で契約を締結、5月15日より調査に着手することとなった。

第1表 県営中山間地域総合整備事業出口地区に伴う調査一覧

	工事 年度	工事 面積 (ha)	調査 面積 (m ²)	遺跡 の有無	処置	予備 調査	調査 期間	本調査	整理 作業	報告書 刊行	備考
櫛迫工区	平成 22年度	6.5	132	有	慎重工事	平成 22年度 12/24	12/8～ 12/24	-	-	-	遺跡の破壊の恐れが少 ない為、工事を許可。
中村工区 (東側)	平成 26年度	3.1	334	有	本調査	平成 24年度 12/23	11/28～ 24年度 12/23	平成 25年度 26・27 年度 (本年度)	平成 26・27 年度 (本年度)	平成 28年度 (本年度)	
中村工区 (西側)	平成 26年度	6.0	255	無	慎重工事	平成 25年度 12/6	11/20～ 25年度 12/6	-	-	-	
夕川工区	平成 27年度	5.4	322	無	慎重工事	平成 26年度 11/25	10/31～ 26年度 11/25	-	-	-	



第1図 工事実施区域と調査区位置図 (1/15,000)



第2図 調査区位置図 (1/2,500)

(2) 調査の組織

発掘調査・整理作業に関する組織は以下の通りである。また、職名は当時のままとしている。

平成25年度（2013）／発掘調査

調査主体	日田市教育委員会
調査責任者	合原多賀雄（日田市教育委員会教育長）
調査総括	財津俊一（日田市教育庁文化財保護課長）
調査事務	園田恭一郎（同埋蔵文化財係長）、華藤善紹（同副主幹） 行時桂子（同主査）、渡邊隆行（同主査）、若杉竜太（同主査）
調査担当	上原翔平（同主任）
発掘作業員	綾垣みづ子、石松武夫、岩下愛子、小関美智子、小野スマ、小野高住、小野ヤチ子、梶原恵子、梶原ハル美、加藤祐一、合原建國美、財津真弓、酒井玉子、佐藤シゲ子、武原シヨリ、竹本和則、林豊子、松下宣男、森山敬一郎、山中タカ子、山中ヤエ子、山本シゲ子

平成26年度（2014）／整理作業

調査主体	日田市教育委員会
調査責任者	合原多賀雄（日田市教育委員会教育長）～6月 三吉眞治郎（日田市教育委員会教育長）7月～
調査総括	財津俊一（日田市教育庁文化財保護課長）
調査事務	園田恭一郎（同埋蔵文化財係長）、行時桂子（同主査）、渡邊隆行（同主査） 若杉竜太（同主査）、諫山温子（同主査）
整理担当	上原翔平（同主任）
整理作業員	伊藤一美、黒木千鶴子、高田美保、武石和美、安元百合

平成27年度（2015）／整理作業・報告書作成

調査主体	日田市教育委員会
調査責任者	三吉眞治郎（日田市教育委員会教育長）
調査総括	柴尾健二（日田市教育庁文化財保護課長）
調査事務	園田恭一郎（同埋蔵文化財係主幹（総括））～9月 古賀信一（同埋蔵文化財係主幹（総括））10月～、行時桂子（同主査）、渡邊隆行（同主査） 若杉竜太（同主査）、諫山温子（同主任）
整理担当	上原翔平（同主任）
整理作業員	伊藤一美、黒木千鶴子、田中美保、武石和美、高瀬真奈美、用松操、吉田里美

平成28年度（2016）／整理作業・報告書作成、印刷

調査主体	日田市教育委員会
調査責任者	三吉眞治郎（日田市教育委員会教育長）
調査総括	池田寿生（日田市教育庁文化財保護課長）

調査事務 古賀信一（同埋蔵文化財係主幹（総括））、渡邉隆行（同主査）、行時桂子（同主査）

若杉竜太（同主査）、長祐一郎（同主査）

整理担当 上原翔平（同主任：報告書担当）

整理作業員 伊藤一美、高瀬真奈美

（3）発掘作業の経過

発掘作業は、平成25年5月15日より着手した。調査箇所が7ヶ所に分かれていた為、大きく東側（A・B区）と西側（C～G区）に分けて調査を行った。東側部分を先行して実施し、終了後に随時西部振興局に引渡した。

調査の主な経過は以下の通りである。

5月15日 機械を用いて表土剥ぎを開始（A～G区）

6月28日 A・B区の遺構検出を開始

7月 5日 B区の遺構掘り下げを開始

7月23日 B区の調査終了

7月24日 C区の遺構検出を開始

7月25日 A・B区の測量を順次開始

8月 1日 D区の遺構検出開始

8月19日 E区の遺構検出開始

8月21日 F区の遺構検出開始

8月22日 A区の遺構掘り下げを開始

9月 6日 A区の調査終了、A・B区を西部振興局に引き渡す

9月 9日 C～G区の測量を順次開始

9月26日 空中写真撮影を実施

9月30日 E・G区の調査終了

10月2日 C・D・F区の調査終了、器材等の整理・撤収を行い現場完了



写真1 重機作業風景

（4）整理等作業の経過

整理等作業は、調査終了後の平成26年8月より開始し、平成27年8月に整理作業を終了した。この中で器面の剥落で脆くなっている土器については、バインダー処理を施している。平成26・27年度には遺物実測等委託を行い、平成28年度には報告書刊行の執筆委託と印刷、収納に向けた整理を実施した。



写真2 発掘調査風景



写真3 整理作業風景

II 遺跡の位置と環境

日田市は、大分県西部、筑後川上流域に位置し、標高 80m 前後の沖積地に広がる市街地の周辺を標高約 150m 前後の阿蘇溶岩台地が廻り、その外周を標高 200 ~ 600m の耶馬渓溶岩台地が、さらに市の境界域では 700 ~ 1,000m 級の山々が連なって盆地の景観を形成する。

遺跡は、日田市南東部の台地の一つである五馬台地（旧日田郡天瀬町）に所在する。この台地は、天瀬町を南北に分断する玖珠川によって形成された深い谷の南側に位置する。

出口遺跡の所在する天瀬町出口は、標高 300 ~ 450m の高度で平坦な台地が展開し、東と南に向かって次第に高くなる山地に続いている。東は標高約 600 ~ 700 m の起伏の小さい山地で山浦川を越えて玖珠町の万年山の麓に広がる高原に続き、南は小国町に接して湯ノ見岳（740.5 m）、その東には旧天瀬町域で最も高い龜石山（942.6 m）、北東に黒山（925m）等の山があり、旧天瀬町域で最も高い山地を形成している。

こうした台地を形成する大小の谷部には、湧水や小河川がみられ、それを利用した人々の生活の痕跡が多く残されている。以下は、これまで調査された遺跡について概観していく。まず台地南東部、ノヲガケ遺跡⁽⁴⁾は標高約 700 m の緩斜面に位置する。調査では、縄文時代前期以降と考えられる落とし穴状遺構が確認された。この落とし穴状遺構の配置に規則性はなく、谷の周囲に配置し水場に集まる動物を狙ったものと考えられる。また、ノヲガケ遺跡の南東側にある高瀬遺跡⁽⁵⁾は標高 670 m 前後の丘陵地に位置する。調査では旧石器時代の遺物包含層と焼けた礫群が確認されたほか、多くの炭化物が検出された。年代測定の結果、約 34,000 年以上前のものと確認され、日田市域の遺跡の最古例となっている。

高瀬遺跡の南西側の丘陵地にある平草遺跡⁽⁶⁾では、旧石器時代の細石刃・細石核・スクレイバー・ナイフ形石器、縄文時代では早期の集石炉や土器に加え、前・中・晚期の土器、弥生時代の遺物などが出土している。さらに平草遺跡の南側に位置する龜石山遺跡⁽⁷⁾では後期旧石器時代終末の細石刃が 12,000 点以上出土したほか、縄文時代早期の台石群や押型文土器、無文土器や石礫などの遺物が出土している。また、台地南西部の井川遺跡⁽¹⁶⁾では鉄塔建設に伴う確認調査において旧石器時代の剥片が出土しており、山頂付近の平坦部が当時の狩猟ルート上にあったものと考えられる。

次に台地中央部の塙田地区では、西遺跡⁽⁸⁾において旧石器時代の遺物や時期は不明であるが、落とし穴状遺構が発見され、合楽川沿いの丘陵上に位置する平原遺跡⁽⁹⁾では、縄文時代早期の遺物包含層や祭祀に利用されたとみられる中世の土坑、17 世紀初頭から 18 世紀後半の掘立柱建物群などが確認されている。特に近世の建物群は丘陵の北側斜面を削った、居住に適さない場所にある。同じく、合楽川沿いの河岸段丘上に位置する原ノ久保遺跡⁽¹⁰⁾では、近世の掘立柱建物跡やトイレ遺構が確認され、庄屋屋敷の跡と想定されている。その立地の違いから身分の違いを看守され、当時の社会背景を考える上で有効な資料と位置づけられている。この原ノ久保遺跡南側の丘陵斜面にある山田遺跡⁽¹¹⁾は、旧石器時代・縄文時代の遺物包含層や 15 世紀中葉から 17 世紀前葉の土坑墓・火葬墓、近世の掘立柱建物跡が確認されている。

一方、台地北西部の五馬市地区では、東西に延びる丘陵上に位置する宇土遺跡⁽¹²⁾において、A T 層下位から台形石器やナイフ形石器が出土し、そのほか縄文時代の貯蔵穴とみられる遺構や早期～中期にかけての遺物のほか、弥生時代中期中葉から古墳時代初頭の集落や墓域、古墳時代中期の石棺系竪穴式石室を主体とする古墳などが確認されている。宇土遺跡の西側に位置する大坪遺跡⁽¹³⁾では、旧石器時代の細石器文化期、ナイフ形石器段階の遺物や礫群、弥生時代中期から古墳時代初頭の墓地などが確認されている。宇土遺跡南東側に位置する中尾原⁽¹⁴⁾・杉ソノ⁽¹⁵⁾遺跡は、旧石器時代や縄文時代の遺物・落とし穴状遺構、弥生時代後期中葉から古墳時代初頭の集落、古墳時代中期を中心とした石棺系竪穴式石室、箱形石棺などから成る墓地が確認されている。

このほか、今回の圃場整備に伴う予備調査の結果、中園遺跡⁽²⁾では縄文土器や石器が、迫遺跡⁽³⁾では、縄文土時代早期の土器が出土している。本来の埋没状況を示すものではないが、周辺にこの時期の遺跡があったことを想定させる。

*括弧内の番号は、第3図の遺跡名に対応している。

参考文献

中島国夫「日田盆地のなりたち」『日田市三十年史』日田市 1974

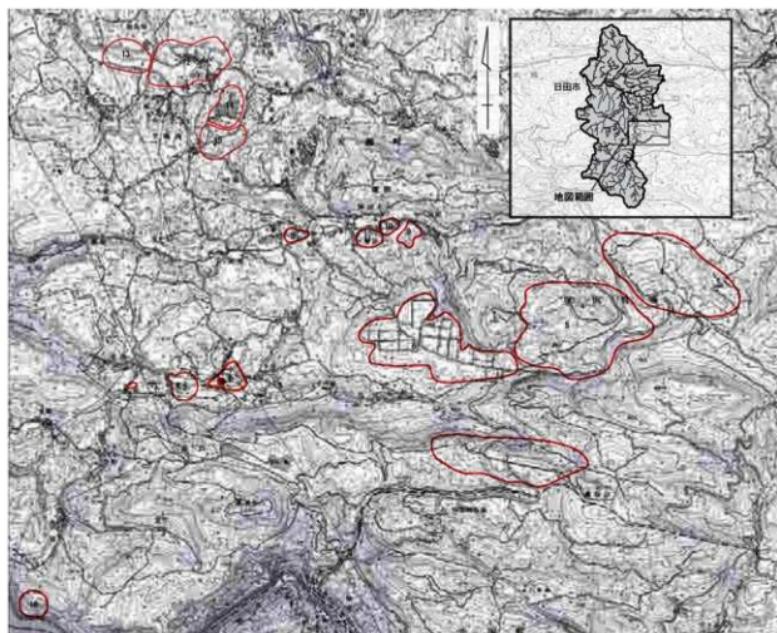
日田市「日田市史」1990

橋溝宏佳「日田市周辺の地形」『日田・玖珠地域・自然・社会・教育』大分大学教育学部 1992

千田昇「日田・玖珠地域の地形 -とくに台地地形について-」『日田・玖珠地域・自然・社会・教育』大分大学教育学部 1992

今田秀樹・後藤宗俊・橋昌信「天瀬の道路」『天瀬町誌 明日への提』天瀬町 2005

*各調査報告書については、削除した。



- | | | | |
|-----------|----------|------------|-----------|
| 1. 出口遺跡 | 5. 高瀬遺跡 | 10. 原ノ久保城跡 | 15. 杉ソノ遺跡 |
| (●が調査位置) | 6. 平草遺跡 | 11. 山田遺跡 | 16. 井川遺跡 |
| 2. 中園遺跡 | 7. 亀石山遺跡 | 12. 宇上遺跡 | |
| 3. 迫遺跡 | 8. 西遺跡 | 13. 大坪遺跡 | |
| 4. ノヲガケ遺跡 | 9. 平原遺跡 | 14. 中尾原遺跡 | |

第3図 出口遺跡調査地周辺遺跡分布図 (1/25,000)

III 調査の内容

(1) 調査の概要 (第4図)

調査は中村工区（東側）の工事対象面積 3.1ha の内、遺構が確認された区画で、工事によって遺跡が破壊される A～G 区の 7ヶ所を対象に実施した（第2図）。A 区を除いて調査区は付近を流れる出口谷川によって形成された谷部の緩斜面に位置する。調査面積は、7ヶ所合計で 3,632m²である。

基本層序は、表土・水田盤を除いた後すぐに黄褐色土（ローム層）の自然堆積層に黒褐色土、灰褐色土の埋土を持つ遺構が検出されている。黒褐色土は繩文時代後期頃の埋土で、出口谷川の沖積地に位置する A 区でのみ確認されている。その他の調査区はほとんどが灰褐色土の埋土で中世から近世頃のものと考えられ、色が明るくなるにつれて時期が新しくなる傾向が見られた。また B から D 区に関しては、緩斜面に位置していることから遺構検出までの深さが北側と南側で約 40cm 程度なっており、そのため、C・D 区では部分的に自然堆積層のベルト状の黒色帯が検出された。F・G 区も基本層序は C・D 区などと同様だが、G 区の検出面から礫が多く確認された。G 区は周間に比べて旧地形が高く、その分大きく削平を受けたことで礫層まで到達しているものと考えられる。

なお、土層の記録に関しては、C 区の土層以外の記録を失念したため、文書による説明のみとなっている。

以下、検出遺構及び遺物について区ごとに説明する。なお、文章中に記載している時期区分や産地については、V 総括に記載している参考文献（P79・80）に基づいている。

(2) A 区の遺構と遺物 (第5図、図版2・3)

A 区は調査区の中で最も出口谷川に近く、南側には出口谷川支流が流れている。調査区の中では最も標高が低い 396m 前後に位置する。調査面積は 123.3m²で、地形は南に流れる出口谷川の支流に向かって緩やかに傾斜している。基本層序は地表から約 60cm の厚さで水田層・水田盤を確認した。その下位で黒褐色土の包含層が約 20cm の厚さで堆積している。この包含層は、南側に向うに従って薄くなっている。その下位からは黄褐色土のローム層、礫を多く含む黄灰色砂質土の自然堆積層が確認される。

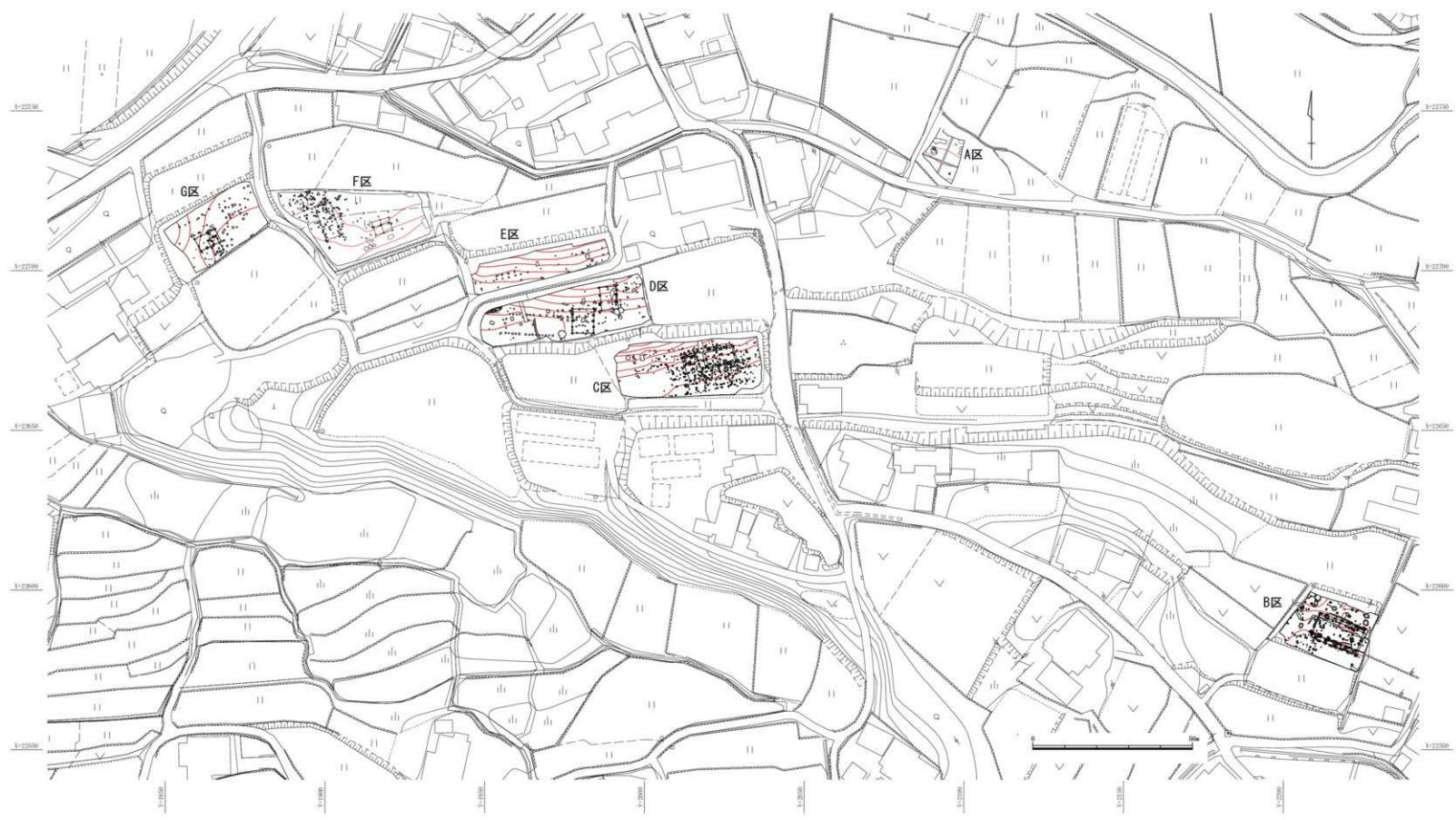
調査では、土坑 1 基、ピットと遺物包含層が確認された。なお、遺物包含層調査のため、調査区南側をグリット分割して調査した。

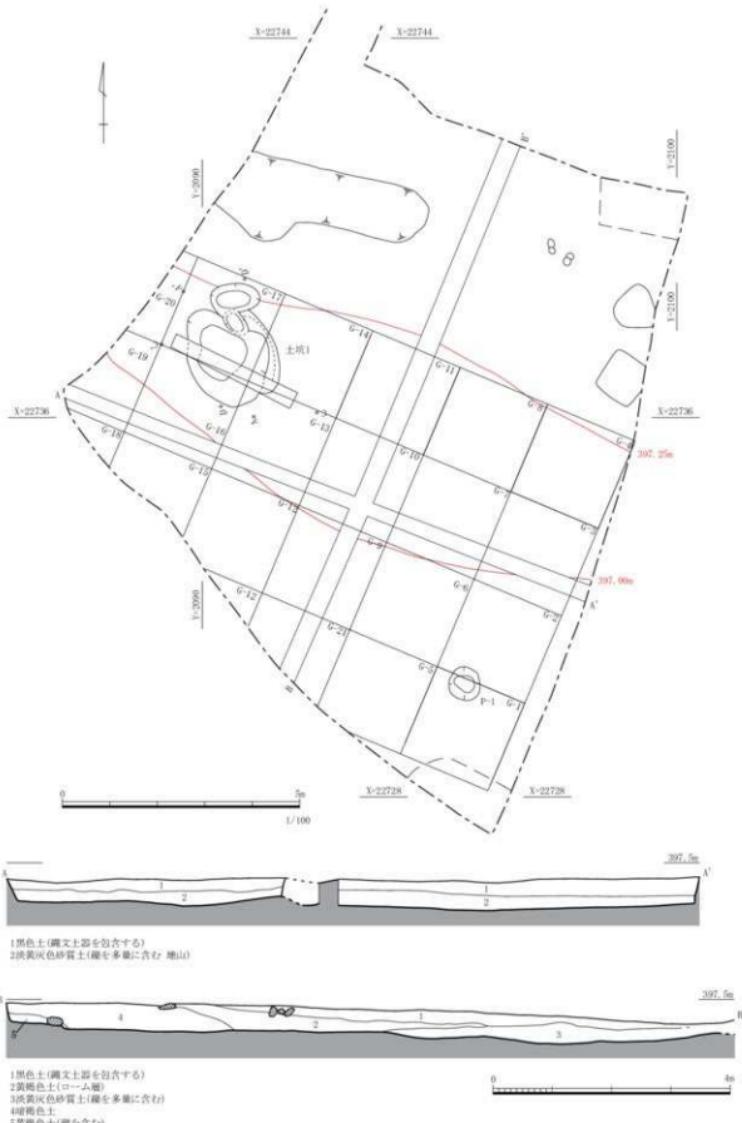
1. 土坑 (第6図、図版4)

1 号土坑は調査区西側 G13・14・17・16 グリッドにわたって検出した。包含層を 10cm 程度除去した段階で、掘り方を確認できた。平面形は、やや不定形の円形である。床面はわずかに舟底状を呈し、壁は北側及び西側がやや角度を付けて立ち上がり、南側及び東側がやや緩やかに立ち上がる。規模は南北軸 2.6m 東西軸 1.9m、検出面からの深さは約 20cm を測る。埋土は黒褐色土に黄褐色土が挟まれた状態で堆積しているものの、比較的に単純な層位と思われることから、短期間に埋没したものと思われる。その用途は不明であるが、遺構埋土は後述する包含層と同様である点や出土している遺物が包含層の時期とあまり差がないことから、この土坑は包含層と同時期に埋没した遺構であると考えられる。

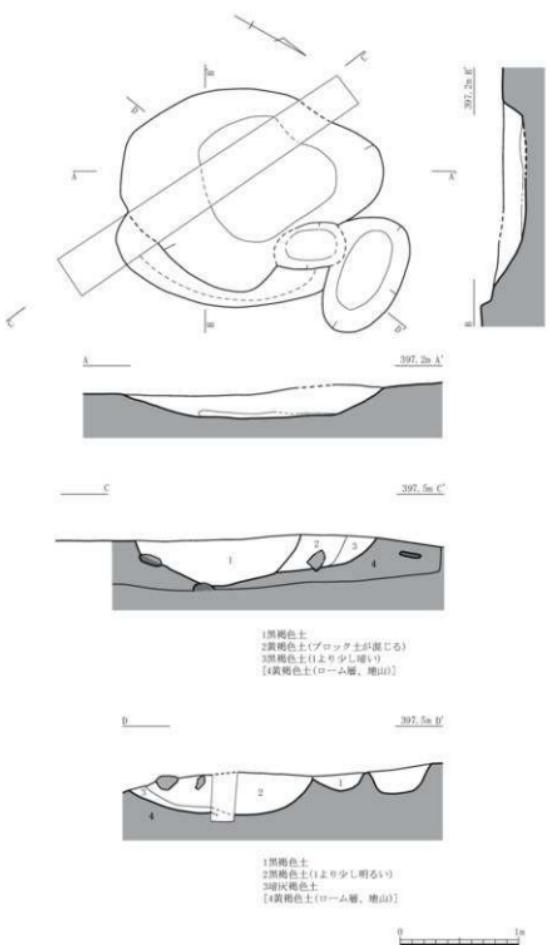
出土遺物 (第7図、図版10)

1 は深鉢の口縁部である。口唇部に隆起を貼り付け、刻目が施される。その他に施文はない。調整は丁寧なナデ調整がおこなわれており、内面には調整痕が明瞭に残る。





第5図 A区遺構配置図 (1/100) 及び土層図 (1/80)



第6図 1号土坑実測図(1/40)

色土層である。この包含層に対し、2m グリッドを設定し遺物の取り上げをおこなった。

出土遺物は縄文土器を主体とする第1~1図から第2~3図267までである。縄文時代後期前葉から中葉にかけての西日本に起源を持つ磨消縄文土器や北・中九州に起源を持つ凹線文系の土器が中心となっている。遺物の出土状況を面的(第9図)に見ると、調査区北東及び北西、南西側に集中しており、南東部では出土量が減少している。土器の時期を見てみると、後期前葉から中葉にかけての磨消縄文土器である第1~1図3や7の同時期

2は深鉢の口縁部である。口唇部に刻目が施され、2条の沈線文の間に斜位の短沈線文が施される。内外面とも条痕調整後にナデ調整がおこなわれる。

3・4は深鉢の口縁部である。口唇部に刻目が施される波状口縁で、口縁部に幾何学文様の凹線文が施される。工具は半截竹管と見られる。条痕調整をおこなった後にナデ調整がおこなわれ、内面に調整痕が明瞭に残る。角閃石や雲母片などを胎土に含み、胎土は精微である。

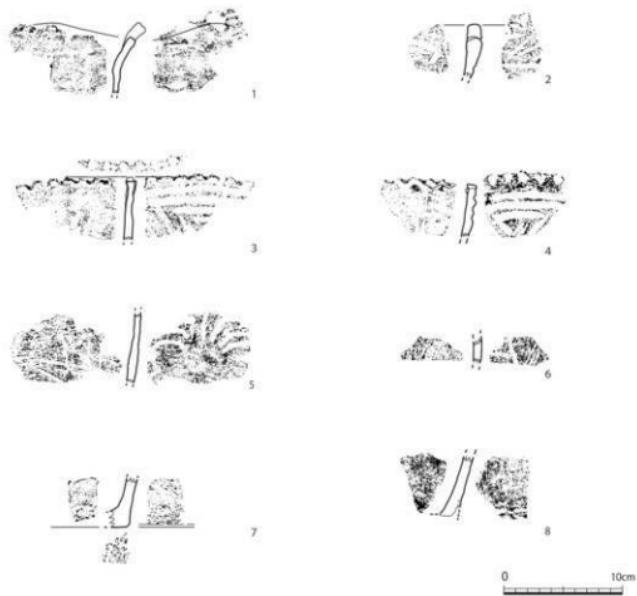
5は深鉢の頸部もしくは胴部で、ほぼ口縁部に近い箇所と見られる。沈線文が施され、その下に施文はない。調整は内外面とも条痕調整で、内面には調整痕が明瞭に残っており、外面上には条痕調整後にナデ調整をおこなっている。

6は深鉢と見られる胴部である。沈線文が施されている。調整は内外面とも二枚貝による調整と見られる。7は浅鉢または深鉢の底部である。内外面ナデ調整で、外面上には調整痕が明瞭に残る。底面には成形痕または組織痕が残る。8は深鉢の底部に近い胴部で、胴部と底部との接合部で剥離している。

2. 包含層

(第8~10図、図版5・6)

調査区南側に深さ約20cm前後で括りを見せる、遺物を多く含む黒

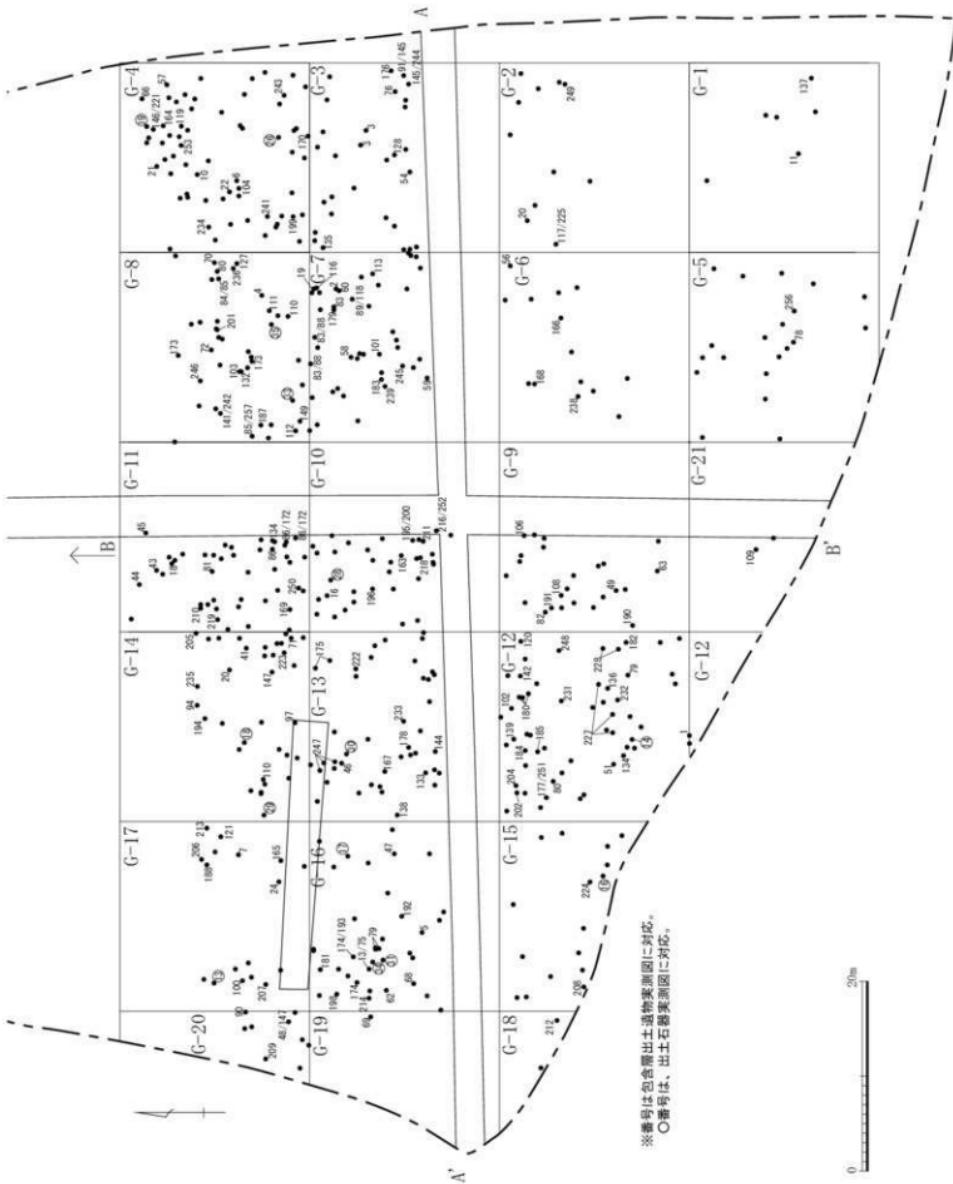


第7図 A区1号土坑出土遺物実測図（1/4）

の土器が離れて出土し、波状口縁で内外面条痕調整の縄文時代中期末から後期前葉の土器である第14図83や後期前葉から中葉にかけての磨消縄文土器である第16図133が隣接し出土している。こうしたことから、時期による面的なまとまりを見ることは出来ない。

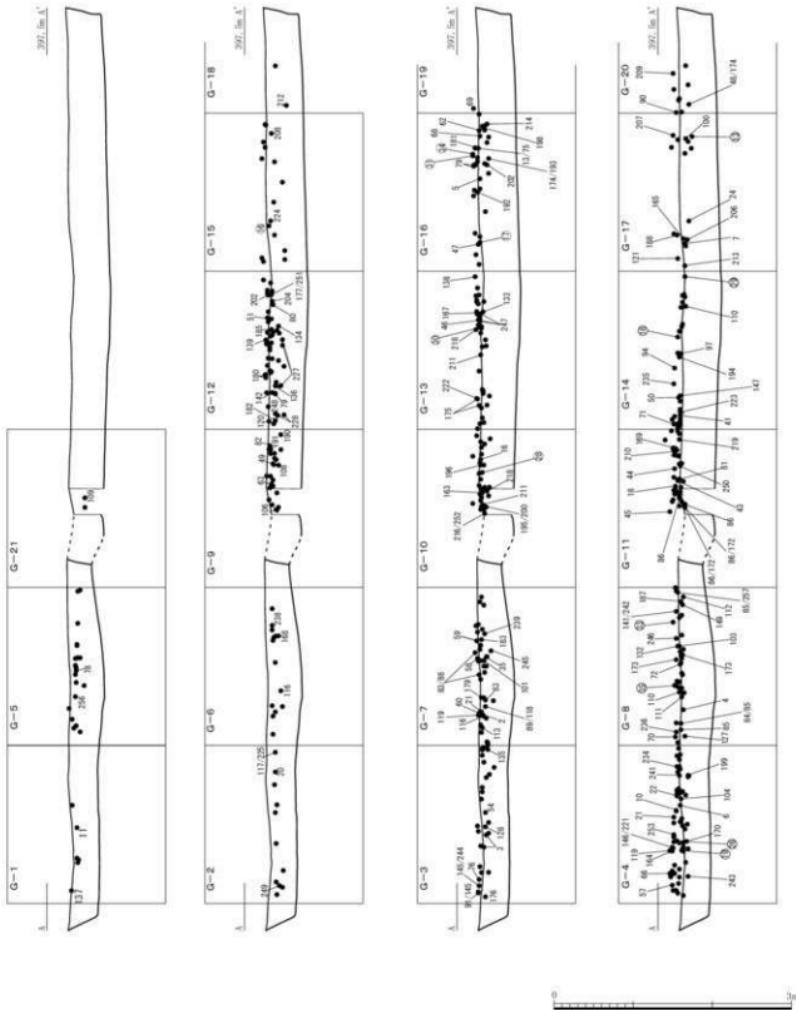
次に、出土深度による出土状況（第9・10図）を見ると、A-A'、B-B'とも第1層の黒色土層に集中していることが見て取れる。第11図1の磨消縄文土器が第1層上面に出土し、1とほぼ同時期の第16図133が第1層下面から出土している。また第11図24の西和田式の鉢と第11図7の中津式の鉢がほぼ同じレベルで出土し、また第11図13のコウゴー松式の深鉢と第13図75の出水式の深鉢が同レベルで出土している。このことから、その深度によって遺物の時期が上下することなく出土しており、時期差がほとんどないことがわかる。このことから、この包含層は、長期間にわたって徐々に堆積したものではなく、短期間にまとめて堆積したものと考えられる。

また、出土遺物を見ると摩滅している土器が少なく、流れ込みなどによるローリングの影響を受けていない。このほか、炭化物や焼土などが出土していないことから生活面とは考えづらい。この包含層については、縄文時代後期に周囲の生活面から廃棄された遺物の堆積層であり、土器捨て場のような場所であった可能性を考えたい。また、この包含層が調査区の南側にのみ拡がりを見せることは、調査区周辺が耕作地化する段階で、削平を受けたために部分的に残ったものと考えられる。

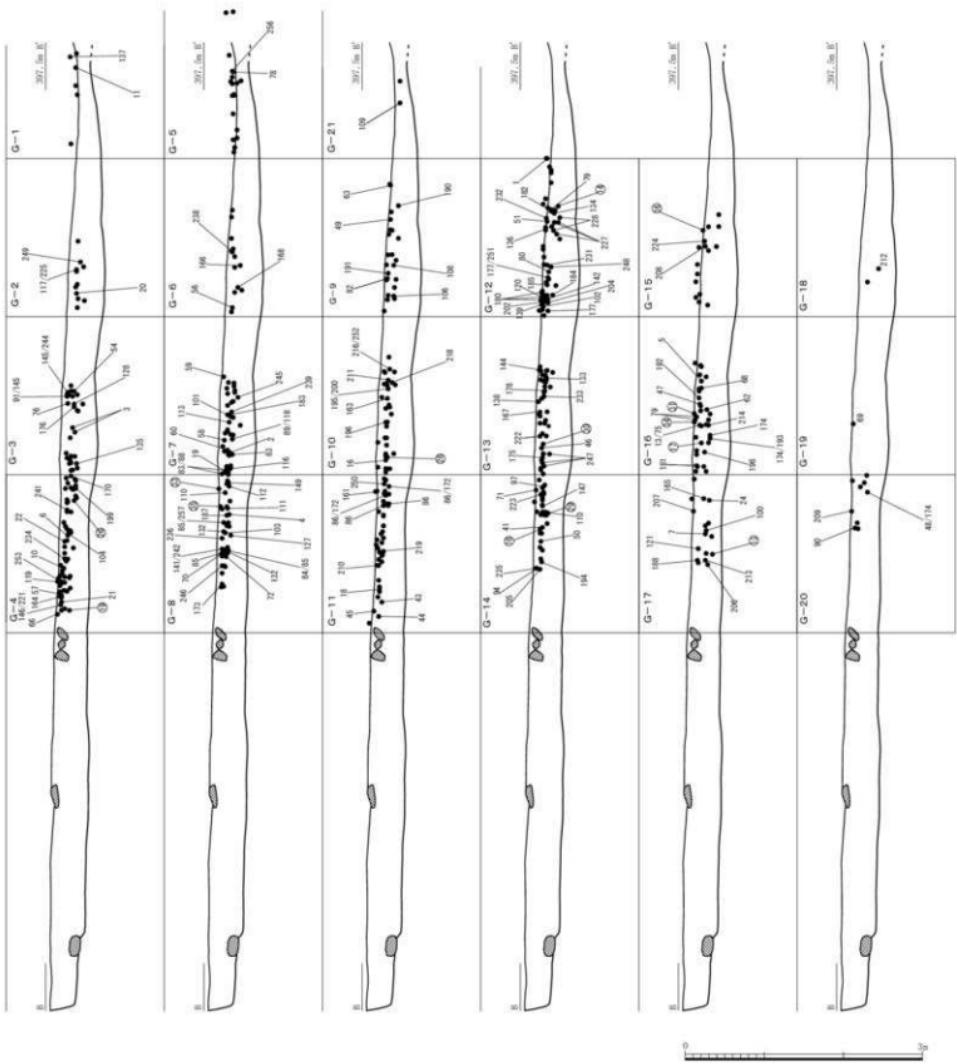


第8図 A区遺物包含層 (1/50)

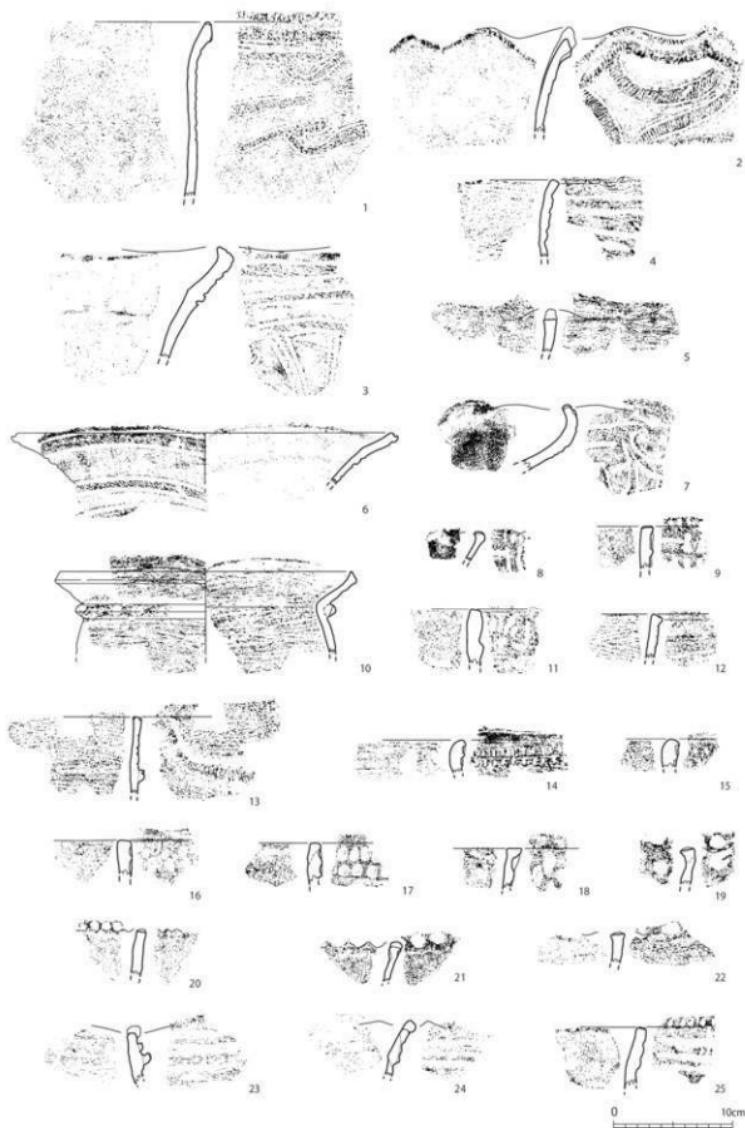
※番号は出土遺物実測図に対応。
○番号は、出土石器実測図に対応。



第9図 A区遺物包含層土層図1 (1/60)



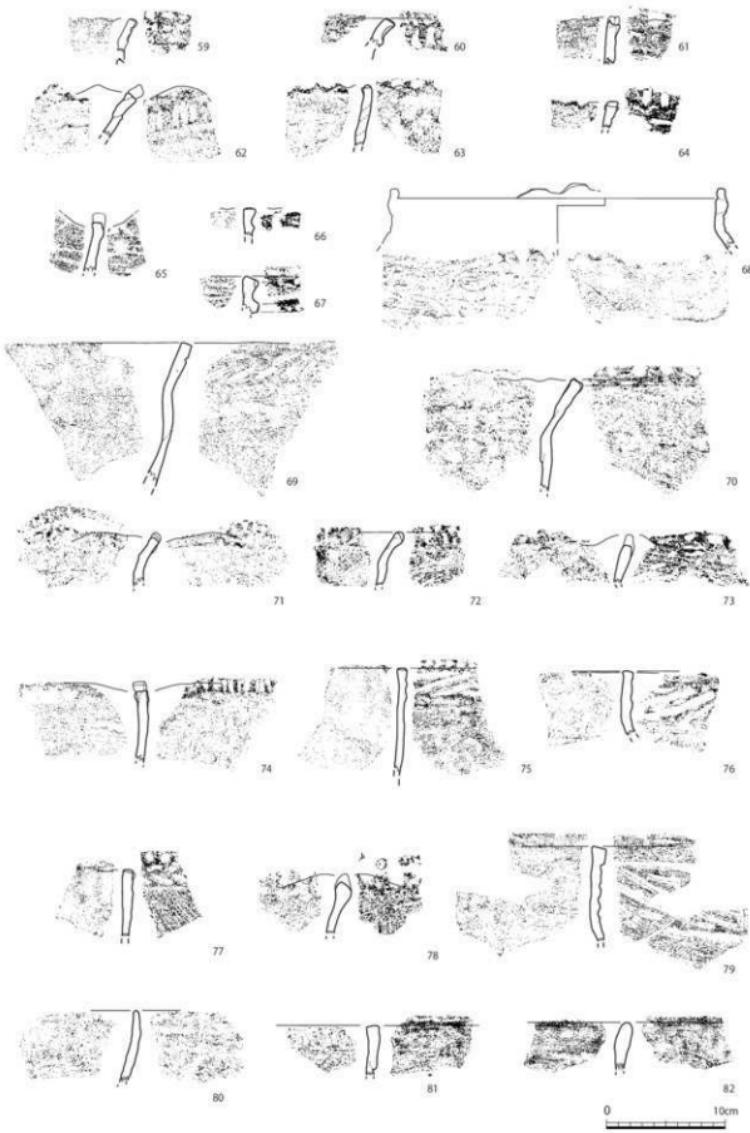
第10图 A区遗物包含层土层图 2 (1/60)



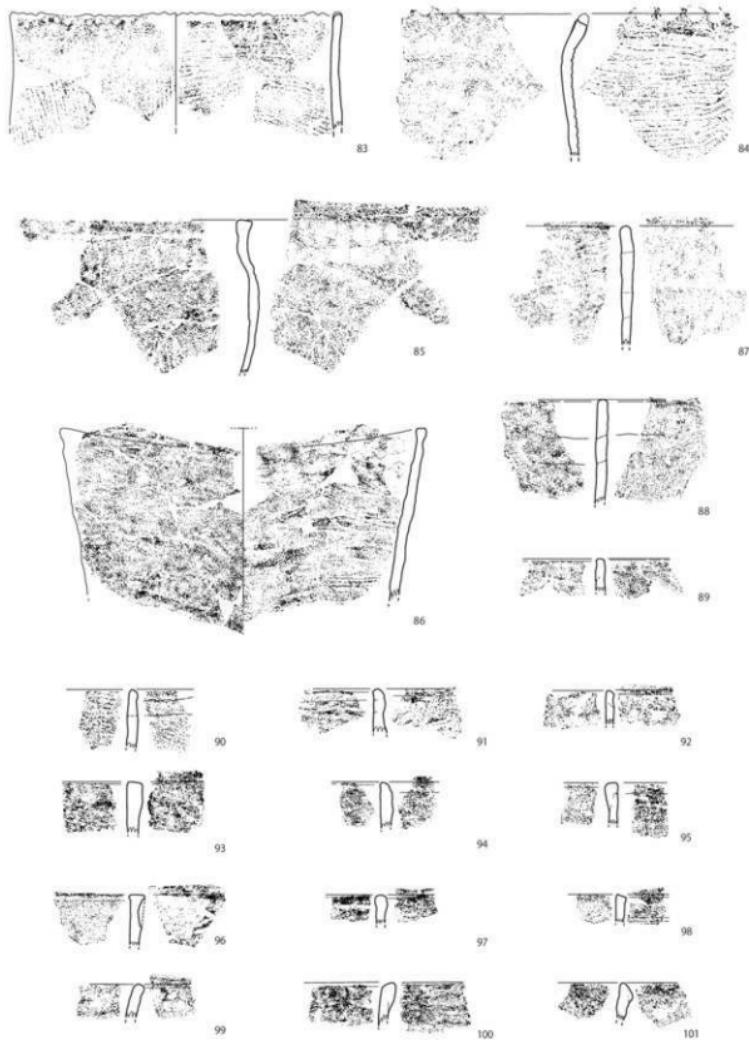
第11図 A区包含層出土遺物実測図1 (1/4)



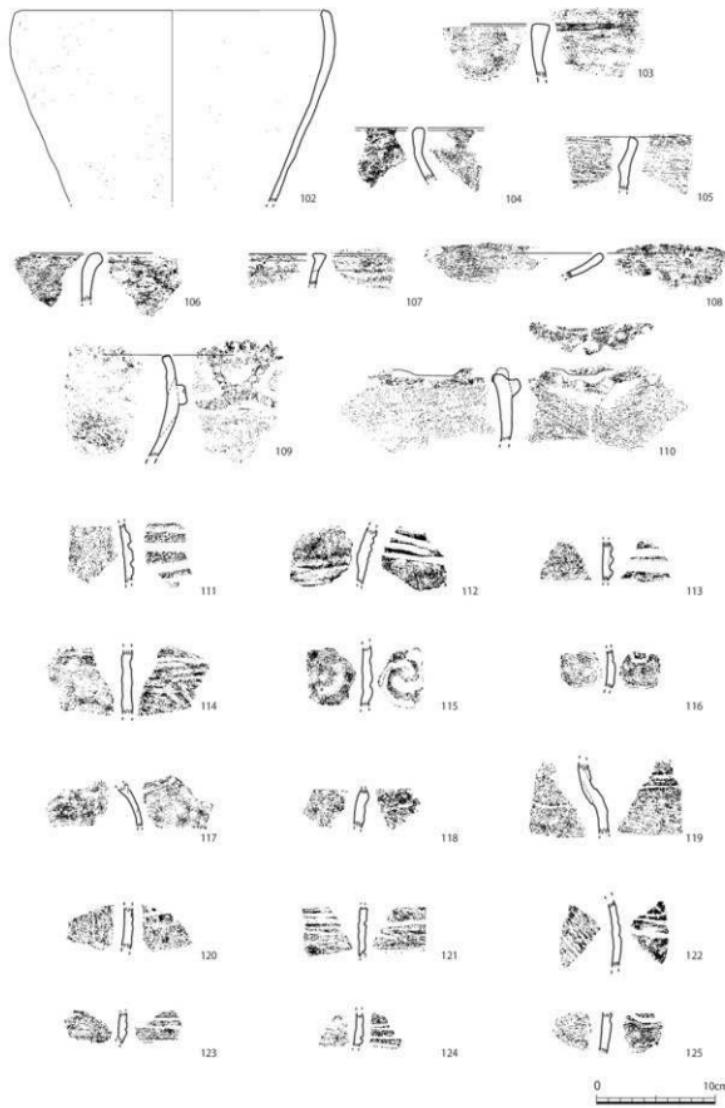
第12図 A区包含層出土遺物実測図2 (1/4)



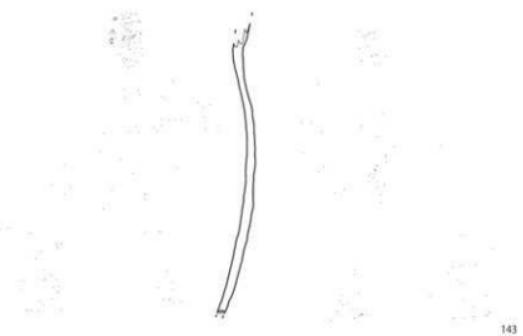
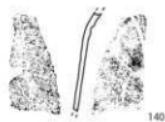
第13図 A区包含層出土遺物実測図3 (1/4)



第14図 A区包含層出土遺物実測図4 (1/4)

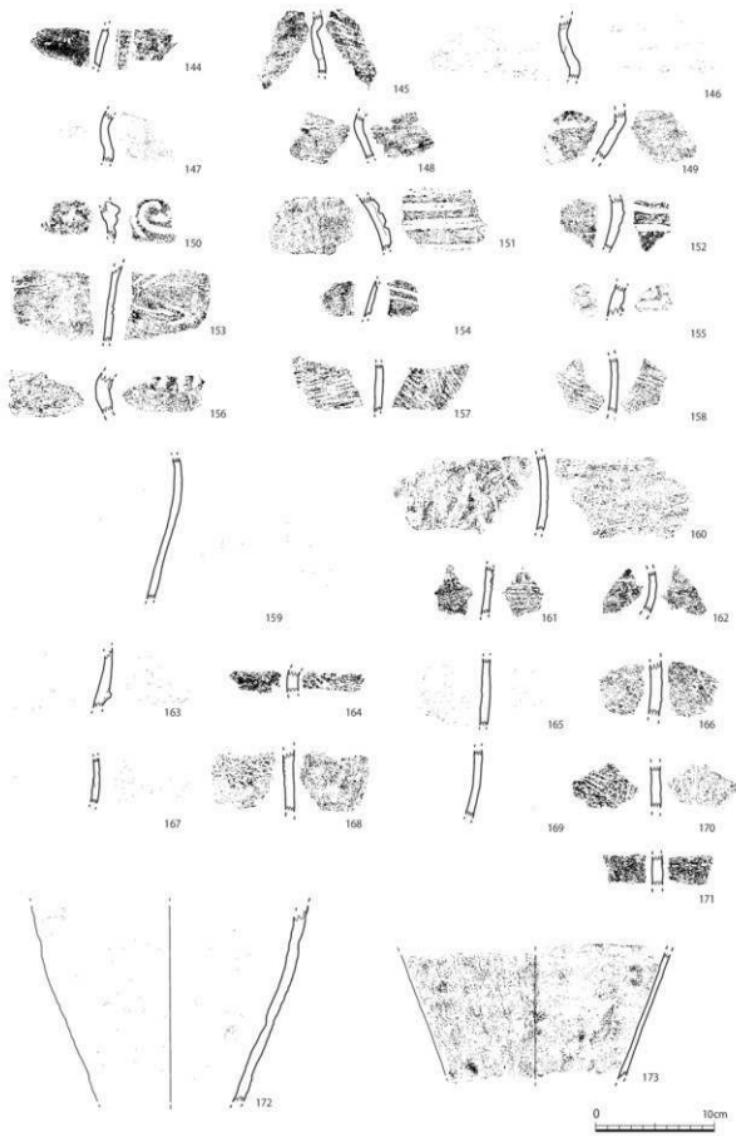


第15図 A区包含層出土遺物実測図5 (1/4)

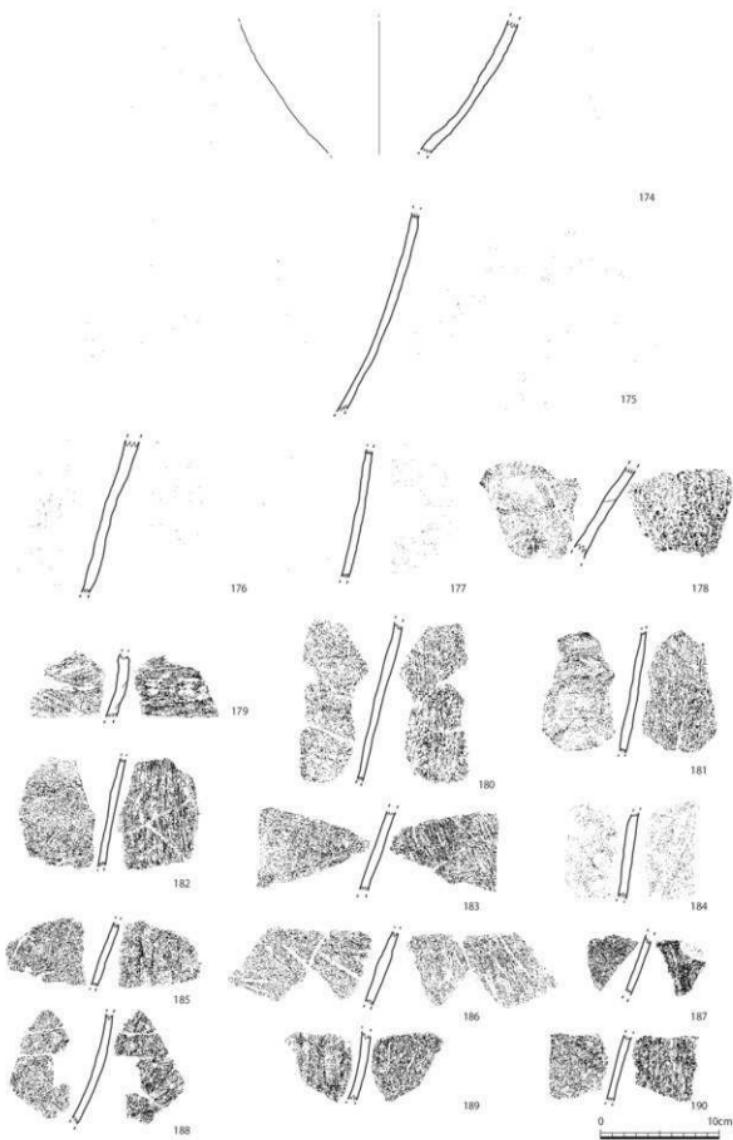


0 10cm

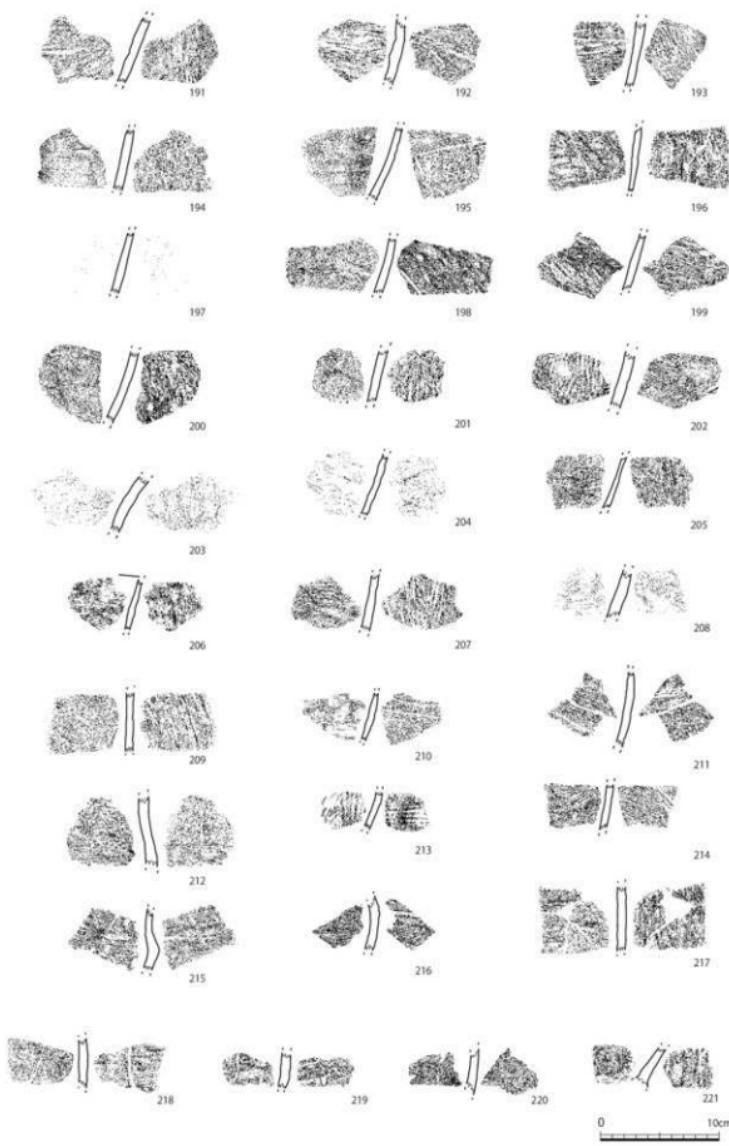
第16図 A区包含層出土遺物実測図6 (1/4)



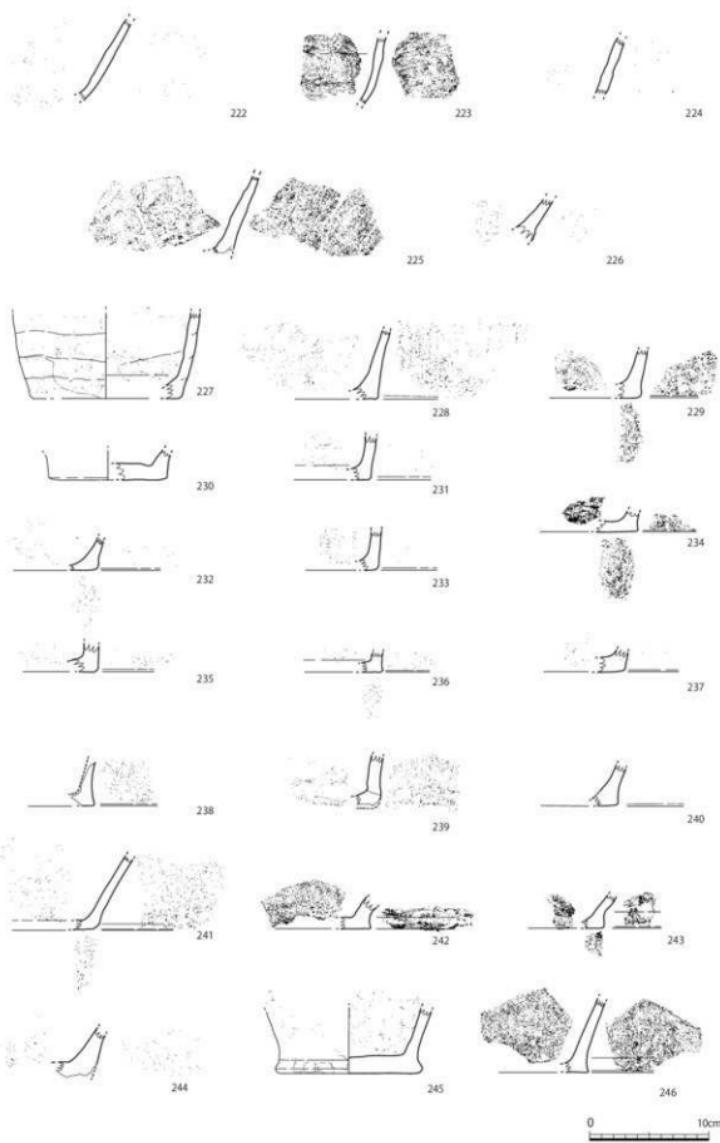
第17図 A区包含層出土遺物実測図7 (1/4)



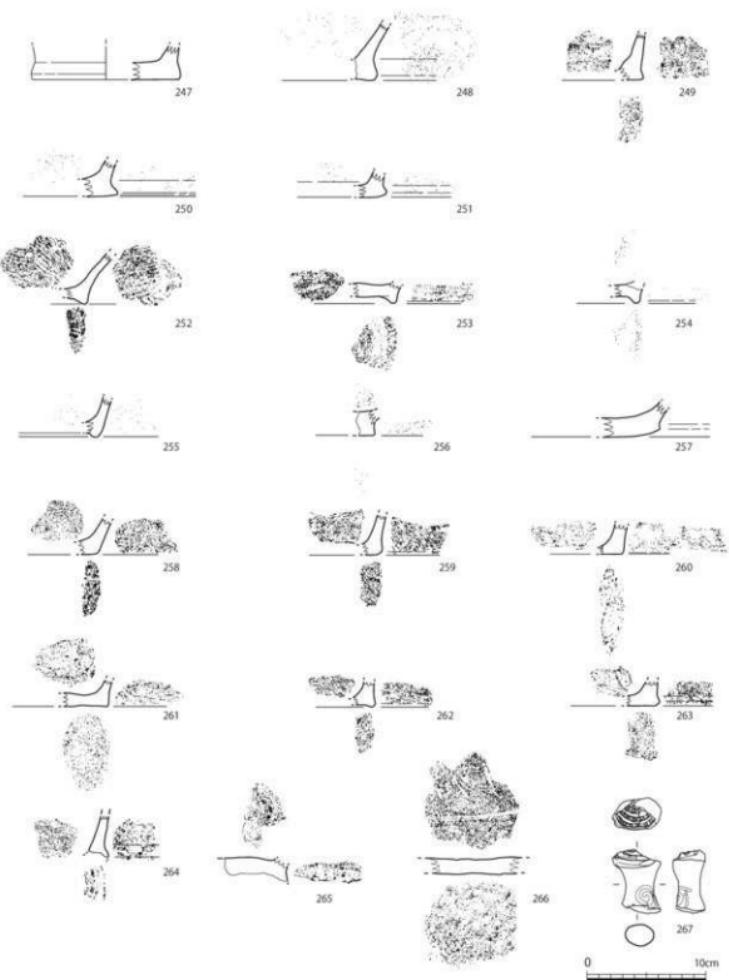
第18図 A区包含層出土遺物実測図8 (1/4)



第19図 A区包含層出土遺物実測図9 (1/4)



第20図 A区包含層出土遺物実測図 10 (1/4)



第21図 A区包含層出土遺物実測図11 (1/4)

出土遺物（第11～21図、図版10～15）

1から3・6から8は沈線区画内に縄文もしくは二枚貝腹縁による連続刺突文が施される土器である。1から3・6は深鉢で、7は口縁部が内済する鉢、8は小片のため不明確だが深鉢になると見られる。1・2は口唇部に刻目、口縁部に刻目隆帯が巡らされ、沈線区画内に二枚貝腹縁による連続刺突文が施される。2の口唇部は裏面にも刻目が施される。1・2とも内外面ナデ調整が丁寧におこなわれている。3・6は面取りした口唇部に沈線文を巡らし、沈線区画内に縄文が施される。3・6とも調整はナデ調整が丁寧におこなわれている。7は口唇部から頸部にかけて沈線区画内に縄文が施される。調整は内外面とも丁寧なナデ調整がおこなわれている。8は縄文を地文とし、その上から沈線文が施されていると見られる。口唇部をやや肥厚させ、沈線文が施される。調整は内外面ともナデ調整である。6点とも磨消縄文土器であり、中津式から福田K II式と考えられる。7は器形から福田K II式とみられる。

10は深鉢の口縁部から胴部にかけての土器である。口縁部に面を持たせ、頸部屈曲部に刻目隆帯が巡らされる。内外面とも条痕調整で、その上を軽くナデ調整をおこなっている。

4・9・24・25は深鉢の口縁部である。24は口唇部に隆帯を貼り付け山形口縁を呈し、25は口唇部に刻目が施される。3点とも口縁部から頸部にかけては、口縁部に並行する凹線文もしくは沈線文が施される。調整は3点とも内外面条痕調整だが、24・25は条痕調整後にナデ調整がおこなわれている。これらは西和田式と考えられる。

11・14から18は小片のため不明確だが、深鉢と見られる口縁部片である。それぞれ口縁部に短沈線文もしくは刺突文を施す。19は口唇部に刻目を施す。11は短沈線文が口縁部に施され、隆帯で区画されている。

16・17・18・19は口縁部に指頭と見られる刺突文が施される。14・15は口縁部に2列の列点文が施される。6点とも調整は内外面ともナデ調整であるが、14の内面には条痕調整が薄く残っている。これらは西和田式と考えられる。

5は口縁部に隆帯を貼り付ける山形口縁の深鉢である。口唇部、口縁部には特に施文がなく、調整は内外面条痕調整で、外面は条痕調整後ナデ調整である。内外面とも調整痕が明瞭に残る。

20から22は波状口縁の深鉢である。口唇部に刻目が施される以外、施文はない。内外面とも条痕調整後にナデ調整で、22の外面には調整痕が明瞭に残る。西和田式と考えられる。

12・13・23は深鉢の口縁部である。口唇部及び口縁部頸部に、沈線区画内及び隆帶上に刺突文が施される土器である。23は口唇部に隆帯を貼り付け山形口縁を呈す。刺突施文具は、先の細い棒状工具と見られる。内外面とも条痕調整で、内面には調整痕が明瞭に残る外面は軽くナデ調整がおこなわれるか。これらはコウゴー松式と考えられる。

43は深鉢の口縁部から頸部である。口唇部には刻目が施され、口縁部から頸部にかけて幾何学文様の凹線文が施されている。内外面とも条痕調整だが、外面は条痕調整後にナデ調整がおこなわれている。西和田式とみられる。

44・45は波状口縁の深鉢である。口唇部に刻目が施され、口縁部に並行する沈線文が施される。44はその沈線文の上から刺突文が施される。調整は内外面とも条痕調整後にナデ調整をおこなっている。これらは西和田式と考えられる。

46・48・50から52・56から58は深鉢の口縁部である。それぞれ口縁部に50の入組状沈線文や縱位もしくは横位の短沈線文が施され、48・50の口唇部には刻目、56の口唇部には隆帯を貼り付ける。

52は第6図5と同様の沈線文が施される。調整は内外面とも条痕調整をおこなった後にナデ調整がおこなわれているが、48・50の内面には条痕調整が部分的に残っており、52は外面施文の箇所に条痕が残されている。

これらは西和田式と考えられる。

35・53から55は小片のため不明確だが、深鉢の口縁部と見られる。それぞれ、口唇部に刻目を施し、口縁部に斜位の短沈線文が施される。53の短沈線文は幾何学文様になるか。調整は内外面とも条痕調整後にナデ調整がおこなわれているが、53のみ丁寧なナデ調整がおこなわれる。その施文から西和田式か。35・54・55は出水式と考えられる。

32・40は深鉢の口縁部である。それぞれ口縁部に並行するように、沈線より幅広くしっかりとした凹線文が施される。32はやや幅広な口唇部を成形するが無文で、40は口唇部に刻目が施される。調整は内外面とも丁寧なナデ調整である。

26から28は深鉢の口縁部である。沈線区画内に縄文もしくは二枚貝腹縫擬縄文が施される磨消縄文である。26・27は口唇部に沈線文を巡らし、器形が頭部で強く屈曲する深鉢である。28は口縁部と沈線区画内に二枚貝腹縫の擬縄文が施される。調整は内外面ともナデ調整である。これらは中津式から福田KⅡ式とみられる。

34は小片のため不明確だが、深鉢の口縁部と見られる。口縁部に沈線文と隆帯上に刺突文を施す土器である。刺突文の施文具は先の細い棒状工具が用いられている。コウゴー松式と考えられる。

30は小片のため器形等は不明である。口唇部に刺突文が施され、山形口縁波頂部から貼付隆帯を垂下せる。隆帯上には刺突文が施される。

36は深鉢の口縁部から脣部にかけての土器片である。口唇部をやや外側に肥厚させ、二枚貝腹縫が口縁部沈線区画内に連続刺突される。調整は内外面とも条痕調整と見られるが、外面は条痕をナデ消している。

31は小片のため器形等は不明であるが、口唇部を大きく肥厚させ、沈線文が施される。

49は鉢の口縁部で、口唇部を丁寧に成形し口縁部にやや幅広な入組状沈線文が施される。

29・33は深鉢の口縁である。口唇部に刻目が施されるのみで、その他特に施文はない。33の口唇部刻目は部分的に施される。調整は内外面ともナデ調整である。

38は深鉢の口縁部である。口唇部に面を持たせるのみで、その他特に施文なし。内外面とも条痕調整で、内面は条痕が残り、外面は条痕調整後のナデ調整痕が明確に残る。粗製土器である。

39は深鉢の口縁部である。口唇部に隆帯を貼り付け山形口縁を呈す。特に施文はなく、内外面とも条痕調整後にナデ調整をおこなうが、内面には部分的に条痕が残る。粗製土器である。

41・42・47は深鉢と見られる口縁部である。口縁端部もしくは口縁部につまみ上げによる隆帯を巡らされる。その他に特徴的な施文はない。調整は内外面ともナデ調整である。

37は鉢の口縁部である。口縁端部を薄く成形しており、口縁部にはナデ調整痕が明瞭に残る。

59から62・64から66は小片のため不明確だが、深鉢の口縁部である。口唇部に刻目が、口縁部に短沈線もしくは刺突文が施される土器である。60は口縁部に爪形状の刺突文が施される。61は口唇部に隆帯が蛇行状に貼り付けられる。62は口唇部に隆帯が貼り付けられ、山形口縁を呈す。65は小片のため不明確だが、沈線文が部分的に確認できる。調整は全て内外面ともナデ調整である。

68・69・75・76・79は深鉢の口縁部である。口縁部に入組状沈線文もしくは、斜位の短沈線文を施す土器である。68は口唇部に2連の山形状隆帯を貼り付け、口縁部には乱れた入組状沈線文が施される。75は口唇部に刻目が施され、口縁部には斜位の短沈線文が施される。69・76・79は口唇部を面取りし、口縁部に短沈線文が施される。79は2条の沈線文を巡らし、その間に斜位の沈線文が施される。いずれも調整はナデ調整と見られるが、76・79の内面にかすかに条痕調整が残ることから、条痕調整をおこなった後に、丁寧なナデ調整をおこなって条痕を消していると見られる。これらは出水式か。

67は小片のため不明確だが深鉢の口縁部と見られる。口縁端部及び隆帯上に、棒状施文具を用いた刺突文が

施される。調整は内外面条痕調整で外面はナデ調整と見られる。コウゴー松式か。

63・70から74・77は深鉢の口縁部である。口唇部に刻目が施されるのみで、その他特に施文はない。71・73・74は口唇部に隆帯を貼り付け刻目が施される。

71は隆帯を貼り付けることにより山形口縁を成し、貼り付けた隆帯上のみ刻目が施される。63・70・72・77は面取りをした口唇部に刻目が施される。調整は内外面とも条痕調整後にナデ調整がおこなわれる。70は条痕調整した後に、粘土帶部分を丁寧にナデ調整している。全て粗製土器。

78は深鉢の口縁部である。口唇部に蛇行する隆帯を貼り付けている。その他特に施文はない。調整は内外面条痕調整後にナデ調整をおこなっている。

80から82は深鉢の口縁部である。口唇部、口縁部とも特に施文はない。調整は内外面とも条痕調整後に丁寧なナデ調整がおこなわれている。外面に調整痕が残る。粗製土器。

83は深鉢の口縁部から胴部にかけての土器片である。波状口縁を呈す。外面とも条痕調整で、外面は縱方向、内面は横方向の調整で、内外面とも明瞭に調整痕が残る。特に施文はないが、口縁部から頸部にかけての条痕調整はナデ消されている。粗製土器と見られる。

84・96は深鉢の口縁部である。84は口唇部に刻目が施され、口縁部に並行する沈線文が、曲線を交えて胸部付近まで連続する。96は口縁部が一部剥離していて不明確だが、沈線文が一部残っている。調整は2点とも内外面条痕調整後に丁寧なナデ調整がおこなわれている。84は内面に条痕調整が薄く残っている。これらは西和田式と考えられる。

85は深鉢の口縁部から胴部にかけての土器である。口唇部面取りをするが、その他は特に施文は見られない。調整は内外面ナデ調整だが、口縁部には指頭によるナデ調整が顕著に見られる。粗製土器。

86は深鉢の口縁部から胴部にかけての土器である。4単位の山形口縁で、内外面条痕調整後にナデ調整がおこなわれている。内面に条痕が薄く残っている。粗製土器。

87から95・97から101は小片のため不明確だが深鉢と見られる口縁部片である。明確な施文は見られないが、99は口縁部に爪形状の刺突文が施されている。それぞれ条痕調整後にナデ調整がおこなわれる。粗製土器。

102は深鉢の口縁部から胴部にかけての土器である。内外面横方向のナデ調整である。

103から107、109・110は深鉢の口縁部である。103は外面にミガキが施される。精製土器。104・106・107は内外面ともナデ調整がおこなわれており、106は口縁端部が肥厚する。105は丁寧な横ナデ調整後に外面には列状に難い刺突文がおこなわれている。模倣品か。109は粘土紐による刺突連点、口縁部には刻目が施される。110の外面は指押えによる隆帯がみられる。

108は浅鉢の口縁部である。内外面ともに丁寧なナデ調整がおこなわれる。

111から125は深鉢もしくは浅鉢の胴部である。111・112は内外面ともにナデ調整後に沈線が施される。113はナデ調整後に突帯を貼り付けている。

114は内外面とも条痕後にナデを施している。115は外面に渦巻文を施している。116は外面に赤色塗料が残る。また、滑石を多量に含んでいる。120は外面を沈線で区画して刺突文が施される。121から124の外面はナデ調整後に沈線が施される。121の内面には接合痕が残る。125は外面ミガキ調整が施される。

129は頸部が屈曲し胴部が張る深鉢である。頸部に入組状沈線文や刺突文が施され、胴部に刻目隆帯を貼り付けることにより区画する。調整は内外面ナデ調整である。

131は小片のため不明確だが、深鉢の胴部片と見られる。隆帯上に刺突文が施される。調整は内外面ナデ調整で、内面に調整痕が残る。コウゴー松式か。

126から128・130は深鉢もしくは鉢の胴部片と見られる。126・127は凹線文が施される。130はつまみ

出しの縦帯に刻目が施される。128は特に施文は見られない。126・127は内外面条痕調整後ナデ調整がおこなわれている。128・130は内外面ともナデ調整である。

132から142は深鉢もしくは鉢の胴部片である。135・137・138・141・142は沈線区画内に繩文が施される。それぞれ内外面とも丁寧に磨り消されている。133・139は沈線区画内に二枚貝腹縁を連続刺突文が施されている。132・136・140は沈線区画内に繩文が施される。この3点は、これまでの土器と異なり、胎土が非常に精微で器壁も薄い。在地で作られた土器ではなく、搬入品と見られる。中津式から福田K II式と考えられ、137については福田K II式の鉢とみられる。

143は緩やかに頸部が屈曲し、やや胴部が張る胴部である。条痕調整後にナデ調整をおこなう無文の土器である。粗製土器。

151は胴部が内湾する鉢である。施文箇所に粘土を貼り付け、その上に棒状工具を用いたやや幅広な沈線文が施されている。胎土には滑石片が大量に含まれている。この胎土に滑石を含む土器は、本遺跡において他に確認できず、在地の土器ではなく搬入品と見られる。

152は胴部で内湾する鉢である。屈曲部に並行するように沈線文が施される。内外面とも丁寧なナデ調整である。中津式から福田K II式と考えられる。

155は小片のため不明確だが、深鉢もしくは鉢の胴部になると見られる。凹線文が幾何学文様で施されている。調整は内外面ナデ調整で、内面に調整痕が残る。

156は頸部で外反する深鉢である。屈曲部に連続刺突文が施される。調整条痕調整後にナデ調整がおこなわれている。

161は小片のため不明確だが、深鉢の胴部片か。沈線区画内に連続刺突文が施される。内外面ともナデ調整だが、外面には調整痕が残る。

144・154は深鉢もしくは鉢の胴部である。沈線区画内に繩文が施されている。調整は内外面とも丁寧なナデ調整がおこなわれている。胎土が非常に精微で、器壁が薄い。中津式から福田K II式と考えられる。

153は深鉢の胴部である。沈線文が施された後、先の細い棒状工具を使用して連続刺突文が施される。内外面ともナデ調整で、内面に調整痕が残る。コウゴー松式と考えられる。

145・146・148・149・157から160・162から173は、深鉢もしくは鉢の胴部片である。149は胴部がやや強く屈曲し、162は湾曲の丸みがやや強い。条痕調整後にナデ調整をおこない、施文はない。163には貼付縦帯が部分的に残る。157・158は内外面とも条痕調整が明確に残る。全て粗製土器と見られる。

174から190は深鉢である。調整は内外面とも条痕調整もしくは、条痕調整後にナデ調整がおこなわれている。施文はない。186は内面に調整時に使用したと見られる植物茎の痕跡が明瞭に残っている。187はナデ調整のみがおこなわれており、胎土も非常に精微である。器形は底部に向かいほぼ直線的になるが、188・189はやや内湾している。全て粗製土器と見られる。

191から221は深鉢もしくは鉢である。221はほぼ底部である。198・216には沈線文と見られるものもあるが、その他は無文である。内外面とも条痕調整もしくは、条痕調整後にナデ調整がおこなわれる。202は内面に条痕が残っており、213は内外面とも条痕が残る。器形は底部に向かいほぼ直線的になる土器片が多いが、215は屈曲が強い。203・212は緩やかに外反する。216・220は緩やかに内湾する鉢形になるか。

222から226は深鉢の胴部である。225・226はほぼ底部に近い。施文はない。調整は全て内外面ともナデ調整がおこなわれているが、223の外側及び225の内外面には調整痕が明瞭に残っている。

227から246は深鉢の底部である。特に施文はない。調整は内外面ともナデ調整もしくは、条痕調整後にナデ調整をおこなっている。227は粘土接合帯が明瞭に観察できる。229・232・243・241の底面には組織痕も

しくは成形痕が確認できる。245は底部がやや張り出している。242・246は底部に強い稜線が生まれている。全て縄文時代後期か。

247から266は深鉢の底部片である。底部形態は平底だが、257はやや丸みを帯びた底部となっている。内外面条痕調整もしくは条痕調整後にナデ調整をおこなっている。250は底部が強く張り出している。

249・252から254・256・258・259から263・266は底面に組織痕もしくは成形痕が見られる。264は底部と胸部との粘土接合帯で剥離している。

267は鉢の口縁突起部の一部と考えられる。押引沈線文や渦巻き状沈線文が施されている。ただ、その形状から土偶の腕部もしくは脚部の可能性もある。

3、その他の遺物（第22～25図、図版15）

1・3・15は深鉢の口縁部である。口唇部に刻目が施される。その他に施文はないが、3の頸部には沈線文が部分的に見られる。調整は内外面ともナデ調整だが、1の内面及び15の外面上には調整痕が明瞭に残る。これらは西和田式と考えられる。

2は口縁がやや外反する深鉢の口縁部である。口唇部に刻目が施され、口縁部に並行する凹線文が施される。内外面ともナデ調整だが、両面とも調整痕が残る。

7は深鉢もしくは鉢形の土器である。口縁部に貼付隆帯と沈線文、刺突文が施される。調整は内外面ナデ調整で、外面に赤彩痕が確認できる。

5・6・8・19は深鉢もしくは鉢の口縁部である。5は屈曲部が口縁部に近い箇所にあることから、鉢形になると見られる。5は口唇部に沈線文を巡らし、口縁部に斜位の短沈線文が施される。6は山形口縁で、口唇部に刻目、口縁部には2条の沈線文の間に列点文が施される。8は口唇部を面取り成形し刻目が施され、口縁部に列点文が施される。19は口唇部に刻目が施され、横位の列点文もしくは短沈線文が施される。4点とも調整は内外面条痕調整後にナデ調整をおこなう。6の内面には条痕が薄く残る。8の内面には明瞭に調整痕が深く残る。これらは西和田式と考えられる。

20は小片のため不明確だが、深鉢の口縁部と見られる。口唇部及び口縁端部には施文及び面取り成形は見られない。やや隆起した口縁部に幅の細い刻目が施される。調整は内外面ともナデ調整である。

11は深鉢、22は鉢の胸部である。それぞれ沈線区画内に縄文が施される磨消縄文である。内外面とも丁寧なナデ調整をおこなっている。特に11の外面上はミガキに近いナデ調整がおこなわれている。胎土も非常に精微で、器壁も薄い。第16図132と同様に搬入品と見られる。これらは福田K II式と見られる。

12は小片のため不明確だが、鉢の胸部と見られる。沈線文が施された後に、連続刺突文が施される。調整は内外面とも丁寧なナデ調整である。

18は小片だが深鉢の口縁部と見られる。口縁部内面に隆帯を貼り付け、山形口縁を呈す。その他には施文はない。調整は内外面ともナデ調整である。

4・9・10は深鉢の口縁部である。10は鉢の可能性がある。特に施文はない。9は口唇部を面取り成形し、10は隆帯を貼り付けている。調整は内外面ともナデ調整で、10の内外面には調整痕が明瞭に残る。粗製土器である。

13は頸部が緩やかに屈曲する深鉢で、屈曲部には粘土帯が観察できる。14は底部に向かってすぼみを見せる砲弾形の深鉢である。2点とも内外面とも条痕調整後にナデ調整をおこなっている。粗製土器か。

16・17は底部片である。2点とも底部立ち上がり部に若干の面取りをおこない、稜線が生まれている。17は底部立ち上がり部が強く張り出す。

21は焼成後に穿孔がおこなわれる土器である。補修孔と見られるが、土器片自体が丸みを持つ平面をしていることから、有孔円盤の可能性も考えられる。使用されている土器片は、沈線文が施されている。

33は深鉢の口縁部から胴部である。口縁部はやや外反する。口唇部に指頭による刻目が施され、口縁部から頸部にかけては、入組状の沈線文が施される。内外面とも条痕調整で、明瞭に調整痕が残る。西和田式と考えられる。

31は深鉢の口縁部である。口唇部には部分的に刺突文が施され、口縁部には縱位に連続列点文が施されている。2列の連続列点文か、調整は内外面ナデ調整だが、内面に条痕と見られる痕跡も見られる。西和田式か。

32は鉢もしくは頸部で屈曲する深鉢の口縁部である。口唇部に隆帯を貼り付け、刻目が施される。内外面とも丁寧なナデ調整で、内外面とも調整痕が明瞭に残る。

26は小片のため不明確だが深鉢の口縁部になるか。口唇部に刻目が、口縁部に並行する凹線文もしくは沈線文が施される。調整は内外面とも条痕調整後ナデ調整をおこない、内面には条痕が薄く残る。

34は頸部で屈曲する深鉢の口縁部から胴部である。面取りした口唇部に刻目が施される。その他に施文はない。内外面とも丁寧なナデ調整で、特に口縁部から頸部にかけては丁寧なナデ調整がおこなわれている。粗製土器。

23・27・28・35から37は深鉢の口縁部から胴部である。施文はない。6点とも内外面とも条痕調整後ナデ調整がおこなわれており、23の外面及び27・28の内面には明瞭に条痕が残る。27・28・37は口唇部に面取り成形が見られるが、23・35・36には見られない。

24・29・30・39は底部である。内外面とも条痕調整後軽くナデ調整がおこなわれ、底面に成形痕もしくは組織痕が確認される。30は若干上げ底気味になる。

38は底部である。底部に若干高台気味の張り出し部がある。内外面とも条痕調整で、ナデ調整はおこなわれない。

25は焼成後穿孔がおこなわれている補修孔または紡錘車である。内外面に条痕調整痕が見られる。

55は口縁部がやや外反する深鉢である。口唇部に隆帯を貼り付け、緩やかな山形口縁を呈す。口縁部に斜位の短沈線文が施され、その下は施文がない。内外面条痕調整後に丁寧なナデ調整をおこなう。内面に条痕調整が薄く残る。出水式と考えられる。

54は緩やかな屈曲を持つ深鉢の胴部である。頸部に連続刺突文が施される。この連続刺突文を施す前に沈線文を巡らすか。内外面とも条痕調整で、明瞭に調整痕が残る。

40は頸部で屈曲する深鉢の口縁部から胴部である。口縁端部は折り返し、面を形成する。口縁部と屈曲部の間に隆帯を巡らす。この隆帯と口縁部の間及び頸部の間には、ナデ調整で施文帯を形成する。胴部は無文である。調整は内面ナデ調整、外側は条痕調整であり、外側には調整痕が残る。西和田式か。

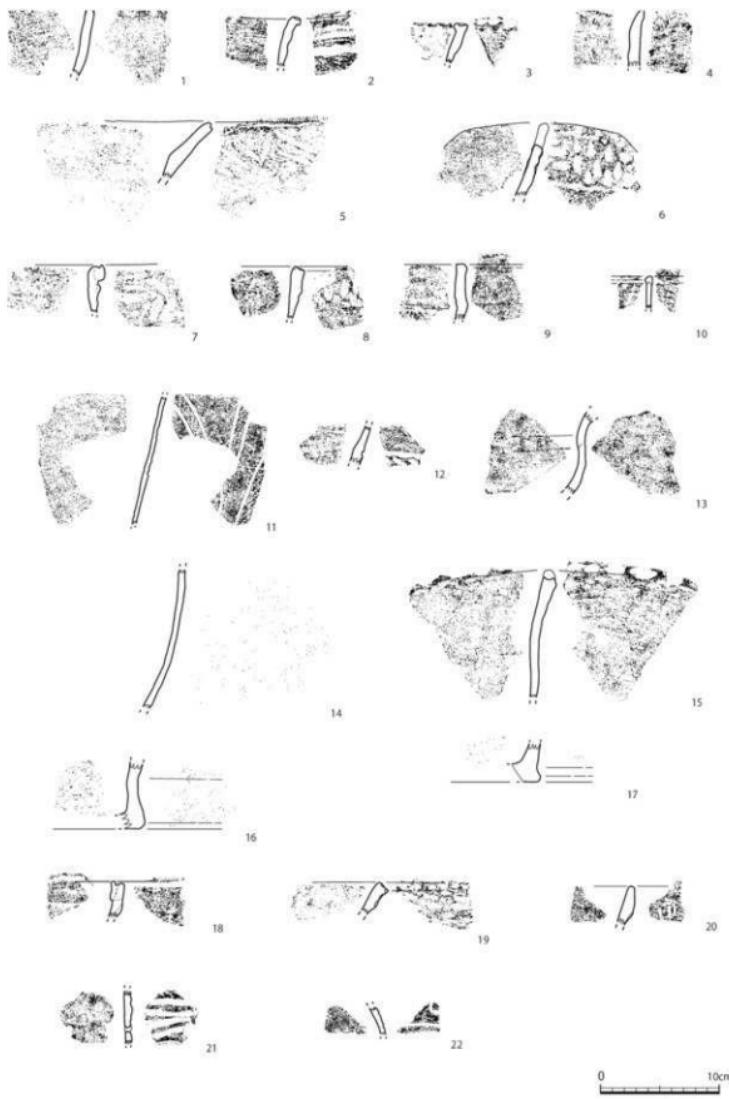
48は小片であるが深鉢の口縁部と見られる。口唇部に指頭による刻目が施され、波状口縁を呈す。口縁部にはやや幅広な短沈線文が縱位に施される。内外面ともナデ調整である。

47は深鉢の口縁部である。口唇部に面取り成形をおこない刻目が施される。調整は内外面ナデ調整であるが、外側には調整痕が残る。

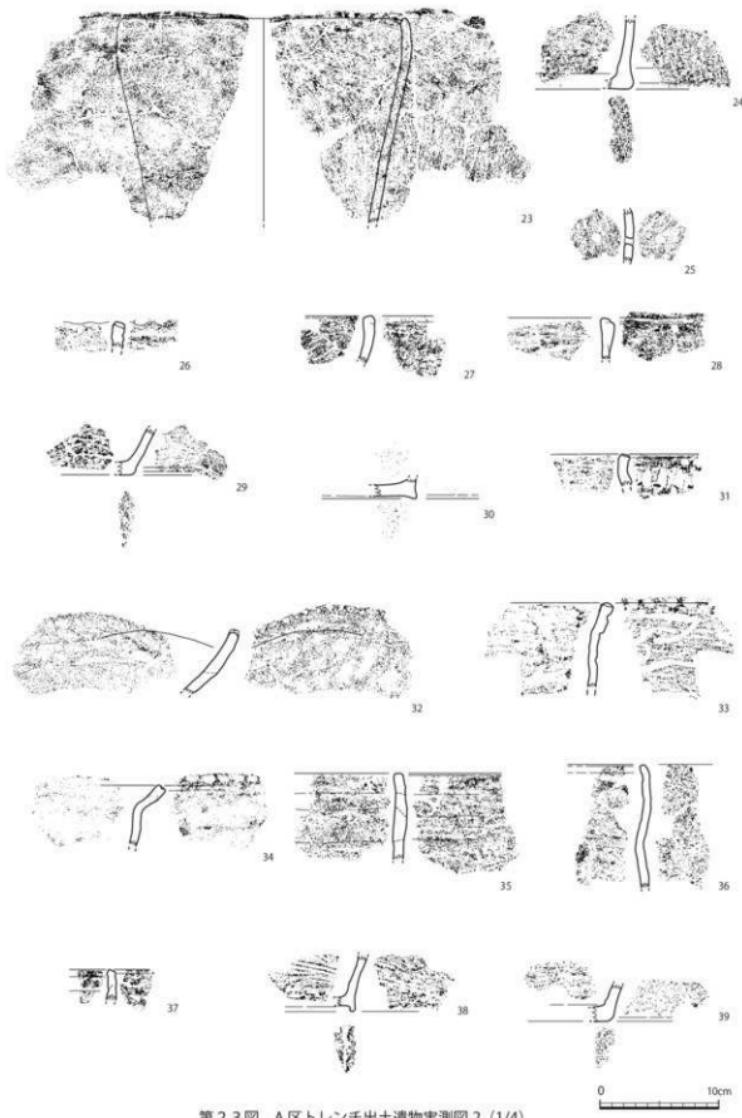
53は山形口縁の鉢口縁部である。口唇部に隆帯を貼り付けることにより山形口縁を成す。内外面丁寧なナデ調整である。特に施文はない。

46は山形口縁の深鉢である。口縁端部に刻目隆帯を貼り付け、山形口縁を成す。内外面条痕調整で、内外面とも調整痕が明瞭に残る。

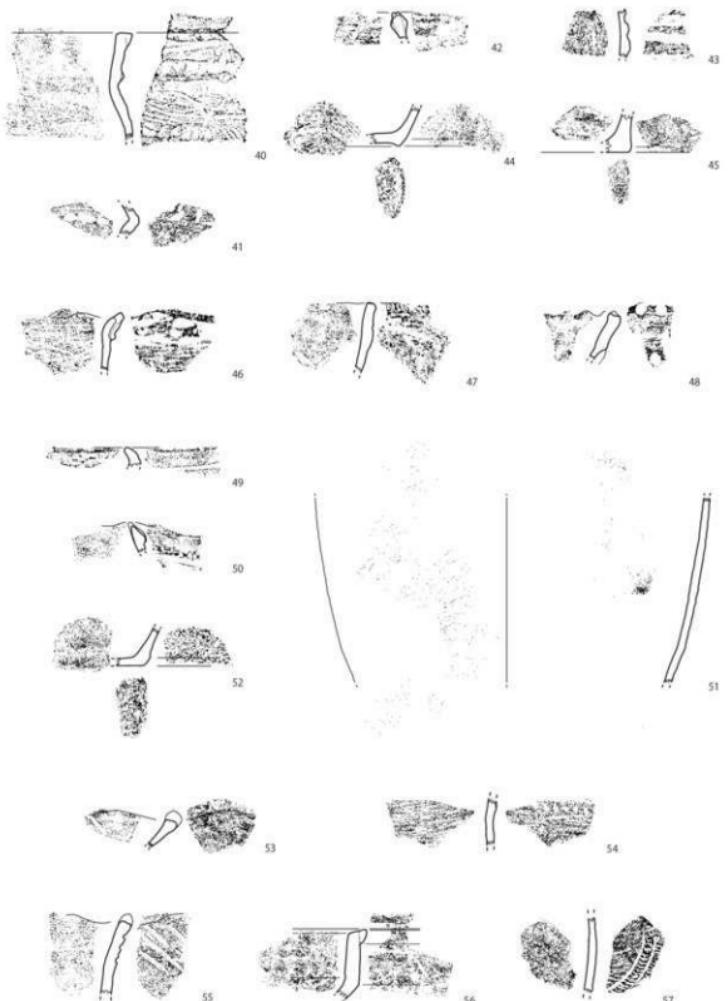
41は強い屈曲を持つ鉢の胴部である。屈曲部には連続刺突文が施される。胴部は無文。内外面とも条痕調整後ナデ調整がおこなわれる。内面の屈曲部には指頭痕が明瞭に残る。



第22図 A区トレンチ出土遺物実測図1 (1/4)

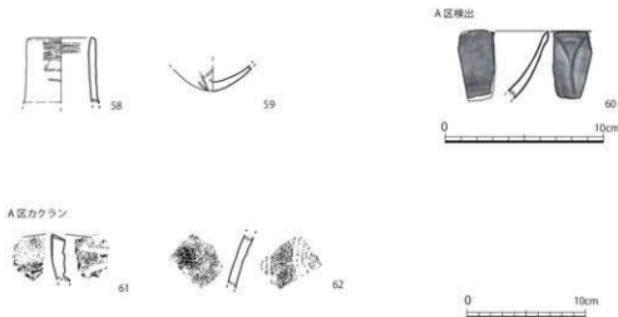


第23図 A区トレンチ出土遺物実測図2 (1/4)



0 10cm

第24図 A区トレンチ出土遺物実測図3 (1/4)



第25図 A区トレンチ出土遺物実測図4 (1/4)

43は深鉢もしくは鉢の胸部である。幅広な沈線文が施される。胎土に滑石が多量に入る土器で、第17図151と同一個体と考えられる。

42・50は口縁部が内湾する鉢である。50は山形口縁になるか。42は特に施文はないが、50には口縁部に連続刺突文が施される。調整は2点とも内外面ナデ調整だが、50の内面には調整痕が明瞭に残る。

49・57は、49は口縁部が内湾する鉢で、57は深鉢もしくは鉢である。口縁部に並行する沈線文が施され、その沈線文の間に繩文が施される。内外面丁寧なナデ調整である。これらは福田KⅡ式とみられる。

56は頸部で強く屈曲する深鉢の口縁部である。口縁端部には隆帯を巡らす。その他に施文はない。内外面条痕調整で、外面上は条痕調整後ナデ調整をおこなう。

51は底部に向かって緩やかなカーブを描く深鉢の胸部である。施文はない。調整は内外面条痕調整で、内面上は条痕調整後にナデ調整をおこなっている。粗製土器。

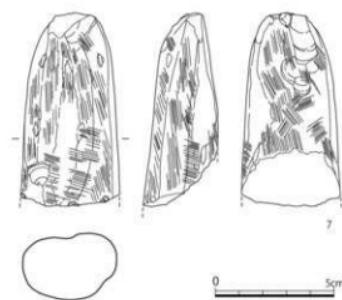
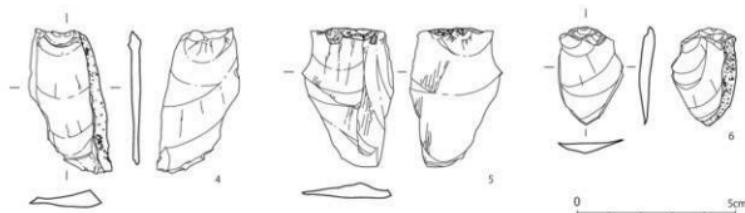
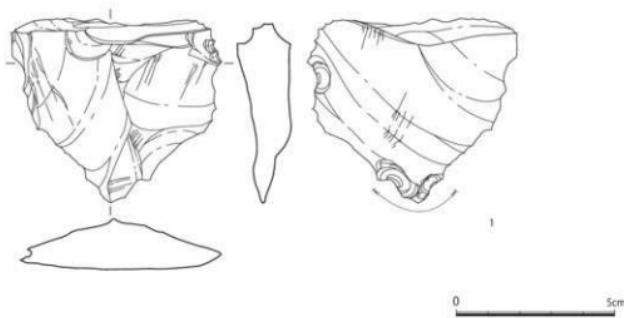
44・45・52は深鉢と見られる底部である。44は内外面条痕調整後ナデ調整で、内面上に条痕が残る。若干上げ底気味になるか。45・52は内外面ナデ調整で、内外面とも調整痕が残る。底部立ち上がり部分に面取りを入れることから、稜線が生まれている。3点とも底面上に成形痕もしくは組織痕が残る。

58・59は土師器の蓋である。58は口縁部のみ残存し、59は底部のみ残存している。60は青磁碗である。外面に鎧蓮弁が施される。この時期の遺物はこの一点のみであり、この他に確認できないことから、遺構に伴うような遺物ではないと考えられ、斜面上に中世の遺構も確認されていることから、上部から混ざ込んだものと想定している。

61・62は繩文土器の深鉢である。ともに外面に沈線文が施され、62には磨消繩文が見られる。

石器・石製品（第26～31図、図版16）

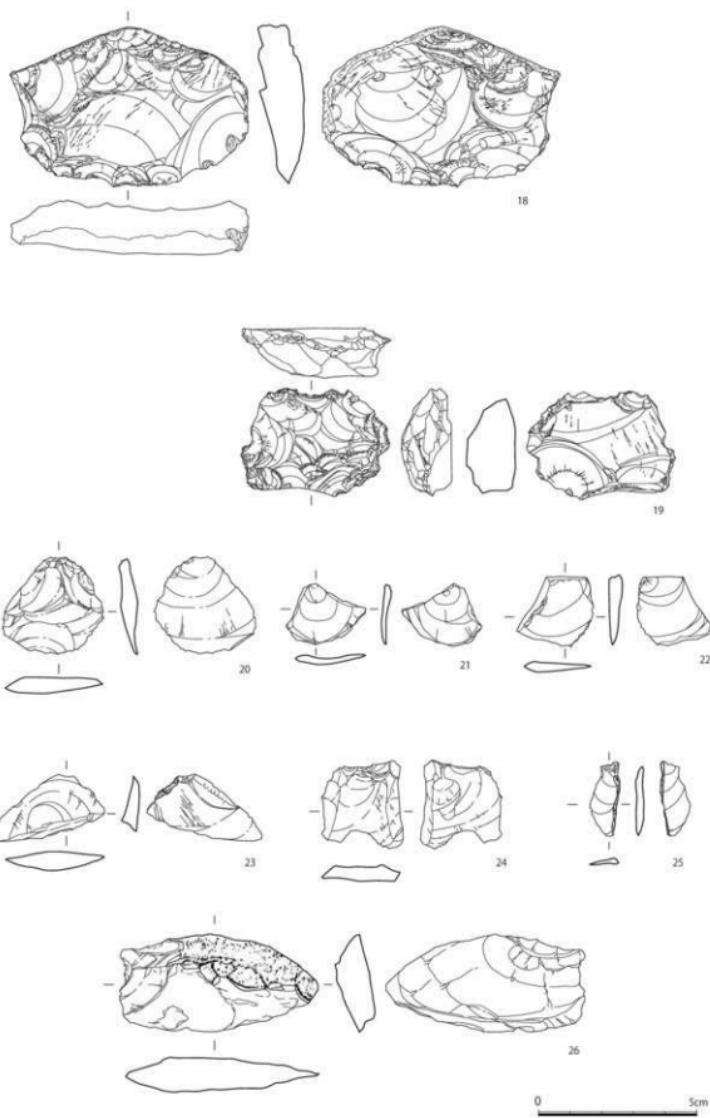
- 1はサヌカイトの剥片で、先端部に二次加工痕がある。
- 2はサヌカイトの削器で、先端部に微細剥離がある。
- 3は姫島産黒曜石の剥片で二次加工等はない。
- 4・5はサヌカイトの縦長剥片で二次加工はない。自然面が残る。6は姫島産黒曜石の縦長剥片で二次加工はない。自然面が残る。
- 7は砂岩と見られる磨製石斧で、刃部は欠損している。
- 8は安山岩の石核で、二次加工はないが微細剥離は確認できる。この遺物については、最も大きな剥離面が、自然面を除去するための剥離の可能性があり、横長剥片素材の石核もしくは、スクレイバーなどの素材剥片の可能性も考えられる。
- 9は黒曜石製の剥片である。ナイフ形石器の可能性もあるが、明確に判断はできない。10は姫島産黒曜石の石鍬で、先端部は使用時の欠損と見られる。11は小国産と見られる黒曜石の石鍬で、刃部は鋸歯状に加工されている。12は西部九州産黒曜石の石鍬である。
- 13はサヌカイトの削器である。14はサヌカイトの削器で、二次加工が見られる。15はサヌカイトの削器である。石匙と見られるが、石錐の可能性もある。16はサヌカイトの石匙である。基部には自然面が残る。
- 17はサヌカイトの石錐で、先端部は欠損している。
- 18は安山岩の削器で、上部に自然面が残る。
- 19は安山岩の石核である。ただし、石核にしては剥離が小さく、剥片を取った最後の残りである残核と見られる。
- 20はサヌカイトの剥片で二次加工がある。21・22は姫島産黒曜石で、21は二次加工、22には微細剥離がある。
- 23・24はサヌカイトの剥片で二次加工等はない。25は姫島産黒曜石の縦長剥片で、二次加工はない。26は安山岩の横長剥片である。
- 27は蛇紋岩の磨製石斧で、断面は扁平である。刃部には使用時と見られる欠損があり、基部は欠損している。
- 28は砂岩と見られる磨製石斧で、断面は梢円形である。基部は欠損している。29は蛇紋岩の磨製石斧で、断面は扁平である。基部は欠損している。刃部は使用時の欠損か。30は砂岩と見られる磨製石斧の刃部である。
- 31・32は蛇紋岩の磨製石斧で、刃部は欠損している。2点とも断面は扁平である。33は砂岩の磨製石斧で、断面は梢円形である。刃部は欠損している。34は安山岩の磨製石斧である。断面は梢円形で、刃部周辺にのみ擦痕する。35は角閃安山岩の磨製石斧で、断面は梢円形である。
- 36は安山岩の敲石である。断面はほぼ円形に近い。先端部に敲打痕が残る。
- 37は蛇紋岩の磨製石斧である。断面は梢円形で、刃部は欠損している。



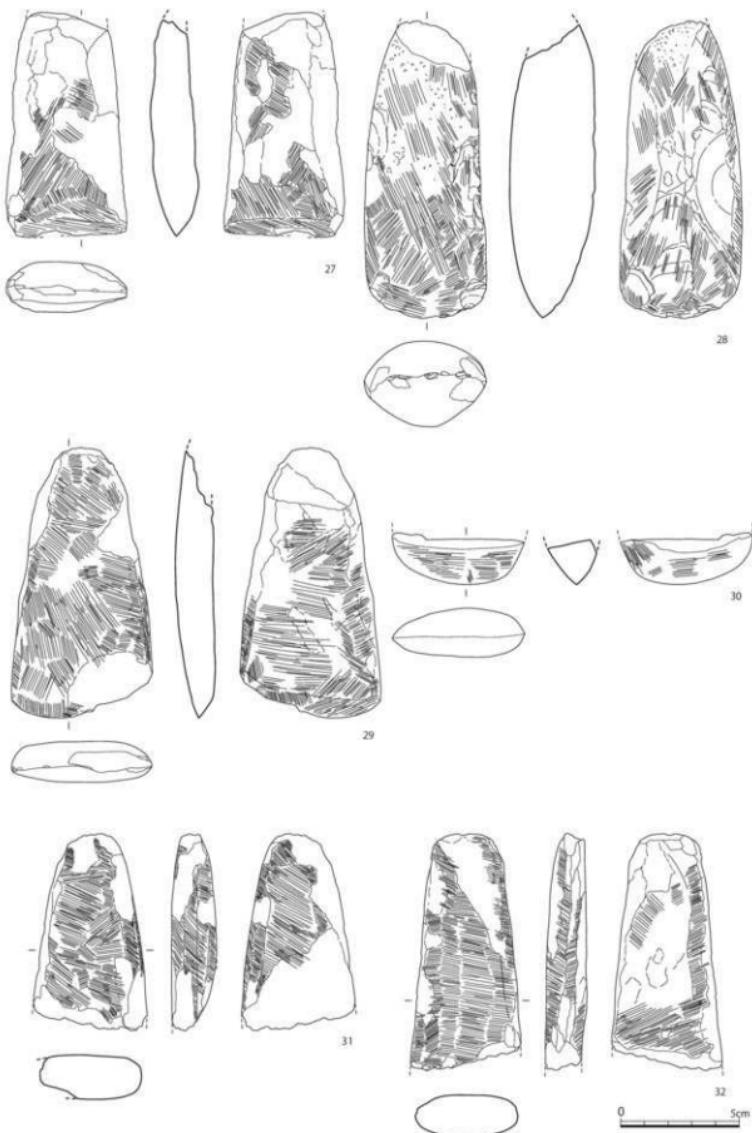
第26図 A区出土遺物実測図1 (1~6:2/3、7:1/2)



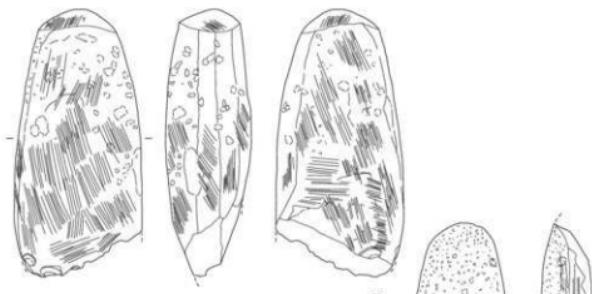
第27図 A区出土遺物実測図2 (2/3)



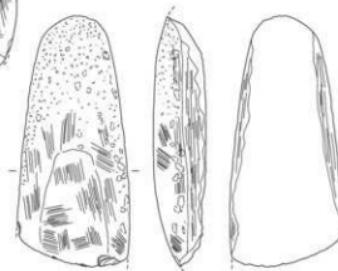
第28図 A区出土遺物実測図3 (2/3)



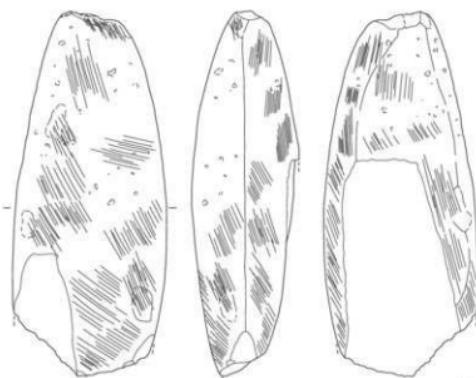
第29図 A区出土遺物実測図4 (1/2)



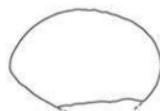
33



34



35



0 5cm

第30図 A区出土遺物実測図5 (1/2)



第31図 A区出土遺物実測図6 (1/2)

(3) B区の遺構と遺物（第32図）

B区は調査区内でも最も標高が高く、標高414m前後に位置し、調査面積は441.2m²を測る。南から北に向かう緩斜面上の比較的に緩やかな場所に所在し、表土・耕作土直下、地表面より約30cm下から黄褐色土の遺構検出面を確認している。耕作土直下から検出面が確認されることから、周囲は後世に削平を受けたものと想定される。この検出面は地形に沿うように北にいくほど深くなっていく。

調査では掘立柱建物2棟、ビットが多数検出されている。

1号掘立柱建物（第33図、図版6）

1号掘立柱建物は、調査区の中央に位置しており、柱穴P3・18やP16・31の切り合い関係から2号掘立柱建物によって切られる。梁間2間×桁行6間の東西棟で、身舎面積は約74.7m²である。その主軸方向はN-67°-Wをとる。南西隅の柱穴を1ヶ所欠いている。柱間寸法は心距離で梁間が西側辺で2.7m、東側辺で2.6～2.7m、桁行は北側辺で2.1～2.6m、南側辺で1.9～2.6mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形で、深さは検出面より約30～90cmを測る。礎石や柱痕は確認できない。遺物は柱穴P27より近世陶器香炉の口縁部が出土している。

2号掘立柱建物（第33図、図版6）

2号掘立柱建物は、調査区の中央に位置しており1号掘立柱建物を切る。梁間2間×桁行6間の東西棟で、身舎面積は約76.4m²である。その主軸方向はN-67°-Wであり、1号と同一をとる。柱間寸法は心距離で梁間が東側辺で2.6m、西側辺で2.5～2.7m、桁行は北側辺で2.2～2.5m、南側辺で2.3～2.5mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形で、深さは検出面より約27～90cmを測る。礎石や柱痕は確認できない。遺物は柱穴P1より近世染付碗底部、P2より近世陶器碗口縁部片、P10より染付皿口縁部片、P16より近世陶器碗底部が出土している。また、2号掘立柱建物はほぼ同じ場所で複数のビットが切り合っていることから、数度の建て替えが行われたものと想定される。

出土遺物（第34～37図）

ここでは、B区から出土した遺物をまとめて報告する。なお、掘立柱建物より出土した遺物には図版番号横に括弧書きで遺構名と柱穴番号を記している。その他の遺物については観察表を参照されたい。

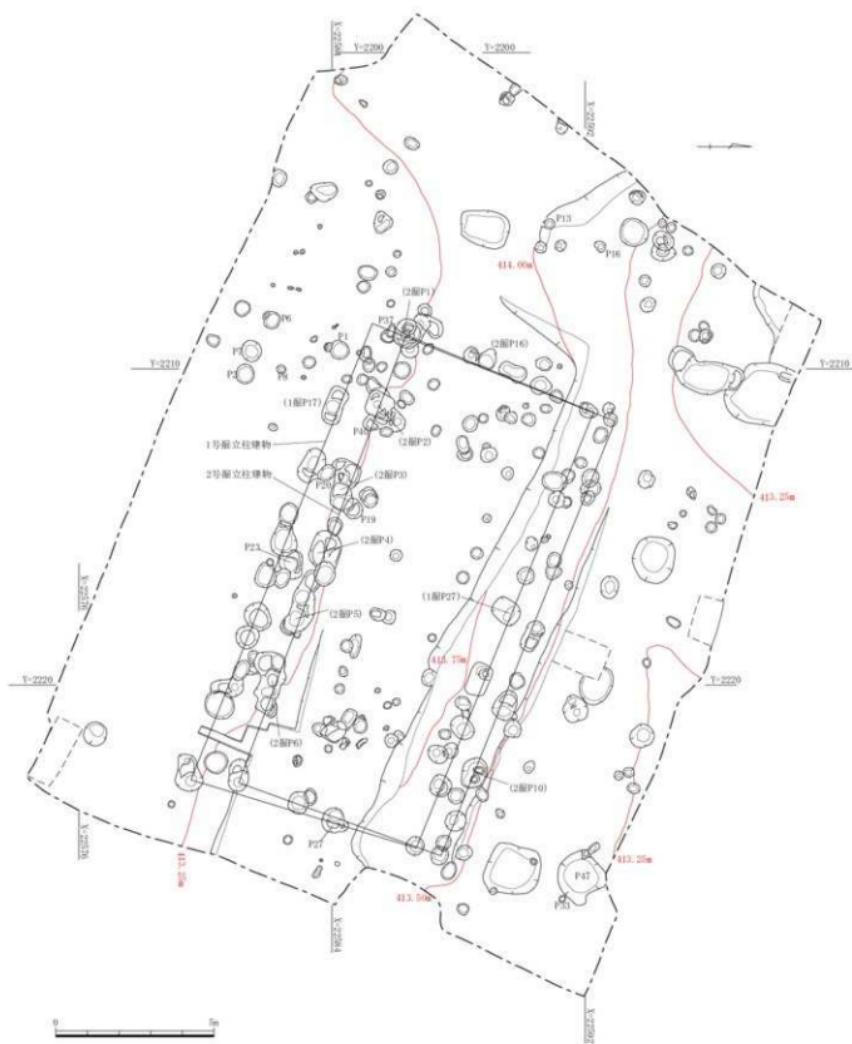
1～6は1号掘立柱建物P17より出土した遺物である。1は磁器（染付）碗である。外面に文様が描かれる。2は青磁の火入である。内外面に釉が施され、外面口縁部に貫入がある。3は磁器（染付）皿である。内外面に釉が施され、内外面に貫入がある。外面底部に特徴的な朝の文字があることから朝妻焼と考えられる。4～6は盤、内5・6は瓦質土器でいずれも内面に回転ミガキが施される。

7は2号掘立柱建物P2より出土した陶器の擂鉢である。刷目は細かい。福岡産と考えられる。

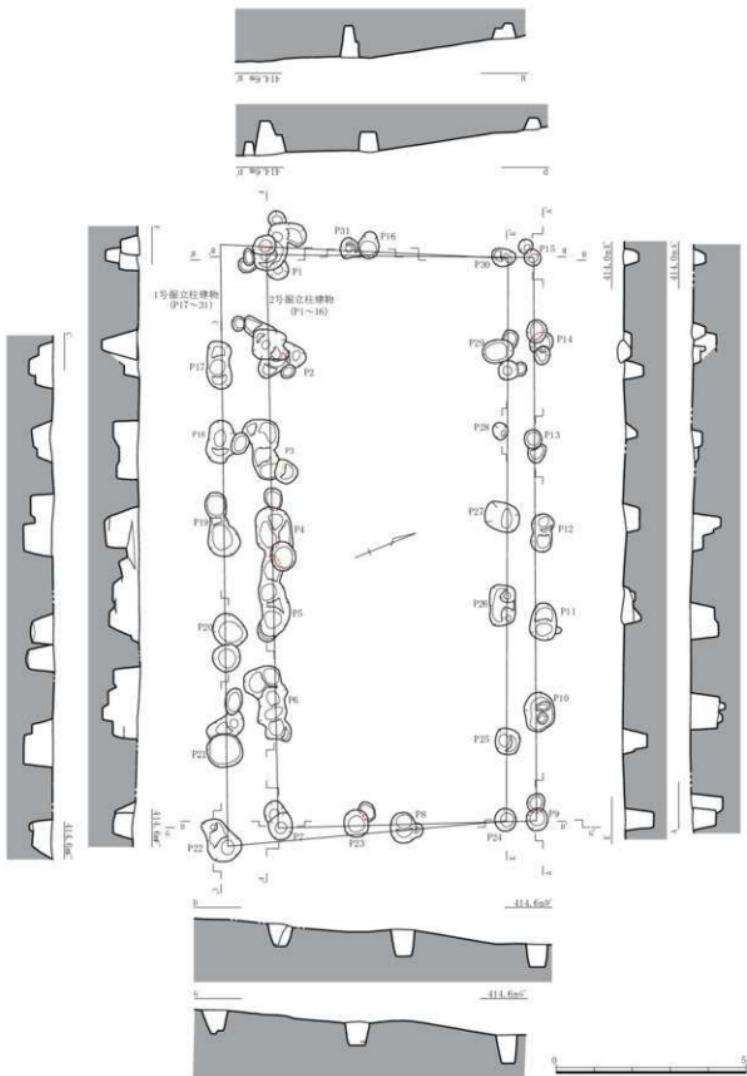
8～12は2号掘立柱建物P3より出土した遺物で8～11は碗である。8は磁器（染付）内面に文様、貫入あり。9は磁器、10は青磁である。11は磁器（染付）で外面に花柄と思われる文様あり。12は陶器瓶である。外面白化粧による文様が施される。福岡産と考えられる。13は2号掘立柱建物P4より出土した青磁碗である。

14～16は2号掘立柱建物P5より出土した土器で14・15は磁器（染付）碗である。15は外面胴部に重ね焼痕が残る。16は土師質土器の火鉢である。

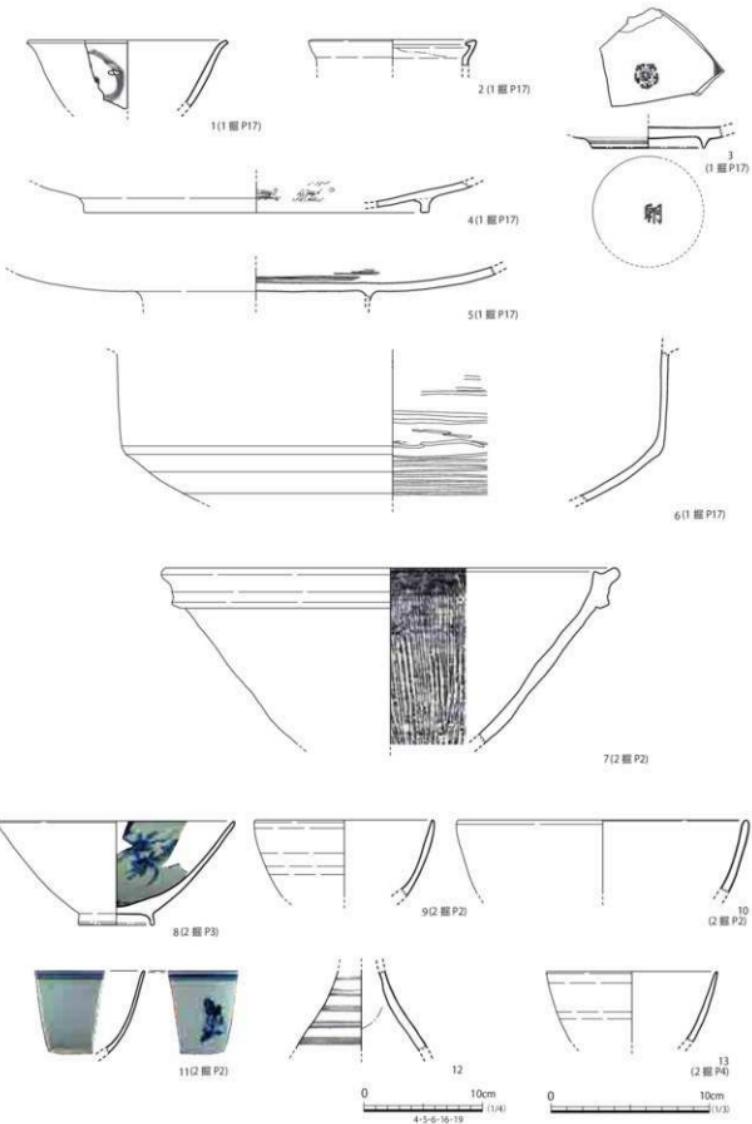
17は2号掘立柱建物P6より出土した碗である。福岡産と考えられる。内面に付着物が有る。



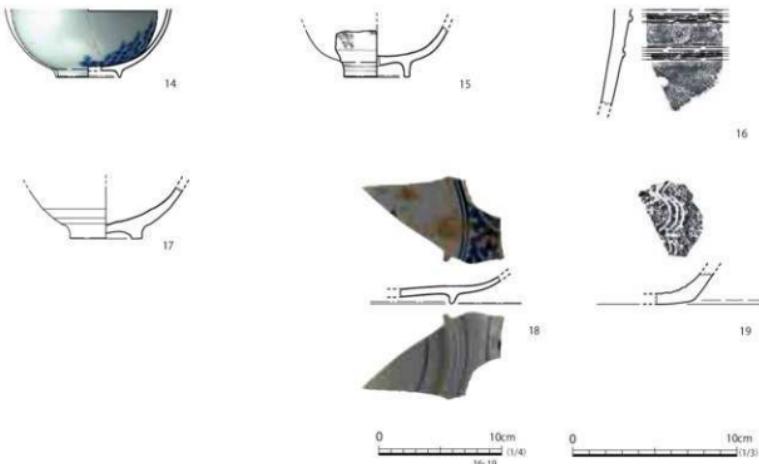
第32図 B区遺構配置図 (1/150)



第33図 B区1・2号掘立柱建物実測図 (1/125)



第34図 B区出土遺物実測図1 (1/3、4~6・16・18:1/4)

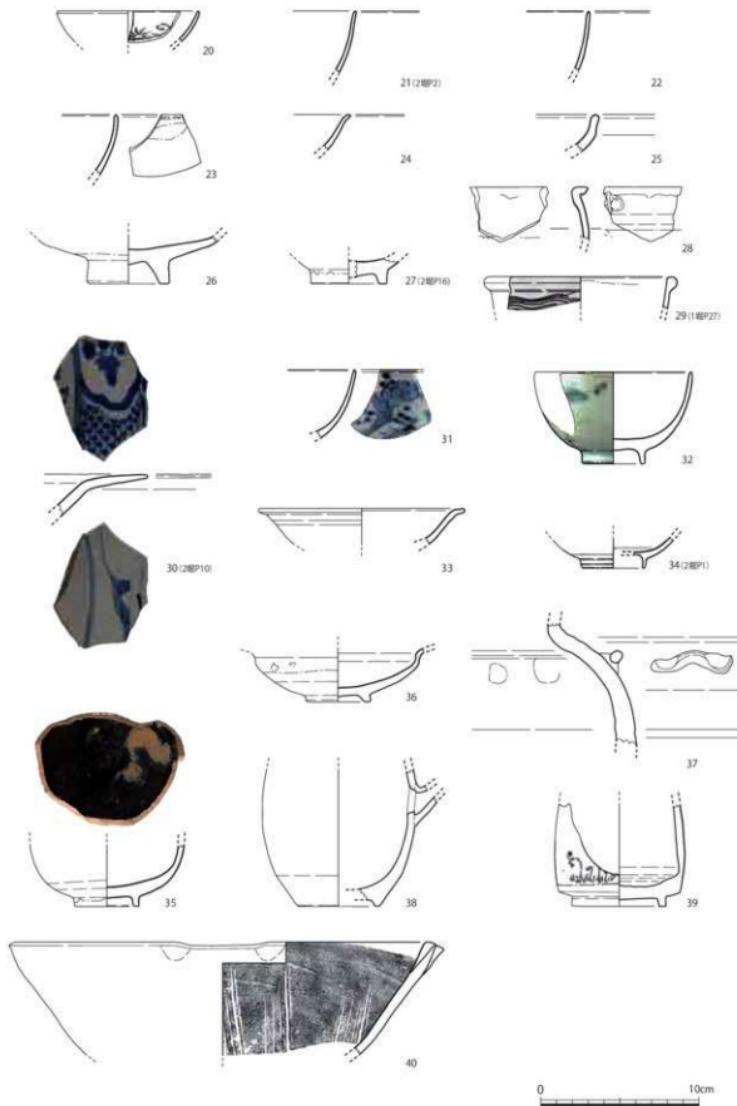


第35図 B区出土遺物実測図2 (1/3、16・19 : 1/4)

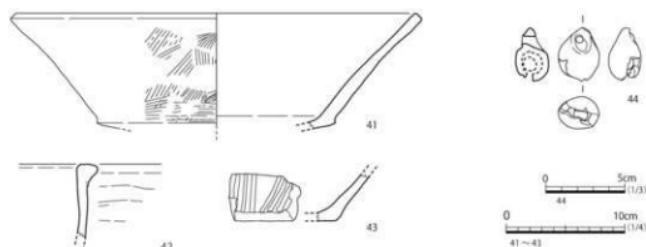
18は染付、19は土師質の皿である。18は肥前産陶器と考えられる。19は内面に波状の文様が施される。
 20は磁器皿で内面に赤絵が施される。21～23は磁器碗である。いずれも内外面に貫入が確認される。
 24・26は磁器皿である。24の内外面には貫入が確認される。
 25・27は磁器碗である。27は2号掘立柱建物P16より出土している。また、内面には貫入が確認される。
 28は片口小鉢である。福岡産と考えられる。29は1号掘立柱建物P27より出土した香炉である。外面には櫛描波状文が施される。30は2号掘立柱建物P10より出土した磁器(染付)皿である。
 31・32は磁器(染付)碗である。32の唇付には砂が付着する。33は磁器皿である。
 34～36は碗である。34は2号掘立柱建物P1より出土した磁器(染付)で内外面に貫入が確認される。
 35・36は陶器で35には外面胴部に重ね焼痕が残る。
 37は陶器壺である。外面に沈線がめぐり、肩部に耳部貼付けが施される。産地は肥前か福岡産と考えられる。
 38は陶器油さしで、注口が残る。福岡県上野産と考えられる。39は陶器火入(灰落)である。外面底部に文様が施される。40は瓦質土器の擂鉢である。41は土師質土器鉢である。外面に不定方向のハケが施される。42は土師質土器甕である。口縁部を肥厚させている。43は土師質土器擂鉢である。底部のみ残存する。44は土鈴である。内部には玉が残る。

石器・石製品（第38図）

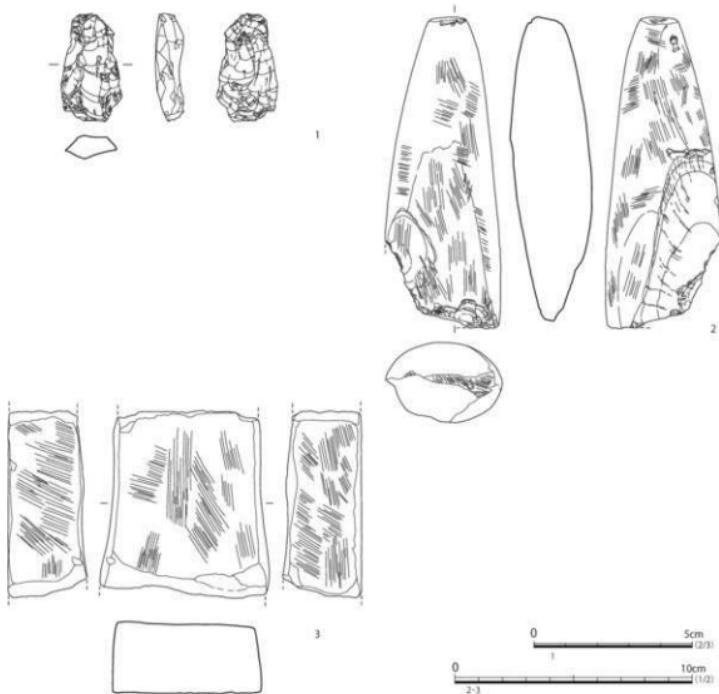
45は剥片で、石材は黒曜石である。46は磨製石斧で、石材は粘板岩と考えられる。47は砥石である。石材は扮石と考えられ、全面に使用痕が確認される。



第36図 B区出土遺物実測図3 (1/4)



第37図 B区出土遺物実測図4 (41～43:1/4、44:1/3)



第38図 B区出土遺物実測図5 (1:2/3、2+3:1/2)

(4) C 区の遺構と遺物 (第39図)

C 区は標高 405 m 前後に位置し、東西に細長い調査区で調査面積は 748.3m²を測る。今回の調査区の中で最も広い。南東側は傾斜が緩やかで、そこを中心に遺構が展開している。基本層序は、表土及び耕作土の直下約 60 cm 下から黄褐色土ローム層の遺構検出面を確認している。表土直下から遺構検出面を確認できることから、ここも B 区と同様に旧地形である緩斜面が削平されたものと考えられる。

調査では、掘立柱建物 3 棟、ピットが多数検出されている。また、北西側に向かうにつれて、傾斜がつきはじめ、それと同時に遺構密度も薄くなる状況がみられた。

1号掘立柱建物 (第40図、図版7)

1号掘立柱建物は、調査区北側に位置しており 2号建物を切る。梁間 1間×桁行 4 間の東西棟で、身舎面積は約 50m²である。その主軸方向は N - 77° - E をとる。北西隅の柱穴を 1ヶ所欠いている。柱間寸法は心心距離で梁間が東側辺で 5.3 m、桁行は北側辺で 2.3 ~ 2.6 m、南側辺で 2.3 ~ 2.4 m を測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形で、深さは検出面より約 50 ~ 80cm を測る。礎石や柱痕は確認できない。遺物は柱穴 P 3 より青磁碗口縁部片、P 7 より景德鎮窯系青花碗口縁部片が出土している。

2号掘立柱建物 (第41図、図版7)

2号掘立柱建物は、調査区北側に位置しており 1号建物によって切られる。梁間 1間×桁行 3 間の東西棟で、身舎面積は約 47.4m²である。その主軸方向は N - 77° - E をとる。北西隅の柱穴を 1ヶ所欠いている。柱間寸法は心心距離で梁間が東側辺で 5.1 m、桁行は北側辺で 2.6 ~ 3.6 m、南側辺で 3.0 ~ 3.2 m を測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形で、深さは検出面より約 30 ~ 75cm を測る。礎石や柱痕は確認できない。遺物は柱穴 P 5 より須恵器胸部片が出土している。

3号掘立柱建物 (第42図、図版7)

3号掘立柱建物は、1・2号建物の西側に位置する。梁間 2間×桁行 3 間の南北棟で、身舎面積は約 36.3m²である。その主軸方向は N - 21° - W をとる。梁間の南側辺及び桁行の東側辺の柱穴をそれぞれ 1ヶ所欠いている。柱間寸法は心心距離で梁間が北側辺で 2.3 m、南側辺で 4.6 m を測る。桁行は東側辺で 2.5 ~ 5.4 m、西側辺で 2.5 ~ 2.7 m を測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形で、深さは検出面より約 25 ~ 60cm を測る。礎石や柱痕は確認できない。柱穴から遺物は出土していない。

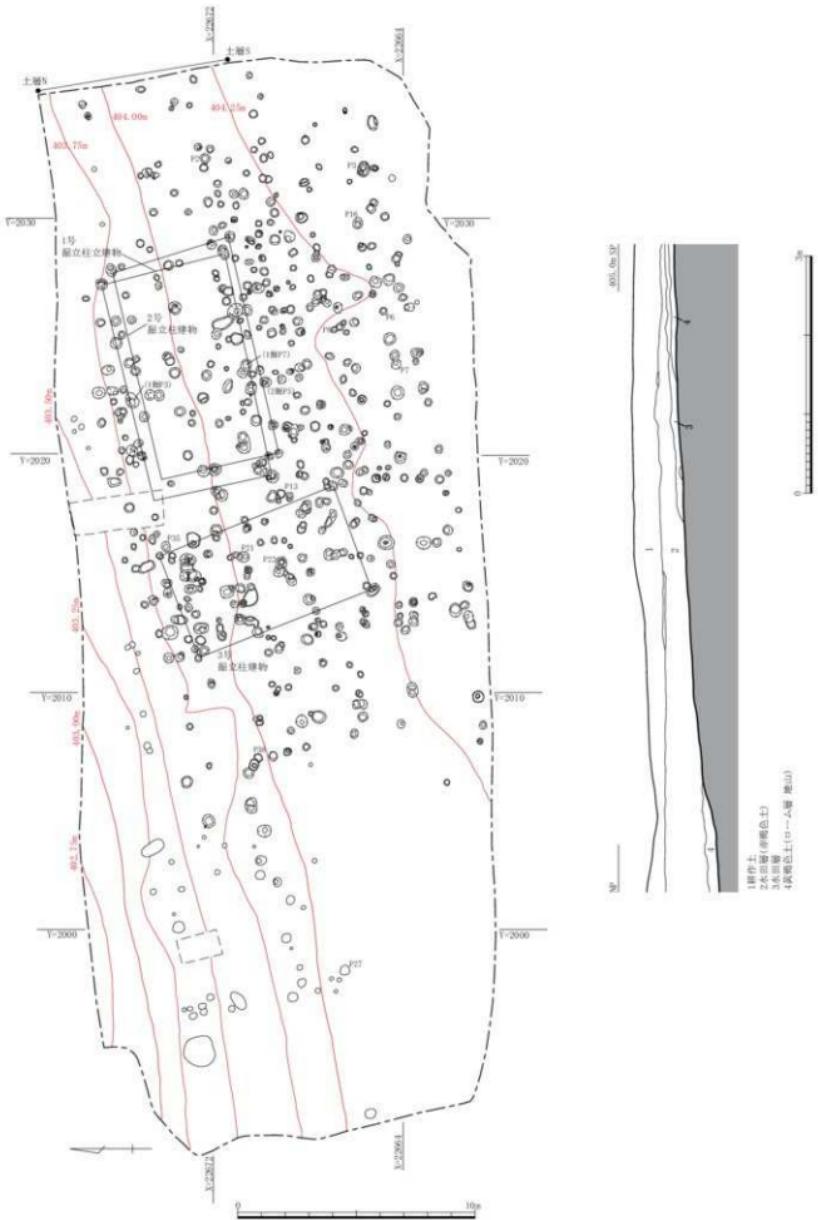
出土遺物 (第43図)

ここでは、C 区で出土した遺物をまとめて報告する。なお、掘立柱建物より出土した遺物には図版番号横に括弧書きで遺構名と柱穴番号を記している。その他の遺物については観察表を参照されたい。

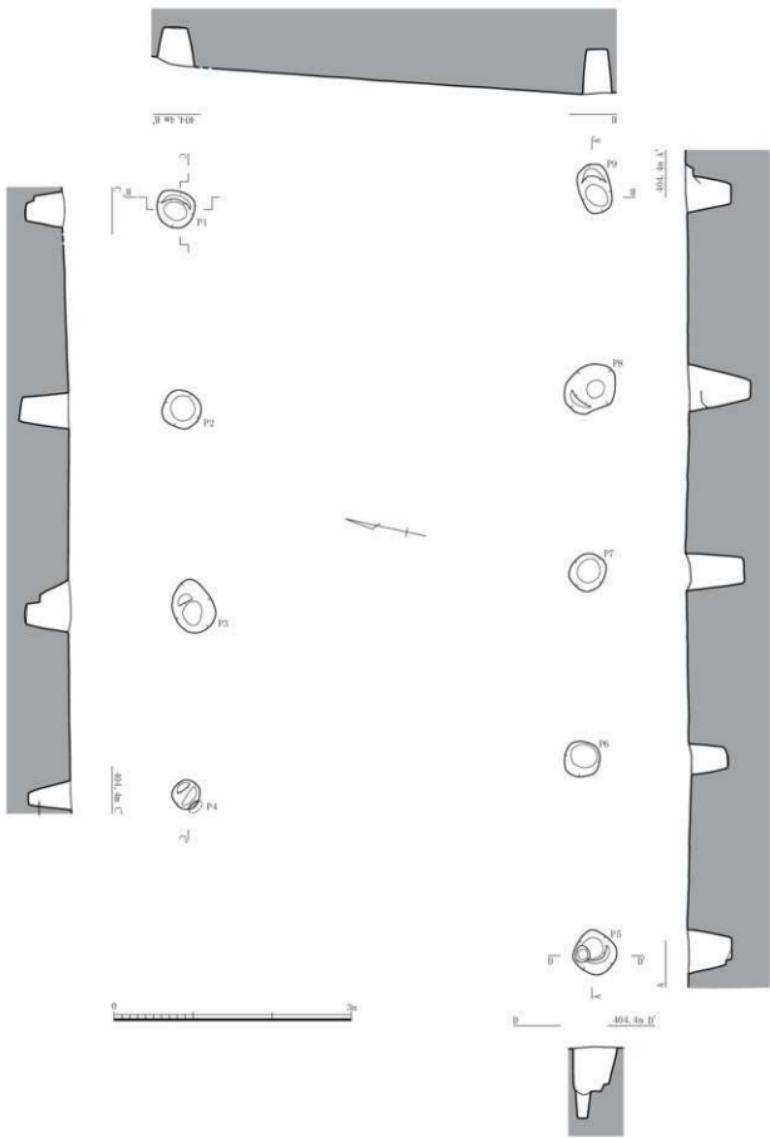
1・2は土師質土器の皿である。1は底部糸切り痕が残る。2の外面にはスヌが付着している。

3は陶器の甌または壺である。丹波または備前産と考えられる。4は陶器の袋物（甌・甕・瓶）である。北部九州か朝鮮半島系と考えられる。5は土師質土器の火鉢である。6は 2号掘立柱建物 P5 から出土した須恵器の甌である。内面にタタキ痕が残る。7・8は青磁碗である。8は内面に貫入がある。9は白磁碗である。

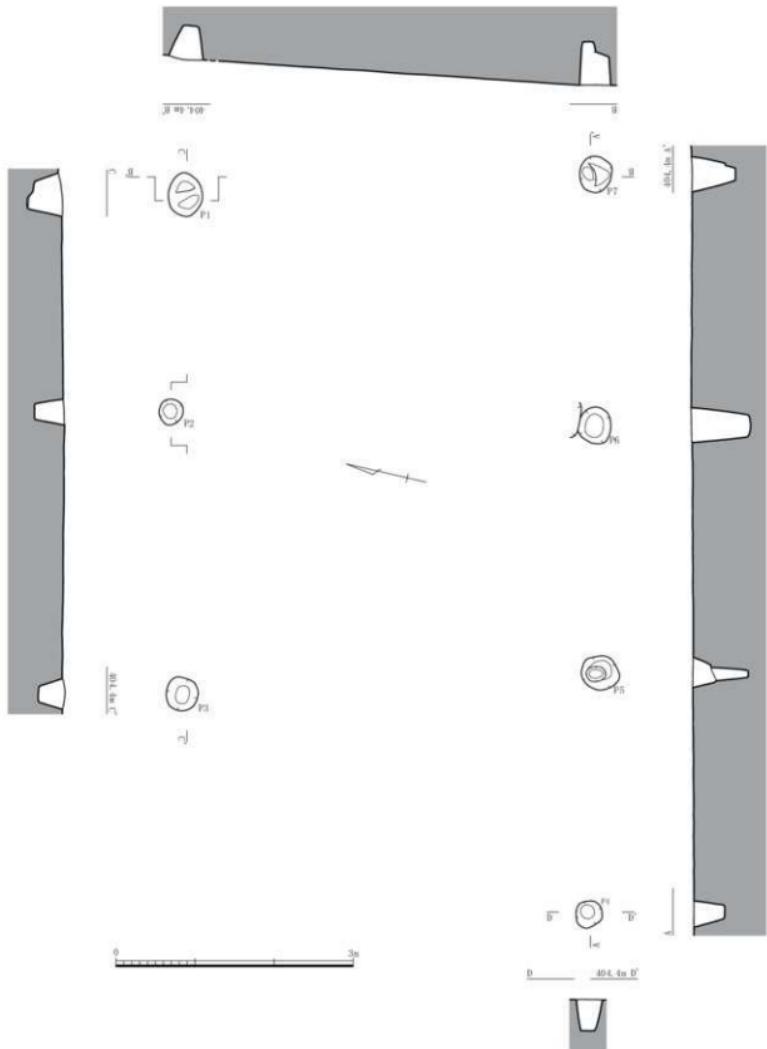
10は 1号掘立柱建物 P7 より出土した磁器碗である。景德鎮系で内外面に薄い貫入がある。軸厚は約 0.2mm である。



第39図 C区造構配置図及び土層断面図 (1/200・1/60)



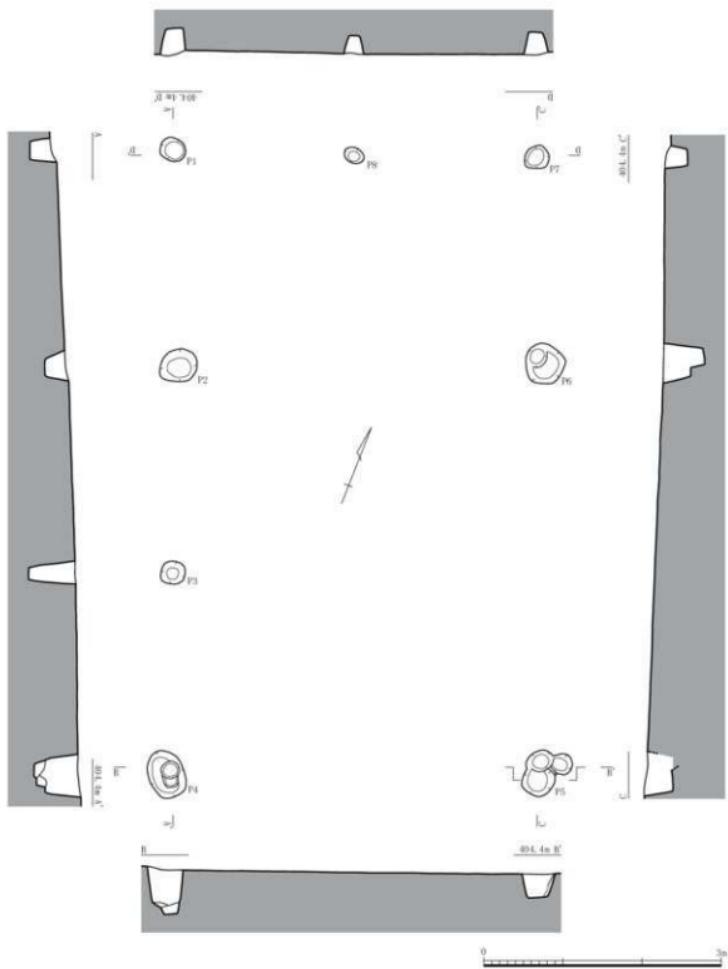
第40図 C区1号掘立柱建物実測図(1/60)



第41図 C区2号掘立柱建物実測図（1/60）

11は青磁皿である。外面に沈線が巡る。12・13は青磁碗で12は1号掘立柱建物P3より出土している。龍泉窯系と考えられる。

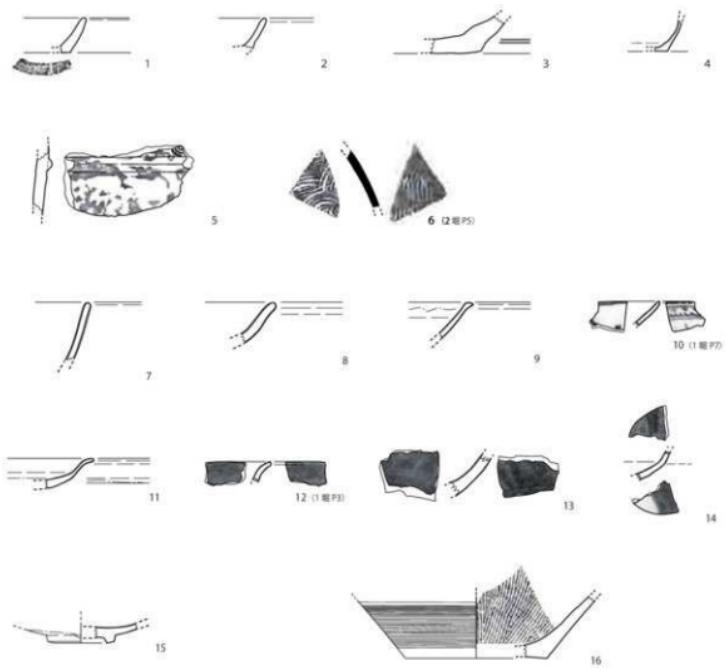
14は青磁皿である。軸厚是非常に薄い。15は白磁碗である。内外面に貫入が入る。16は陶器の描跡である。福岡県小石原産の可能性があり、17世紀の所産と考えられる。



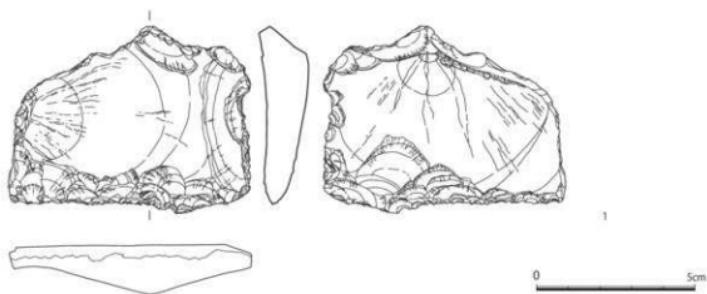
第4.2図 C区3号掘立柱建物実測図(1/60)

石器・石製品(第4.3図)

1は削器で、石材は安山岩と考えられる。



第4-3図 C区出土遺物実測図1 (1~6:1/4、7~16:1/3)



第4-4図 C区出土遺物実測図2 (2/3)

(5) D 区の遺構と遺物 (第45図、図版8)

D 区は C 区の北側、標高約 401m 前後に位置する。調査面積は 731.3 m²で C 区と同様に南側は傾斜が緩やかで北側に向かって傾斜がつきはじめる。調査では、掘立柱建物 2 棟、竪穴建物 1 軒、ピットが多数検出されている。一部、規則的に並んでいるピット列が確認されるが、規模・埋土の状況と地元住民の話からビニールハウスの痕跡であると判断した。

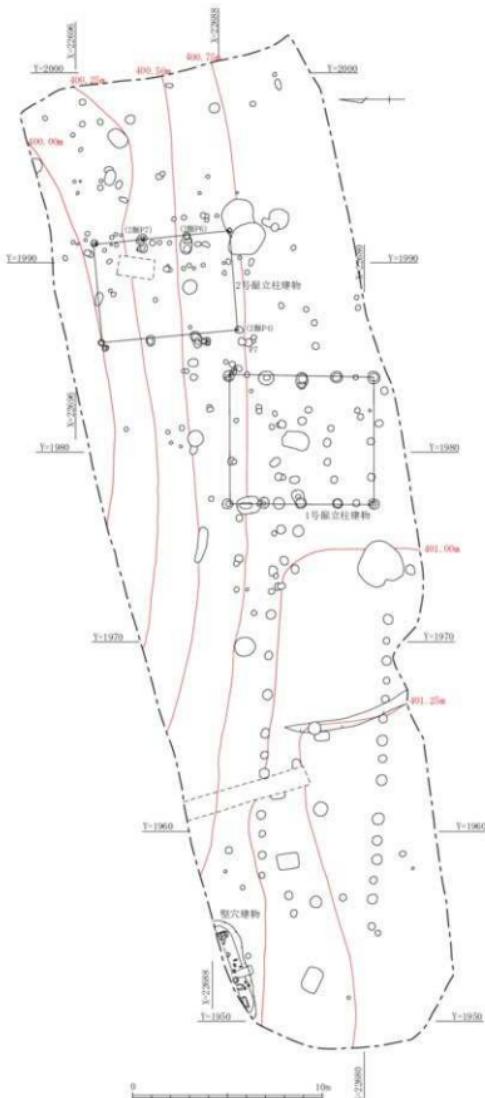
基本層序は、C 区と同様であるが、C 区に比べて傾斜が大きく北と南で検出面が大きく異なる。

また、ここで検出されている竪穴建物については、写真撮影を失念したため、実測図及び断面図の写真(図版8の④)のみの掲載となっている。

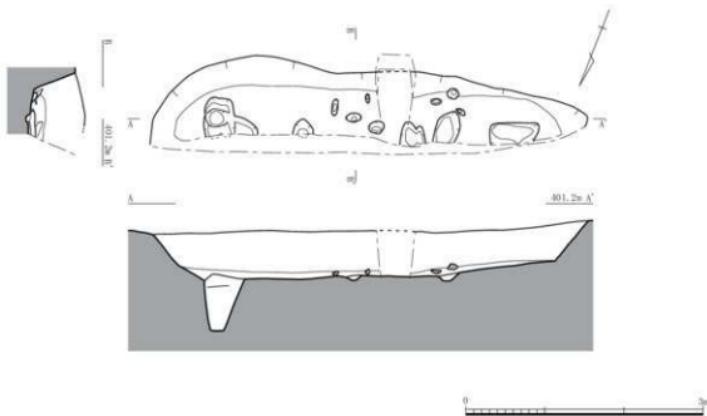
1. 竪穴建物

(第46図、図版8)

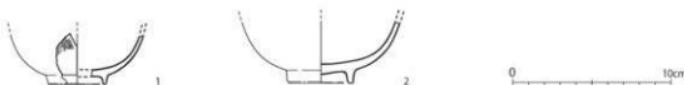
竪穴建物は、調査区の北西隅に位置しているが、その大半は北側の調査区外となる。平面形態は隅丸方形状を呈すると考えられ、主軸方位は N - 22° - W をとる。その規模は南側辺約 5.5 m × 東側辺 1.2 m + α、深さは検出面より約 60cm である。床面は平坦で、壁面は南側辺が急角度に、東・西側辺では緩やかに立ち上がる。南東隅に主柱穴が 1ヶ所残るが、その深さは床面より約 60cm である。遺物は近世染付碗及び磁器碗が出土している。



第45図 D区遺構配置図 (1/250)



第46図 D区竪穴建物実測図(1/60)



第47図 D区竪穴出土遺物実測図(1/4)

出土遺物(第47図)

1・2は碗である。1は磁器(染付)で内外面に貫入があり、外面にコンニャク印判が施される。2は磁器で福岡産か、焼成は不良である。

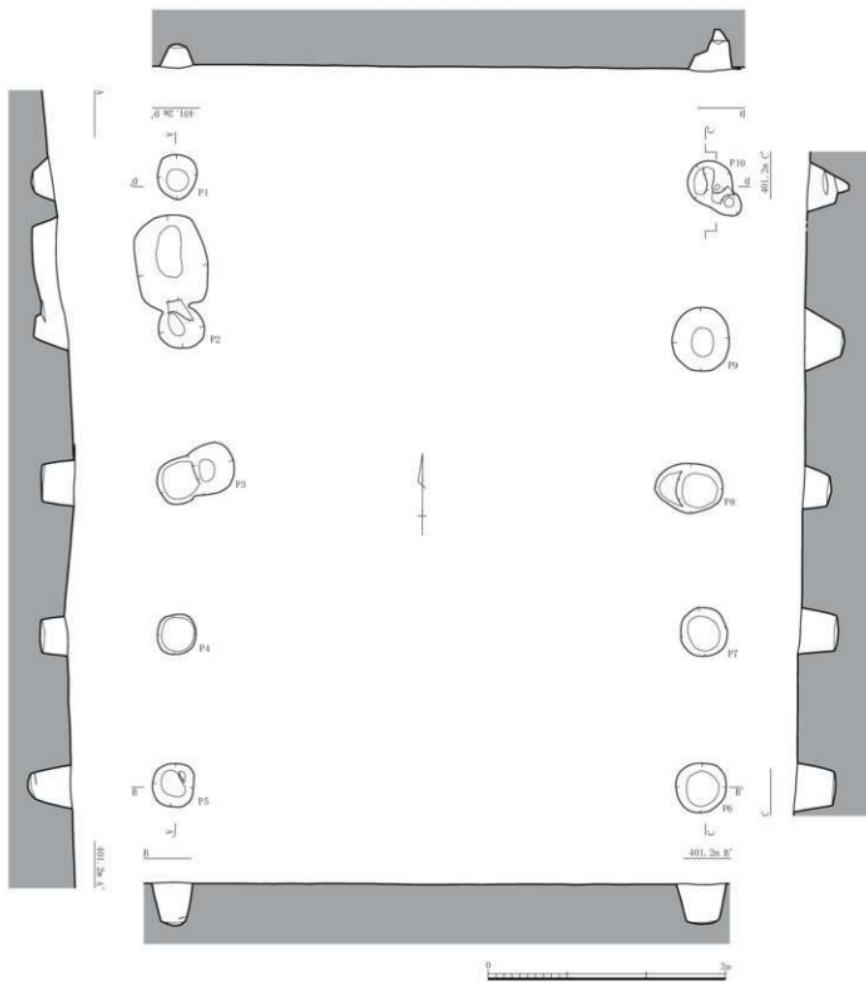
2. 掘立柱建物

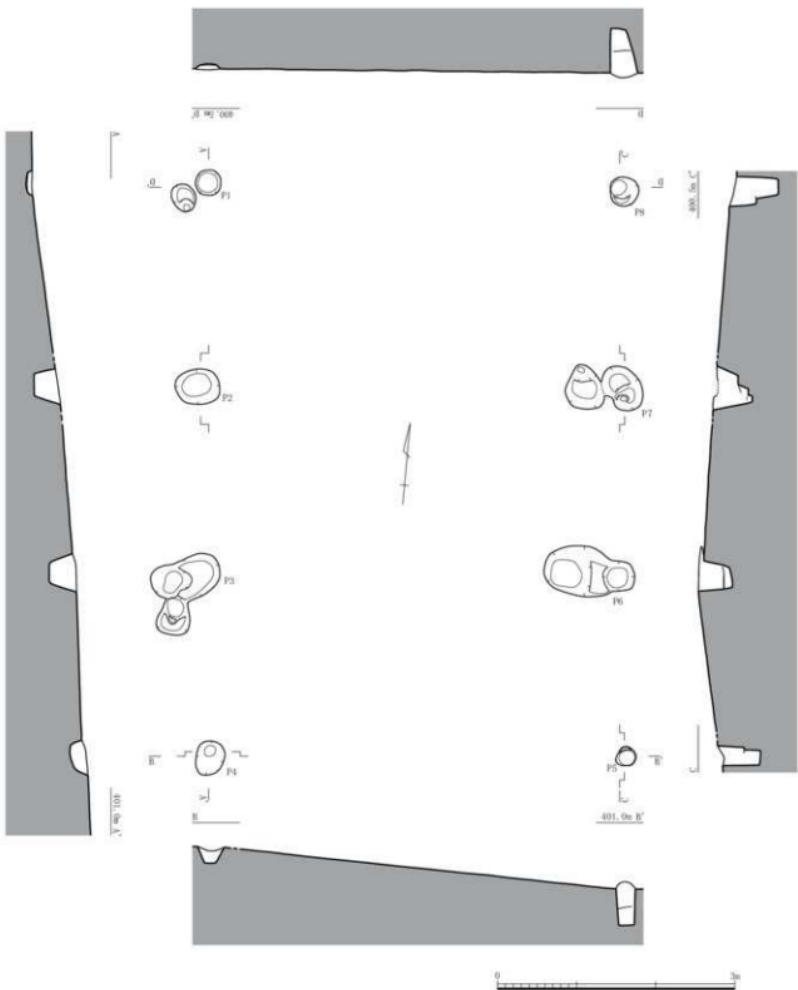
1号掘立柱建物(第48図、図版8)

1号掘立柱建物は、調査区の中央に位置する。梁間1間×桁行4間の南北棟で、その身合面積は約52.4m²である。その主軸方向はN-1°-Eをとる。柱間寸法は心心距離で梁間が北側辺で6.7m、南側辺で6.8m、桁行は東側辺で1.8~2.0m、西側辺で1.8~2.0mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形で、深さは検出面より約30~55cmを測る。礎石や柱痕は確認できない。遺物は出土していない。

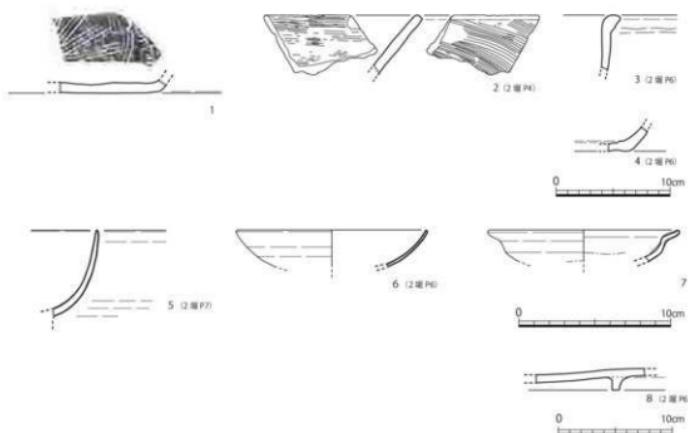
2号掘立柱建物(第49図、図版8)

2号掘立柱建物は、1号掘立柱建物の北東側に位置する。梁間1間×桁行3間の南北棟で、身合面積は約38.2m²である。その主軸方向はN-4°-Wをとる。柱間寸法は心心距離で梁間が北側辺で5.2m、南側辺で5.3m、桁行は東側辺で2.2~2.7m、西側辺で2.2~2.5mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形で、深さは検出面より約10~60cmを測る。礎石や柱痕は確認できない。遺物は柱穴P4より瓦質土器鉢口縁部片、P6より土師質土器小皿底部片・瓦質土器甕口縁部片・盤底部片・陶器皿口縁部、P7より陶器碗口縁部片が出土している。





第49図 D区2号掘立柱建物実測図 (1/60)



第50図 D区出土遺物実測図1 (1/4)

出土遺物（第50図）

ここでは、D区で出土した遺物・石製品をまとめて報告する。なお、掘立柱建物より出土した遺物には図版番号横に括弧書きで遺構名と柱穴番号を記している。その他の遺物については観察表を参照されたい。

1は瓦質土器の摺鉢である。2は2号掘立柱建物P4より出土した瓦質土器の鉢である。

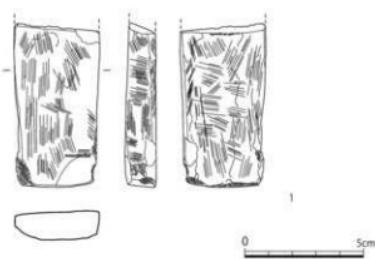
3は瓦質土器の甕である。4は瓦質土器の皿である。底部に糸切り痕が残る。また、3・4は2号掘立柱建物P6より出土している。

5は2号掘立柱建物P7より出土した陶器の碗である。内外面に貫入が入る。肥前か福岡産と考えられる。

6・7は陶器の皿である。6は2号掘立柱建物P6より出土している。内外面には貫入が入る。福岡県の小石原産と考えられる。7は福岡産と考えられる。8は2号掘立柱建物P6より出土した瓦質土器の盤である。

石器・石製品（第51図）

1は砥石である。石材は粘板岩と考えられる。



第51図 D区出土遺物実測図2 (3/4)

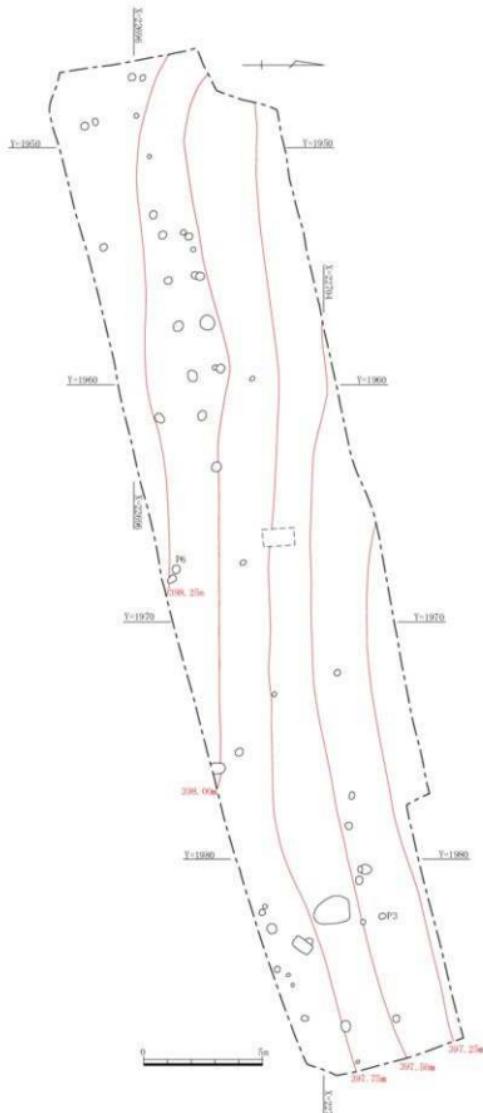
(6) E 区の遺構と遺物(第52図、図版8)

E 区は D 区の北側、標高約 399m 前後に位置する。調査面積は 370m²である。その他の調査区と異なり、ここではピット以外の遺構は検出されておらず、遺構密度も希薄な状況が確認された。

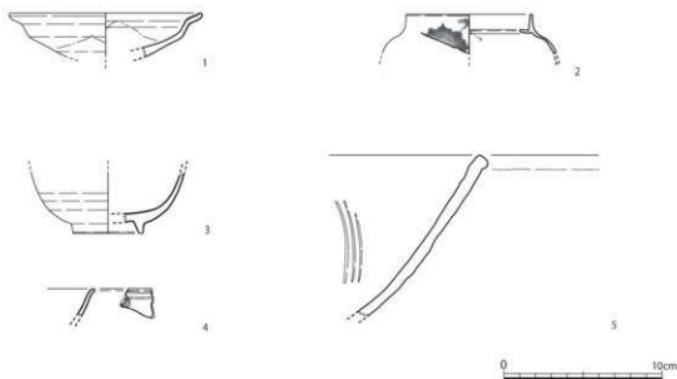
基本層序は、C・D 区と同様で表土・耕作土を約 70cm 除去したのちその下位から黄褐色土の遺構検出面を確認している。検出面は、南から北側に向かって検出面は緩やかに傾斜している。

出土遺物(第53図)

- 1 は陶器の皿である。福岡産と考えられる。
- 2 は磁器の土瓶である。3・4 は碗である。
- 3 は小石原産で内外面には貫入が入る。4 は肥前産と考えられる。
- 5 は瓦質土器の擂鉢である。



第52図 E区遺構配置図(1/200)



第5-3図 E区出土遺物実測図 (1/4)

(7) F区の遺構と遺物 (第5-4図、図版9)

F区はE区の北西、標高約396m前後に位置する。調査面積は735m²である。B～E区に比べて検出面の傾斜がほとんどなく、緩斜面上でも比較的安定した場所であったと考えられる。基本層序はC区などと同様で表土・耕作土を30cm程度除去したのちに黄褐色土の遺構検出面を確認しているが、C～E区のように調査区内で検出面の違いはほとんどない。

遺構は、掘立柱建物2棟、ピットが多数検出されている。

1号掘立柱建物 (第5-5図、図版9)

1号掘立柱建物は、調査区の西側に位置する。梁間1間×桁行4間の南北棟で、身舎面積は約55.5m²である。その主軸方向はN-18°-Wをとる。柱間寸法は心心距離で梁間が北側辺で5.0m、南側辺で5.0m、桁行は東側辺で2.4～2.8m、西側辺で2.5～3.0mを測る。柱穴の平面形態は円形及び梢円形で、深さは検出面より約40～75cmを測る。礎石や柱痕は確認できない。柱穴より遺物は出土していない。

2号掘立柱建物 (第5-6図、図版9)

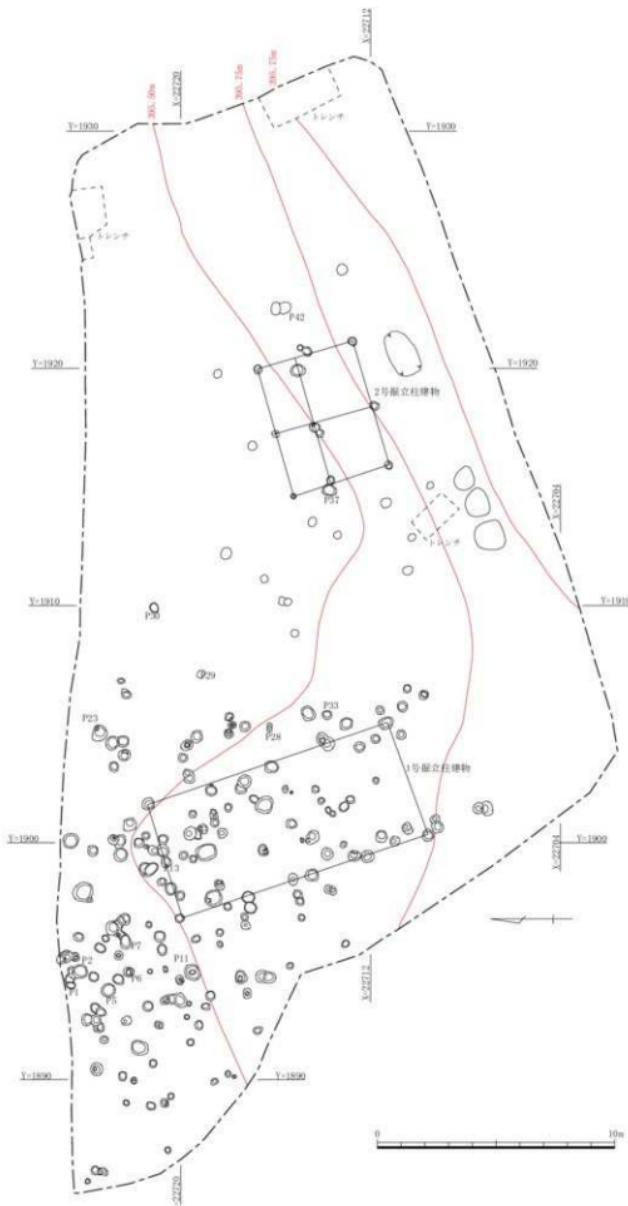
2号掘立柱建物は、調査区の東側に位置する。梁間2間×桁行2間の縦柱建物で、身舎面積は約24.1m²である。その主軸方向はN-73°-Eをとる。柱間寸法は心心距離で梁間が東側辺で1.7～2.6m、西側辺で1.6～2.6m、桁行は北側辺で2.8m、南側辺で2.6～2.8mを測る。柱穴の平面形態は円形及び梢円形で、深さは検出面より約10～45cmを測る。礎石や柱痕は確認できない。柱穴より遺物は出土していない。

出土遺物 (第5-7図)

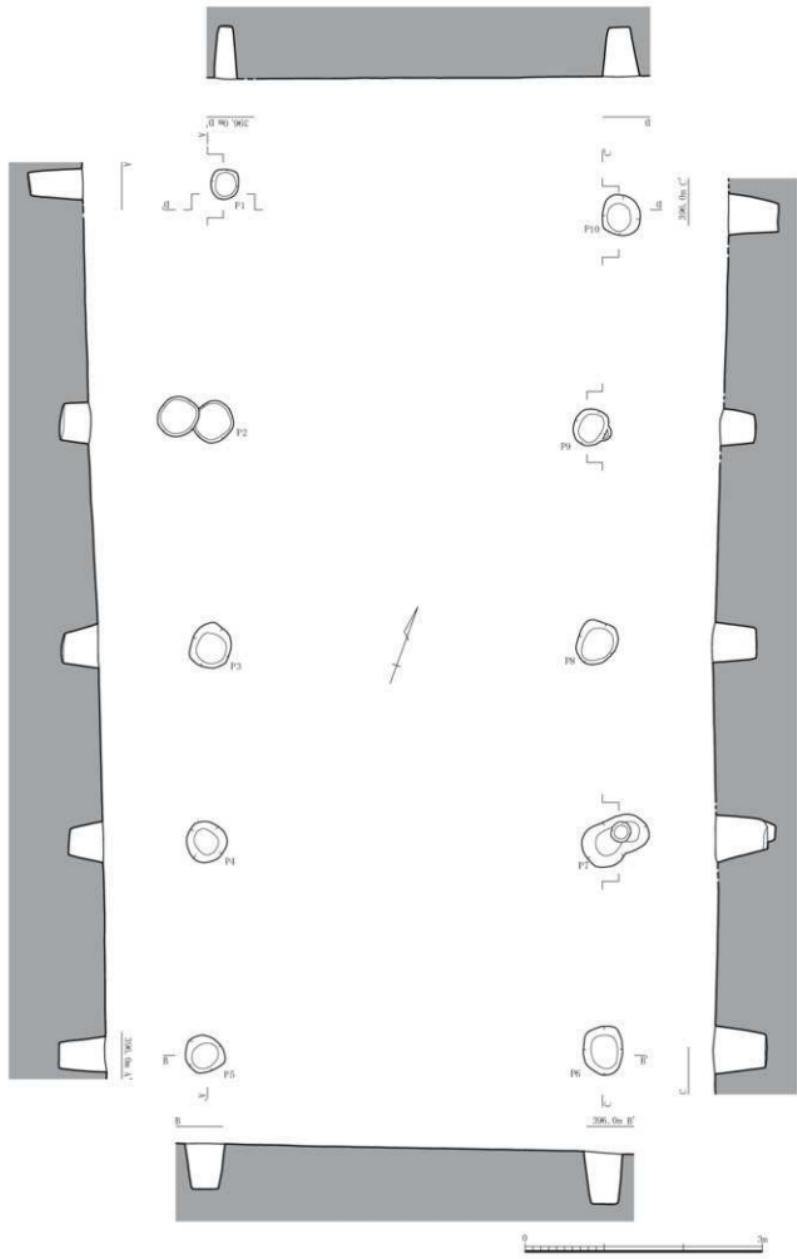
1は土師質土器の皿で底部糸切り離しである。2は青磁碗である。貫入が入る。外面に細い連弁文が施される。3は陶器の甕である。備前焼と考えられる。

4～7は土師質土器の皿である。4は脚が1ヶ所残る。5～7の底部は糸切り離しである。

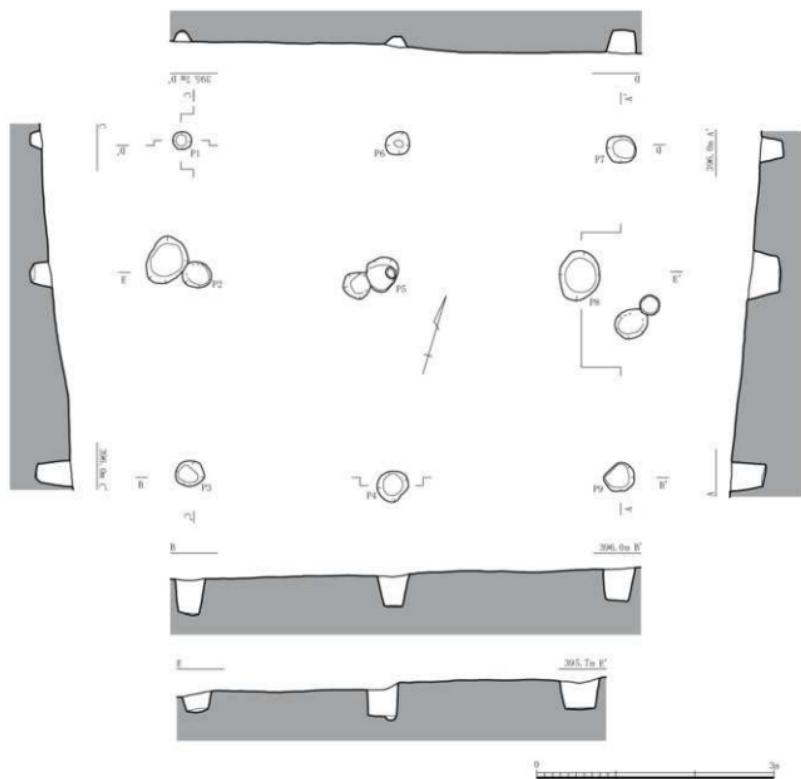
8は土師質土器の灯明皿である。口縁端部にススが付着する。9・10は土師質土器の甕である。ともに口縁部



第54図 F区遺構配置図 (1/200)



第55図 F区1号掘立柱建物実測図(1/60)



第56図 F区2号掘立柱建物実測図(1/60)

のみ残存しており、9は内外面に指オサエが残る。10は外面に赤色顔料が付着する。

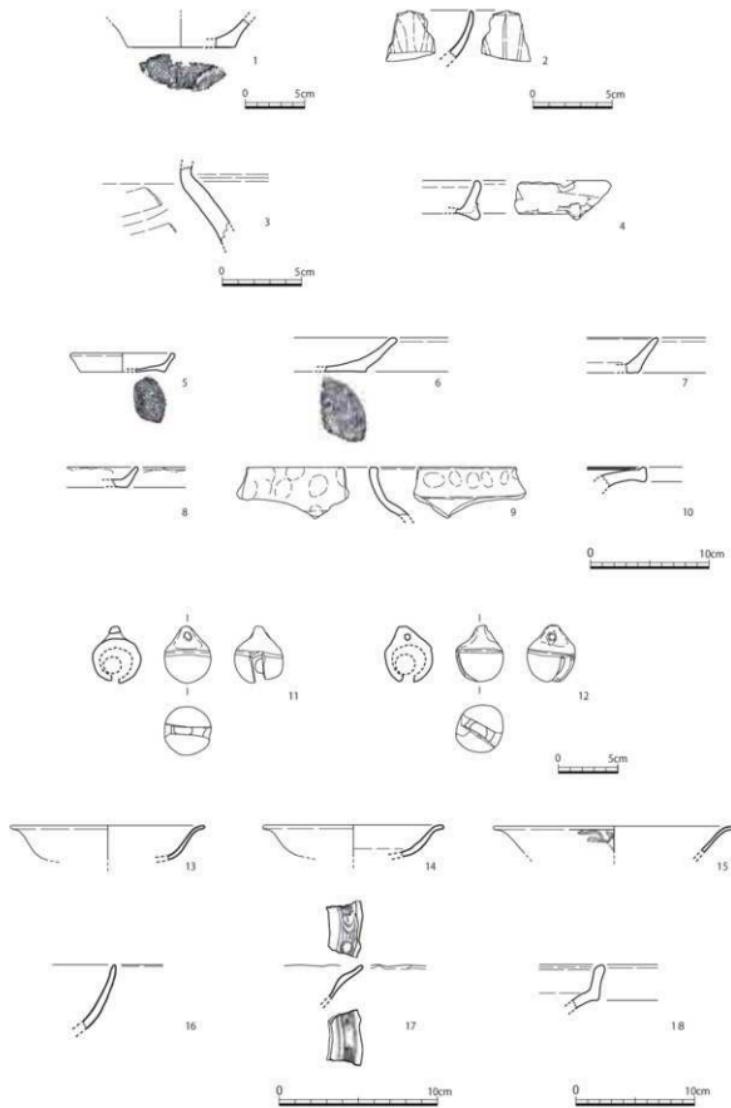
11・12は土鉢である。13・14は白磁の皿である。

15は磁器(染付)の碗である。焼成はやや不良である。16は陶器碗である。福岡産と考えられる。

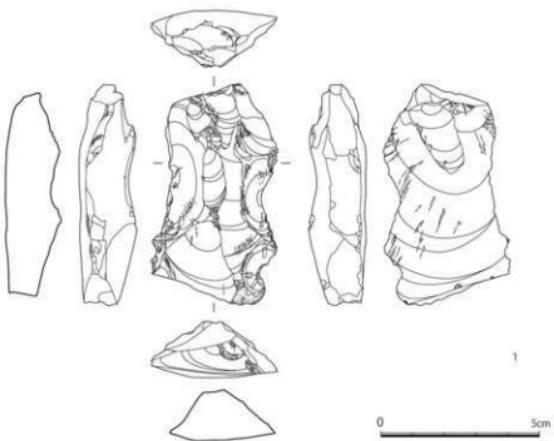
17は磁器(染付)の皿である。口縁端部に文様が巡る。18は陶器の擂鉢である。口唇部に工具痕が残る。

石器・石製品(第59図)

1は石核である。石材は流紋岩と考えられる。



第57図 F区出土遺物実測図1 (1/4)



第58図 F区出土遺物実測図2 (1/2)

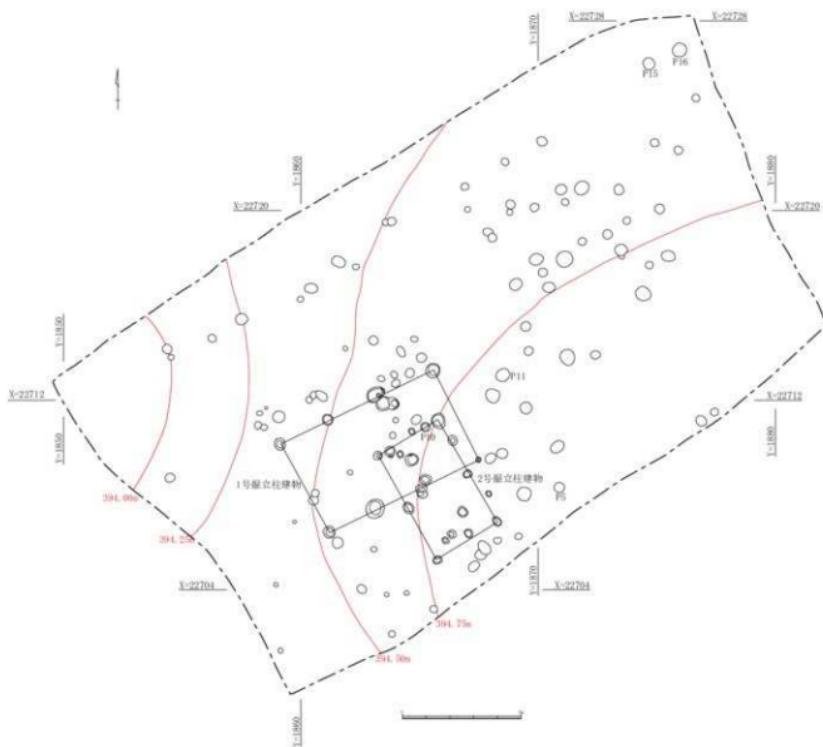
(8) G 区の遺構と遺物 (第59図)

G 区は F 区の西側、標高約 395m 前後に位置する。調査面積は 482.5m²である。基本層序は C 区などの調査区と同様で耕作土が約 20cm 堆積しており、その直下で黄褐色土の検出面が確認される。F 区と同様に調査区内での傾斜がほとんどないが、F 区と異なり検出面からは地盤に伴うと考えられる礫が多く出土していることから、旧地形が F 区に比べて高くなっていたと考えられる。

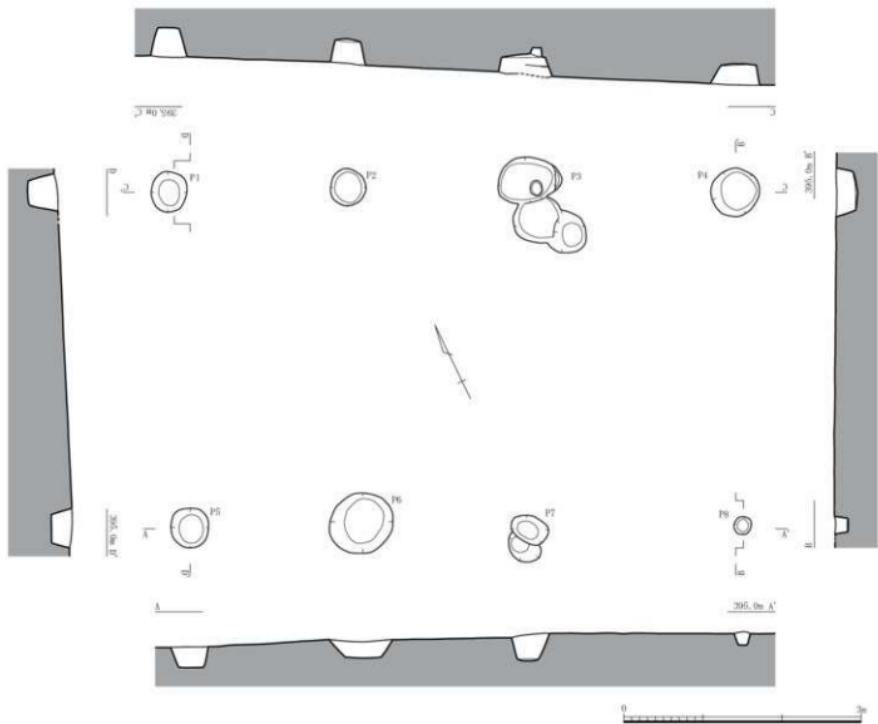
調査では、掘立柱建物 2 棟とピットが多数検出されている。

1号掘立柱建物 (第60図・図版9)

1号掘立柱建物は、調査区の南西側に位置する。2号建物と重複するが、その切り合い関係は不明である。梁間 1間 × 衍行 3間の東西棟で、その身舎面積は約 29.8m²である。主軸方向は N - 64° - W をとる。柱間寸法は心心距離で梁間が東側辺で 4.2 m、西側辺で 4.2 m、衍行の柱間寸法は北側辺で 2.2 ~ 2.5 m、南側辺で 2.1 ~



第59図 G区遺構配置図 (1/200)



第60図 G区1号掘立柱建物実測図(1/60)

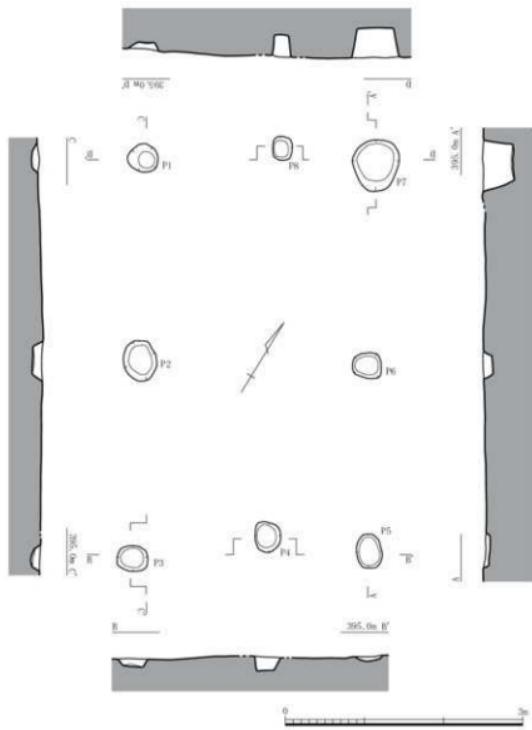
2.7mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形で、深さは検出面より約15~40cmを測る。礎石や柱痕は確認できない。柱穴より遺物は出土していない。

2号掘立柱建物(第61図)

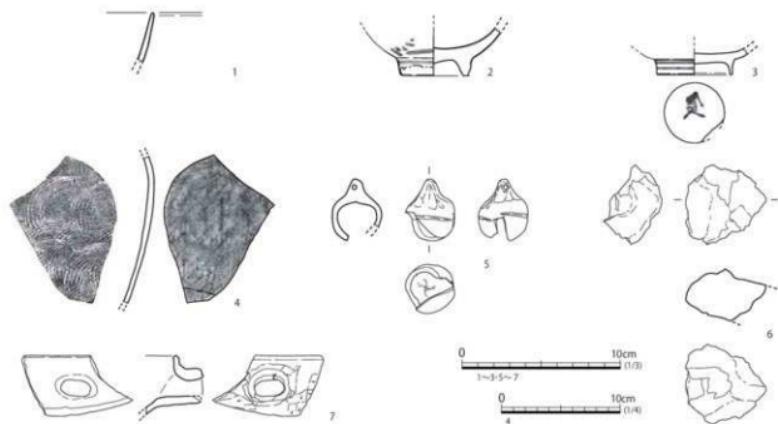
2号建物は、梁間2間×桁行2間の南北棟で、その身舎面積は約14.5m²である。主軸方向はN-30°-Wをとる。柱間寸法は心心距離で梁間が北側辺で1.2~1.7m、南側辺で1.2~1.7m、桁行は東側辺で2.4~2.6m、西側辺で2.5mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形で、深さは検出面より約10~40cmを測る。礎石や柱痕は確認できない。柱穴より遺物は出土していない。

出土遺物(第62図)

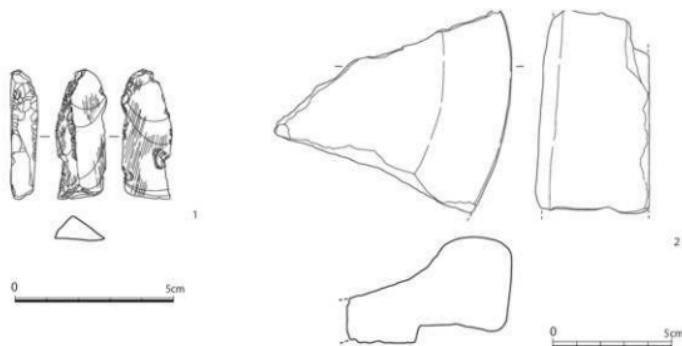
ここでは、G区で出土した遺物の報告をおこなう。なお、IV自然科学分析で後述する漆器椀もこの調査区より出土(P-5)している。しかし、胎部が消失し塗膜部分しか残存していない状態で、実測に耐えることができないことから、IV自然科学分析に調査結果と合わせて写真のみの掲載をしている。残存している塗膜部分の計測結果は口径(12.0cm)、器高(2.5cm)となっている。



第61図 G区2号掘立柱建物実測図 (1/60)



第62図 G区出土遺物実測図1 (1~3・5・6: 1/3、4: 1/4)



第6-3図 G区出土遺物実測図2 (1:2/3、2:1/2)

1～3は磁器の碗である。2・3は染付である。いずれも肥前産と考えられる。3は高台内に変形文字が施される。4は陶器の甕または壺である。肥前・福岡産と考えられる。5は土師質土器の土鉢である。6は土製品のフイゴ羽口である。7は土師質土器の水注である。注口のみ残存している。

石器・石製品（第6-3図）

1は縦長剥片である。石材は姫島産黒曜石と考えられる。2は石臼である。



写真4 出口遺跡G区出土漆器椀

IV 自然科学分析

出口遺跡出土漆器椀の塗膜分析

株式会社パレオ・ラボ
竹原 弘展・藤根 久・米田 恵子

1. はじめに

出口遺跡より出土した漆器椀について、塗膜薄片を作製し、塗膜構造と材料について検討した。

なお、分析にあたって、藤根が赤外分光分析、米田・竹原が薄片作製、竹原が顕微鏡観察・X線分析を行い、竹原がまとめた。

2. 試料と方法

分析対象は、G区のピットP-5より伏せられた状態で出土した内外面赤色の漆器椀1点である。ピットは浅く、遺構の検出段階からすでに漆器椀が確認されていた。時期は、中世以降で近世までは下らないとみられている。胎部は残存しておらず、塗膜のみが残っている状況であった。漆器外面の一部とみられる小破片を、分析試料とした。

分析は、表面の漆成分を調べるために赤外分光分析を行った。また、塗膜構造を調べるために薄片を作製して、光学顕微鏡と走査型電子顕微鏡による観察、およびX線分析を行った。

赤外分光分析は、手術メスを用いて小破片から一部採取した試料を、厚さ1mm程度に裁断した臭化カリウム(KBr)結晶板に挟み、油圧プレス器を用いて約7トンで加圧整形し、測定試料とした。分析装置は日本分光(株)製フーリエ変換型顕微赤外分光光度計FT/IR-410、IRT-30-16を使用し、透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。

塗膜観察用の薄片は、高透明エポキシ樹脂を使用して包埋し、薄片作製機および精密研磨フィルム(#1000)を用いて厚さ約50μm前後に仕上げ、まず走査型電子顕微鏡(日本電子株式会社製JSM-5900LV)による反射電子像観察を行った。さらに、主に赤色塗膜層等を対象として、

第2表 生漆と赤外吸収位置とその強度

電子顕微鏡に付属するエネルギー分散型X線分析装置(同JED-2200)による定性・簡易定量分析を行った。

その後、再度精密研磨フィルム(#1000)を用いて厚さ約20μm前後に調整した後、生物顕微鏡を用いて塗膜構造の観察を行った。

3. 結果および考察

以下に、塗膜分析結果について述べる。なお、表5に示す赤外吸収スペクトルは、縦軸が透過率(%R)、横軸が波数(Wavenumber(cm⁻¹)；カイザー)を示す。また、各スペクトルはノーマライズしてあり、吸収スペクトルに示した数字は、生漆の赤外吸収位置を示す(表2)。実線が塗膜、点線が生漆の赤外吸収スペクトルを示す。

塗膜薄片からは、下地b1～b2層と、透明漆層c1

吸収 No.	生漆		
	位置	強度	ウルシ成分
1	2925.48	28.5337	
2	2854.13	36.2174	
3	1710.55	42.0346	
4	1633.41	48.8327	
5	1454.06	47.1946	
6	1351.86	50.8030	ウルシオール
7	1270.86	46.3336	ウルシオール
8	1218.79	47.5362	ウルシオール
9	1087.66	53.8428	
10	727.03	75.3890	

第3表 赤色塗膜層等のX線分析結果 (mass%)

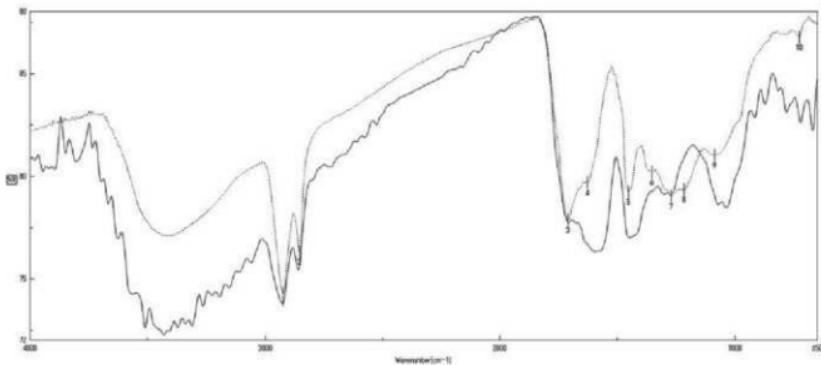
塗膜層	C	Al ^{IV} O ³	SiO ²	SO ⁴	CaO	Fe ^{IV} O ³	HgO
b1層	55.66	8.23	22.33	—	1.64	12.14	—
c3層	64.78	—	2.52	9.77	—	—	22.93

～c2層、赤色漆層c3層の5層が観察された（写真5）。下地b1層はX線分析結果でケイ素（SiO₂）、鉄（Fe₂O₃）、アルミニウム（Al₂O₃）などが検出されたため土の下地、下地b2層は顕微鏡観察より黄褐色の層に黒色物が混ざっている様子が観察され、炭粉漆下地と考えられる。塗膜層の赤外分光分析では、漆などの有機物に見られる炭化水素の吸収（吸収No.1およびNo.2）が明瞭に見られた。また、生漆を特徴づけるウルシオールの一部吸収（吸収No.7）が明瞭に認められ、漆と同定された（表2、5）。赤色漆層c3層からは、X線分析で水銀（HgO）と硫黄（SO₃）が検出され（表3）、水銀朱の使用が確認された。塗膜の特徴を表4にまとめる。

4. おわりに

出口遺跡から出土した漆器椀について塗膜分析を行い、塗膜構造や材料について検討した。その結果、土の下地の上に炭粉漆下地が観察され、さらにその上に透明漆層が2層、水銀朱を用いた赤色漆層が1層塗られていた。

第5表 漆器椀塗膜の赤外線スペクトル（縦軸が透過率（%R）、横軸が波数（Wavenumber (cm⁻¹)）



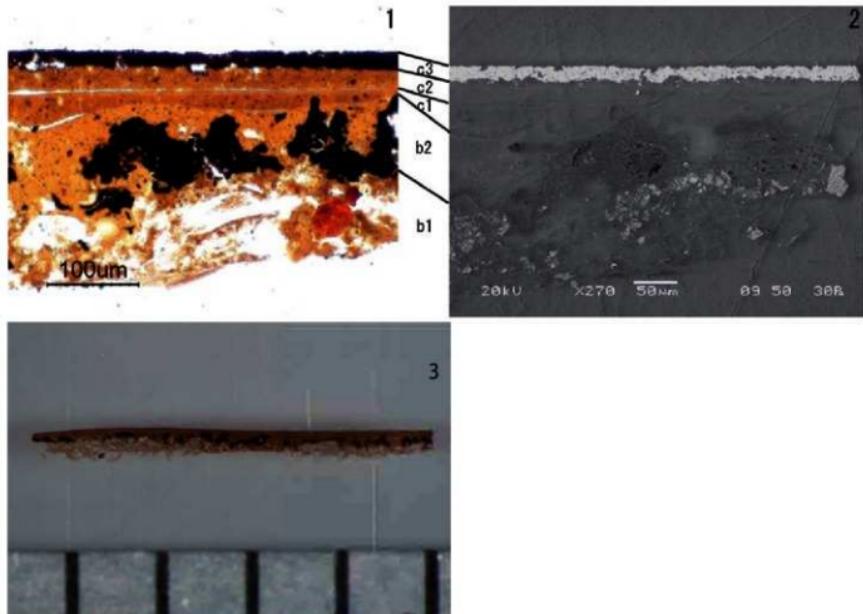


写真5 漆器椀赤色塗膜断面
1. 塗膜構造 2 SEM 反射電子像 3. 剥片全体（スケールは1mm目盛）



写真6 塗膜分析資料（漆器椀）

V 総括

ここまで、出口遺跡の調査で確認された遺構・遺物の内容について述べてきた。本章では、前章までの報告を踏まえて、遺構の時期・性格について検討していく。また、本遺跡を含む出口地区の状況についても考えておきたい。

各遺構の時期・性格について

出口遺跡では、掘立柱建物 11 棟、竪穴建物 1 軒、土坑 1 基、包含層 1 面、ピットが多数検出されている。ここでは、各遺構の時期や性格について主な遺物や遺構の特徴から各時期区分を設定して個別に検討をおこなっていく。各時期区分について、縄文土器は水ノ江和同氏によって検討された編年(註1)を主に用い、土師器の編年は渡邊隆行氏によって検討された編年(註2)主に用いている。また、陶磁器等は註釈の文献(註3・5)等を参考にして設定を試みている。

【縄文時代後期前葉頃】

A 区で検出された土坑や包含層がこの時期にあたる。7ヶ所ある調査区の中で唯一、縄文時代の遺構が確認されており、出土した縄文土器は、全部で 300 点以上にのぼる。出土した土器を有文と無文とに分けてみると、文様の有るものについては大きく磨消縄文を施したものと、凹線文を施したものに分けることができる。

前者は瀬戸内系の特徴を持つ土器群で、2 条の沈線を単位として文様帯をつくり、そこに縄文を施し、それ以外を磨消す中津式の特徴を持つ土器（第 11 図 3 など）や口縁部を肥厚させ文様帯をつくり、3 本の沈線を器面上にめぐらせ、その内側だけに縄文を施し、沈線内部に赤色顔料を塗る福田 K II 式の特徴を持つ土器（第 11 図 6・8、第 12 図 26・27 など）が出土している。

後者は中期から続く阿高式土器の系譜を引くと考えられる土器群で直線的な凹線文が施される南福寺式土器（第 13 図 68）やそれに続く出水式土器（第 13 図 79 図）に加えて、阿高式土器の特徴の一つである滑石を含む土器（第 24 図 43 など）も出土しており、水ノ江氏による分類(註4)でいう中九州地域の特徴の特徴を持つ土器群と考えられる。このほか、同時期の遺物として西和田式（第 7 図 1～4 など）コウゴー松式（第 11 図 12・13 など）の特徴を持つ土器も出土している。これらの時期について、磨消縄文を持つ土器群は縄文時代後期前葉、凹線文を持つ土器群は縄文中期末から後期前葉頃の時期に充てられており、これら土器群が層位・平面的にまとまって出土していることから、これらの遺物は同時期性が高く、縄文時代後期前葉の比較的限られた期間に廃棄されていたと想定することができる。

無文土器については、その特徴を有文土器のように時期比定することが難しいが、有文土器と入り混じって出土することから時期差は大きくないものと考えられる。

以上の特徴から、縄文時代の包含層が形成された時期は、縄文時代後期前葉頃にほぼ収まるものと考えられよう。前章でも触れたように焼土や炭化物などは確認されないことや上面に生活遺構も確認されていないことから生活面そのものとは考え難く、また土器の多くが磨滅を受けていないことなどから土器の廃棄場であったと考えておきたい。包含層の下層で検出された土坑は包含層と埋土がほぼ同じであることから同時期の遺構で、生活面がこの周囲に移動して土器が廃棄されたと考えられる。

【中世（13世紀後半～14世紀）】

この時期の遺構としては、C 区の掘立柱建物が挙げられる。1 号掘立柱建物の柱穴からは龍泉窯系の青磁片（第

43図12)が出土していること、3号掘立柱建物では上田編年B-1類と想定される青磁碗(第43図13)やA-2類と想定される青磁碗(第43図7)や森田編年A群に見られるような白磁碗(第43図9・15)が出土しているほか、土師器では渡邊編年II期と想定される壺(第43図1)が出土していることから、13世紀後半~14世紀頃と想定した。2号掘立柱建物については、古代の須恵器片が出土しているが、1号掘立柱建物と軸がほぼ同じである点、柱穴の規模や深さが同規模であることから1号掘立柱建物と同時期の遺構と想定している。

[近世(17世紀後半~18世紀前半)]

この時期の遺構としては、B、D~G区の建物が対象となる。B区1・2号掘立柱建物の柱穴からは、近世の輸入磁器(第34図1)や17世紀後半~18世紀前半代と想定される福岡系・肥前産磁器(第34図8・13、第35図14・17)が出土している。1号掘立柱建物出土遺物(第34図2など)より2号掘立柱建物出土遺物(第34図11・13など)の方が若干新しい様相を呈しており、切り合い関係とも一致する。これら掘立柱建物の軸方向や柱穴の規模・深さが同程度であることやそれぞれの柱穴位置が近いことから本来同一の建物であった可能性がある。平面の切り合から1号→2号の順番で建て替えが行われたものと想定され、2号掘立柱建物自体もピットの状況から複数回の建て直しが行われたものと考えられる。

この他にD区の竪穴建物からは17世紀後半~18世紀前半代の肥前産磁器碗(第47図1・2)が出土し、2号掘立柱建物からは17世紀後半頃の小石原産陶器皿(第50図6)が出土していることから、17世紀後半~18世紀前半頃とみて差し支えない。D区1号掘立柱建物は遺物は出土していないものの、2号掘立柱建物と建物軸がほぼそろっていることから、同時期と考えておきたい。

その他の近世遺構としては、F区とG区の掘立柱建物が該当する。いずれも遺物の出土はないものの、調査区検出時などに出土した遺物がおおむね17世紀後半から18世紀前半頃の時期に収まっており、ほぼ同時期と想定している。さらに、G区のピットから出土した赤色の漆器椀については、形が明確ではないが、自然科学分析の結果、土と炭粉塗の下地に透明漆層2層、水銀朱1層の塗膜層が確認されている。漆技法(註5)や周辺から出土した遺物の時期からD区と同様の時期と想定されよう。

遺跡の性格と特徴

以上のように、各遺構の時期とその性格について触れてきた。ここでは、本遺跡の性格とその特徴について考えてみたい。

出口遺跡では、以前(註6)から三稜尖頭器や剥片尖頭器など旧石器時代の遺物、縄文時代早期の山形押型文土器や石鏃、中期の阿高式土器や磨製石斧、後期後半頃の西平式土器や石匙などが表採されていた。しかし、今回の調査では旧石器時代や縄文時代早期~中期、後期後半頃の遺構は発見されず、調査区周辺以外の個所に集落などの活動痕跡が所在していたものと考えられた。特に、五馬台地周辺では縄文時代に入ると早期・中期・後期後半と幅広い時期の遺物が過去の表採資料で確認されている(註7)ことから、この時期は長期間にわたり多くの人々が台地の谷部を移動しながら生活していたと想定される。

今回の調査では、A区からこれまで発見されている時期とは異なる後期前葉の遺構が検出され、縄文時代集落変遷などを検討する新たな資料を得ることができた。このA区の調査では土坑と包含層しか検出され無かったものの、生活域が周辺に所在する可能性が高いことが明らかとなった。しかも、出口谷川の支流に近く、水の確保が比較的容易であることなどを考えるとA区からそう遠くない場所で、かつ今回の調査範囲外である試掘調査の及ばなかった場所に集落が営まれていた可能性が高いと想定される。出土遺物についても、これまで当該期前後の遺構が見つかったのは大山川流域の中川原遺跡などに限られており、貴重な知見を得ることができた。な

かでも、瀬戸内系の磨消繩文土器と九州在地の凹線土器が混在するなど当該期の特徴的な土器様相を示している。北部九州の中央にあたる日田盆地まで、東北九州沿岸部や中九州地域の土器様式が流入し、混在したセット関係を示すことは、日田の地域性を物語っている。

弥生時代以降、出口遺跡周辺では古墳時代・古代まで明確な遺構は確認されず、人々の活動の中心は宇土遺跡や杉ソノ遺跡など、別の場所に移っていったものと考えられる。

再び、出口遺跡で人々の活動が確認されるのは中世（13世紀後半～14世紀）に入ってからで、出口谷川によって形成された緩斜面上を削平してできた平坦部に集落が営まれる。C区で検出された掘立柱建物2棟だけではあるが、その時期に谷部での開発と入植が始まり、未調査域に拡がっていた可能性が考えられる。こうした開発を受けた谷部では、近世（17世紀後半～18世紀前半）に入って再び緩斜面上を削平してできたと考えられる平坦部に集落が営まれる。この時期の掘立柱建物は出口谷川南側の緩斜面上に広く検出されており、中世以来の景観を変えて新たに開発を進めて集落域を移動する要因が発生したものと考えられるが、その後現在の建物域へと移動し、水田化していったものと想定される。

以上のような変遷を踏まえて、出口遺跡とその周辺遺跡及び谷部の関係を整理する。旧石器時代は、出口遺跡周辺では表遺物が数点出土しているのみであるが、出口谷川の上流に位置する亀石山遺跡では後期旧石器時代終末頃の大規模な石器製作跡が確認されていることから出口周辺でも獣獵などが行わっていたのであろう。繩文時代では、出口遺跡において前・中期の遺物が数点採取されているのみだが、西遺跡や出口谷川上流に所在する平草遺跡などで繩文早期・中期の土器や遺構が検出されている（註8）。この時期は、出口谷川の上流域を中心に集落域が形成されたものと考えられる。繩文時代後期前葉頃に本調査区で包含層などが検出され、中期の遺物も採取されることから、後期以降に出口遺跡周辺で本格的に生活域が形成されたと考えられる。しかし、弥生時代以降は現在のところ生活遺構は確認されておらず、この地域での活動は少なくなったものと思われるが、今後の調査等を待って検討する必要がある。中世（13世紀～14世紀頃）以降になると出口谷川南岸の緩斜面を造成して集落が形成される。この地域では、五馬荘といわれる水田地帯が15～16世紀頃に登場するとされるが、それ以前から五馬地域の開発が盛んであったものと想定されよう。その後、近世に至ってその範囲は南側の緩斜面全体に広がり、後に水田化して現在に近い集落景観を形成したものと考えられる。

以上のように、集落変遷を述べたが、今回の成果をまとめる。繩文時代後期前葉の包含層からは、中九州や瀬戸内などの各系統の土器が良好なセットで出土しており、北部九州のほぼ中心に位置する日田地域の地理的特徴を示す貴重な発見となった。また、中・近世集落については、緩斜面を切り開いて集落を展開する方法や時期等が山を挟んだ塚田地区の原ノ久保遺跡や平原遺跡（註9）と共に、出口谷川周辺でも五馬台地の他の遺跡と同じく、中世以降集落が営まれ、近世まで継続したものと考えられる。このように、今回の調査では、繩文時代・中・近世における出口遺跡周辺での人々の生活の様子や当時の集落景観を想定する上で貴重な成果があつたと言える。

註1) 水ノ江和同著『九州縄文文化の研究―九州からみた縄文文化の枠組み―』熊山閣 2012

註2) 渡邊隆行編『筑紫山遺跡7』日田市教育委員会 2010

註3) 嶽峰雄「陶磁の編年」九州陶磁研究会 2000

日高正幸「小石原」「九州陶磁の編年」九州陶磁研究会 2000

副島邦弘「土野・萬坂」「九州陶磁の編年」九州陶磁研究会 2000

上田秀夫「14～16世紀の青磁窯の分類」『貿易陶磁研究No.2』 1982 日本貿易陶磁研究会

森田勉「14～16世紀白磁の形式分類と編年」『貿易陶磁研究No.2』 1982 日本貿易陶磁研究会

註4) 註1と同じ

註5) 四柳書章「漆器」「概説 中世の土器・陶磁器」中世土器研究会 1995

註6) 「天瀬町誌 明治への道」天瀬町 1986

註7～8) 註6と同じ

註9) 今田秀樹編「西遺跡・平原遺跡・原ノ久保遺跡・山田遺跡」「日田の遺跡（本文編）」天瀬町埋蔵文化財発掘調査報告書 天瀬教育委員会 2002

参考文献

- 坂本嘉宏編『石原貝塚・西和田貝塚』大分県教育委員会・佐賀市教育委員会 1978
- 田中良之 著「斎藤國文土器伝播のプロセス」「森首次郎博士古希記念古文化論文集刊行会 1982」
- 賀川光夫 著「小池原土器の設定」「九州の黎明と東アジア」賀川光夫古希記念著者集 京都修学社 1996
- 山崎直治 著「諸々土器の編年的研究」東京大学考古学研究室研究会要 18 東京大学考古学研究室 2003
- 塙地西一郎編「横尾賀見」「大分市埋蔵文化財発掘調査報告書第 83 号 大分市教育委員会 2008」
- 川崎 保 著「文化としての纖維土器型式」塙地西一郎編「横尾賀見」「大分市埋蔵文化財発掘調査報告書第 83 号 大分市教育委員会 2008」
- 九州翌世陶器研究会「九州陶器の編年」2000
- 中世土器研究会「概説・中世の土器・陶磁器」1995

第 6 表 出土土器観察表 (1)

番号 部類	年	遺跡名	種別	器種	法盤 (cm)			調整		出土 状況	構成 部品	色調		備考
					上部	底部	底盤	内面	外面			内面	外面	
第 7 回	1	AIC 小原 1. 土器 南朝トレス	縦文	深鉢	-	6.0+ a	ケズナギ、オサ エナジ、縦目面	ナゲ	B, C, 金 G, E	良 明治期	3YR5/6 ~ 5/8	明治期	SYR5/6 ~ 5/8	口縁部削除、施釉口縁
	2	AIC 須須	縦文	深鉢	-	(4.5)	ナガラ植物茎に上 る2列目	沈鋸、沈鋸文	B, E	良 に赤い縁	7.5 YR 6/4	に赤い縁	7.5 YR 5/4	内縁部削除(手筋削除)、口縁部削除
	3	AIC 宮内 トレス・西 2 下段 G16-16 土器 2	縦文	深鉢	-	5.4+ a	ナゲ	ナガラ植物茎に上 るナガラ方舟に 2 列	B, E	良 明治期	3YR5/6 ~ 5/8	施釉に赤い縁	SYR4/2 ~ 5/8	施釉口縫、沈鋸文
	4	AIC G16 土器 2	縦文	深鉢	-	4.4+ a	ミガキ	沈鋸	C, B, D	良 素	3YR6/6	に赤い縁	7.5YR6/4	口縁部削除(手筋)、外縁に 沈鋸
	5	AIC 小原 4	縦文	深鉢	-	(6.0)	ナゲ、茎面	ナゲ、沈鋸	A, B, E	良 黒	5YR2/1 ~ 1/1	に赤い縁、黒	SYR5/4, SYR5/1	施釉状の沈鋸
	6	AIC 小原 5	縦文	深鉢	-	2.4+ a	二枚口による茎面	二枚口による茎面	B, 金 G	良 素	5 YR 7/8	相	5 YR 7/6	
	7	AIC 小原 3	縦文	浅鉢	-	4.2+ a	ナゲ	ナゲ	E, 金 G, A, C	良 素	7.5 YR 6/6	施釉	7.5 YR 5/1	底部凹
	8	AIC 土器	縦文	深鉢	-	5.0+ a	ナゲ	タタタタナゲ、點 カリカリ	C, A, E	良 に赤い縁	7.5 YR 5/4	に赤い縁	7.5 YR 5/3	施釉ハクリ
第 11 回	1	AIC G12 22	縦文	深鉢	-	14.6+ a	ナゲ	(ナゲ) (二枚口) 施 釉	C, B, D	良 黄	2.5Y7/4	白	2.5Y8/2	口縁部削除に付し、外縁 に沈鋸、黒斑あり
	2	AIC G7 20	縦文	深鉢 → 浅鉢	-	8.9+ a	ナゲ	ナゲ	A, C, E	良 黄	2.5Y6/2	黄	2.5Y7/2	施釉口縫、沈鋸無に付
	3	AIC G3 13・14	縦文	深鉢	-	9.4+ a	ミガキ	継口、ミガキ	A	良 施釉	1.0YR4/3	黒斑	1.0YR3/1	一部に赤色顔料が残る
	4	AIC G8 19	縦文	深鉢	-	6.5+ a	茎面	ナゲ、茎面が残る	A, C	良 に赤い縁	1.0YR2/3	施釉	1.0YR4/1	沈鋸文
	5	AIC G16 16	縦文	深鉢	-	2.7+ a	ミガキ	ミガキ	C, 金 G, E	良 施釉	7.5YR4/2	相	SYR6/6	施釉付による空起
	6	AIC G42 施 釉	縦文	深鉢	(2.6)	4.3+ a	ミガキ	継口、ミガキ	B, 白色削 離色削離	良 施釉	2.5Y7/2	黄	2.5Y6/2	施釉、反転削離 釉面はまだ手筋式
	7	AIC G17 10	縦文	深鉢	-	5.5+ a	ミガキ、熱斑に上 る茎面	ミガキ、刻文、 白目 F	A, C, E, 帶 継口	良 明治期～ 1940 年代	7.5YR6/6 ~ 7.5YR4/6	黒、明治～施 釉	7.5YR2/1, 7.5YR5/6 ~ 7.5YR4/6	施釉口縫の刻文、赤 斑あり
	8	AIC G11	縦文	深鉢	-	2.1+ a	ミガキ	継口、沈鋸	C, B	良 素	7.5YR6/6	黄	7.5YR5/2	口縫部削除に付し 刻文、施釉文、継口 K II
	9	AIC 須須	縦文	深鉢	-	3.5+ a	ナゲ	刻文	B, C	良 明治期	5YR5/6	明治期	2.5YR5/6	口縫部削除に付し、 外縁に施釉
	10	AIC G 4.5+ 9 ブラン チ	縦文	深鉢 → 浅鉢	(25.4)	7.0+ a	茎具茎面後ナゲ	ナゲ、削口による 切削突起、茎面	A, C, E	良 白	2.5 YR 8/2	浅黃	1.0YR8/3	施釉削口
	11	AIC G1-6	縦文	深鉢	-	4.8+ a	ナゲ	刻文、ナゲ	C, B	良 に赤い黄	1.0YR5/2	浅黃	2.5Y7/4	口縫部文様に纏状の刺 突
	12	AIC	縦文	深鉢	-	3.7+ a	茎面	ナゲ、沈鋸	C, B, E	良 に赤い黄	1.0YR6/4	施釉	1.0YR5/1	口縫部に沈鋸削利突起点 による凹凸を削除し、 削除跡み
	13	AIC G16 18	縦文	深鉢	-	6.5+ a	茎面	沈鋸、刻文文、ナ ゲ	B, 白色削離	良 素	7.5YR6/6	施釉	7.5YR4/1	削付付突起、沈鋸削利内に 刻文文
	14	AIC	縦文	深鉢	-	2.8+ a	ナゲ	ナゲ	A, E, 金 G	良 に赤い縁	3YR6/4	相	3YR6/6	3YR6/6
	15	AIC G11	縦文	深鉢	-	2.4+ a	ナゲ	ナゲ、刻文文	B, C, E	良 明治	7.5YR5/2	相	7.5YR6/6	刻文文が 2 回に配される
	16	AIC G10 27	縦文	深鉢	-	3.1+ a	ナゲ	ナゲ、刻文文	C, E, 金 G	良 明治	7.5YR4/1	相	7.5YR4/3	刻文文
	17	AIC G 10	縦文	深鉢	-	3.0+ a	ナゲ	ナゲ、刻文文	B, C	良 浅黄	1.0 YR 8/3	に赤い縁	1.0 YR 7/4	削口による 2 段進点
	18	AIC G11 13	縦文	深鉢	-	3.2+ a	ナゲ	ナゲ、刻文文	A, B, C	良 素	5YR5/4	相	5YR6/6	口縫部削離による刻文
	19	AIC G7-7	縦文	深鉢	-	3.0+ a	ナゲ、削離	ナゲ	C, B, D	良 施釉	7.5YR5/2	相	7.5YR6/6	施釉文

第7表 出土土器観察表(2)

回数 番号	系	出土遺物	種別	器種	法量(cm)		調査		出土 地 点	地 質	色調				備考			
							内面				内面(Hue)		外面(Hue)					
					口径	高さ	底径	内面			内面(Hue)	外面(Hue)	内面(Hue)	外面(Hue)				
第11層	20	A区G2.8	縦文	深鉢	-	-	4.0×a	ナデ	ナデ	C, B, A, D	良 磨	7.5YR6/6	にぶい黄橙	10YR2/3	灰褐色			
	21	A区G4.16	縦文	深鉢	-	-	3.5×a	ナデ、粘土胎毛	ナデ	A, C, E, H	良 磨	7.5YR4/3	灰周	7.5YR2/2	表面・内面(底部下に粘土を含む)			
	22	A区G4.30	縦文	深鉢	-	-	2.5×a	ナデ	ナデ	C, B, E	良 にぶい黄橙	10YR6/3	黄橙	10YR2/6	灰紫			
	23	A区G.9	縦文	深鉢	-	-	5.0×a	ヨコナデ、ミガキナデ	ナデ、ヨコナデ、ミガキナデ、刻文、沈綴	C, B, E	良 明周	7.5YR 5/6 ~5/8	明周	7.5YR 5/6 ~5/8	點絞縦文、沈綴、刻文			
	24	A区G.17.15	縦文	深鉢	-	-	5.0×a	ナデ	内面、暗緑	A, C, B, G,	明赤周~赤 周 45°	明赤周~赤 周 45°	明赤周	5YR 5/6	表面・底面の字形変化、沈綴、刻文			
	25	A区G16.土坑掘出	縦文	深鉢	-	-	5.2×a	ナデ	ナデ、沈綴	A, C, E, E	良 黒周	5YR2/1 ~2/2	赤周、黒周	5YR 6/6 ~6/8, 5YR2/2	横縞、底面の字形変化、手筋方筋と横縞			
第12層	26	A区樹ぬ	縦文	深鉢	-	-	3.2×a	ミガキ	ミガキ	C, B, D	良 にぶい黄橙	10YR7/3	黄黃周	10YR2/2	浅周、外在地顔料が付いてない			
	27	A区樹ぬ	縦文	深鉢	-	-	3.0×a	ミガキ	ミガキ	C, B	良 黃周	2.5YR6/1	黄周	2.5Y7/2	外在に赤在地顔料が付いてない			
	28	A区樹ぬ	縦文	鉢	-	-	3.2×a	ミガキ	ミガキ	B, D	良 にぶい黄	5YR6/4	にぶい黄	5YR7/4	沈綴、削消縦文			
	29	A区樹ぬ	縦文	深鉢	-	-	4.2×a	ナデ	ナデ	B, D	良 にぶい黄橙	10YR7/2	浅黄橙	10YR8/3	横縞縦文、外在に刻文			
	30	A区樹ぬ	縦文	深鉢	-	-	2.7×a	ナデ	ナデ、開口模様	C, A, E	良 明周	7.5YR 5/6 ~5/8	明周	7.5YR 5/6 ~5/8	表面・底面の字形変化			
	31	A区樹ぬ	縦文	深鉢	-	-	1.4×a	ミガキ	ミガキ	C, E	良 磨	7.5YR7/6	相	7.5YR7/6	白輪部上に削消			
	32	A区樹ぬ	縦文	深鉢	-	-	3.4×a	ナデ	ナデ	C, E	良 にぶい黄	7.5YR5/3	にぶい黄	7.5YR6/4	沈綴			
	33	A区樹ぬ	縦文	深鉢	-	-	0.7×a	ミガキ	ミガキ	B, E	良 黑周	7.5YR 5/2	にぶい黄	7.5YR6/4	(横縞縦文)に刻文			
	34	A区樹ぬ	縦文	深鉢	-	-	3.0×a	ナデ	ナデ、刻文	A, B, C, E	良 磨	5YR 6/6	にぶい黄	7.5YR 5/3	(横縞縦文)をぐる			
	35	A区樹ぬ	縦文	深鉢	-	-	3.0×a	ナデ	ナデ	C, B, D	良 明周	7.5YR5/6	にぶい黄	7.5YR5/4	(横縞縦文)各方向による割れ、外在に斜方筋に付する斜筋			
第12層	36	A区樹ぬ	縦文	深鉢	-	-	7.3×a	美細、ナデ	ナデ、刻文、沈綴	A, C, B	中 深周	2.5YR4/4	復黄	2.5YR4/4	刻文、沈綴、柔らかく引る			
	37	A区樹ぬ	縦文	復鉢	左	-	4.5×a	工具によるナデ	モサエラナデ、ナデ	A, E, C	良 にぶい黄	10YR 7/4	明周	10YR 4/5	(横縞縦文)で作成して文様用			
	38	A区樹ぬ	縦文	深鉢	-	-	6.5×a	表面調整のナデ	ナデ	G, W, オホ ミタマ下の 内面に現れる 凹凸	良 黑周	7.5YR 3/2	赤周	5YR 4/8	表面調整			
	39	A区樹ぬ	縦文	深鉢	-	-	5.8×a	工具ナデ	工具ナデ	金G, 綠H, E	良 明周	10YR3/3	周	10YR4/4	刻文、沈綴、柔らかく引る			
	40	A区G16.土坑掘出	縦文	深鉢	-	-	3.2×a	でいいねいナデ	でいいねいナデ	A, C, E, E	良 赤周	5YR4/6 ~4/8	赤周	5YR4/8, 5YR1/1	横縞縦文引目、沈綴			
	41	A区G16.11	縦文	深鉢	-	-	3.0×a	ナデ	ナデ	A, C, B	良 にぶい黄	7.5YR7/4	にぶい黄	7.5YR6/4	削消縦文			
	42	A区G1.12	縦文	深鉢	-	-	3.4×a	ナデ	ナデ、刻文	B, 白色砂	良 磨	7.5YR7/6	相	7.5YR6/6	刻文			
	43	A区G10. G11.10	縦文	深鉢	-	-	4.0×a	ナデ	ナデ	A, B, C, D	良 にぶい黄	7.5YR2/4	周	7.5YR4/2	(横縞縦文)底質、外在に斜筋			
	44	A区G.1.2	縦文	深鉢	-	-	4.7×a	美細、ナデ	ナデ	B, C, E	良 磨	5YR 7/7	相	5YR 7/6	相による波状			
	45	A区G.11.1	縦文	深鉢	-	-	3.8×a	ナデ	沈綴、ミガキ	C, B, E	良 にぶい黄	10YR 7/3	周	10YR4/1	沈綴、貴重な縫合			
	46	A区G12.5-G16.7. 倉庫	縦文	深鉢	-	-	4.3×a	ナデ	ナデ、沈綴	C, B	良 にぶい黄	10YR7/3	にぶい黄	10YR7/3	貴重			
	47	A区G16.13	縦文	深鉢	-	-	4.6×a	ナデ	沈綴、ナデ	C, B, E	良 にぶい黄	10YR6/3	にぶい黄	10YR7/3	外在に沈綴			
	48	A区G20.6	縦文	深鉢	-	-	4.0×a	オサエ、ナデ	ナデ、沈綴	C, A, E	良 磨~明周	5YR6/6 ~ 5YR5/8	黒周	5YR2/1 ~2/2	底質・周辺の黒化物質、外在の底質			
	49	A区G.9.10	縦文	深鉢	-	-	3.9×a	ナデ	人頭形内凹印	C, B	良 底周	10YR 4/1	周	7.5YR 5/2	内在人頭形内凹			
	50	A区G14.20	縦文	深鉢	-	-	4.0×a	オサエ、ナデ	ナデ、沈綴	B, C	良 磨	5YR5/6	周	5YR5/2	底質・周辺の刻文、底質による人頭文			
	51	A区G16.12	縦文	深鉢	-	-	5.5×a	ナデ	内面、ナデ	A, C, B, E	良 深周	7.5YR8/6	底質	10YR6/3	(横縞縦文)による肥厚			
	52	A区G.4	縦文	深鉢	-	-	8.4×a	ナデ	ナデ	A, G, E	良 磨	5YR6/6 ~ 7.5YR6/6	相	7.5YR6/6	周			
	53	A区G.7	縦文	深鉢	-	-	5.3×a	ナデ	沈綴、ナデ	C, B, E	中 小 脛	にぶい黄周	10YR5/4	底質	10YR4/2	(横縞縦文)に引目、沈綴		
第12層	54	A区G3.16	縦文	深鉢	-	-	2.9×a	ナデ	沈綴	B, E	良 黑周	10YR5/2	復黄	10YR4/4	沈綴			
	55	A区G11	縦文	深鉢	-	-	10×a	ナデ	ナデ	H	良 黑周	2.5YR6/2	周	5YR5/2	内面背景による沈綴			
	56	A区東西トレンチG6.1	縦文	深鉢	-	-	3.0×a	ナデ	ナデ	A, B	良 深周	2.5YR5/1	相	5YR6/6	利根遺跡、(横縞縦文)底質			
	57	A区G4.29	縦文	深鉢	-	-	5.6×a	ナデ	ナデ、刻文	C, B	良 にぶい黄	10YR4/3	にぶい黄	10YR5/3	刻文			
	58	A区G7.12	縦文	深鉢	-	-	5.0×a	ナデ	ナデ、刻文、沈綴、ナデ	C, B, E	良 深周	5YR5/6	相	5YR6/6	沈綴			

第8表 出土器物観察表 (3)

測定 番号	No.	出土遺構	測定	器種	法規 (cm)		調査		地土	地 成	色調				備考		
					口径	頂高	底径	内面			外面		Hue	色相			
								Hue	色相		Hue	色相					
第13周	59	AIGC7-16	調査	深鉢	-	-	-	29± a	ナデ	剥皮文。ナデ	B, C	良	に赤い斑	T5YR6/3	に赤い斑	T5YR6/3	土壤顕微鏡状況。剥皮文
	60	AIGC7-7.5	調査	深鉢	-	-	-	24± a	ナデ	剥皮文。接合縫。	C, B	良	に赤い赤褐色	5 YR 5/4	明赤褐色	5 YR 5/6	土壤顕微鏡状況。剥皮文
	61	AIGC9-19	調査	深鉢	-	-	-	37± a	ミガキ、ナデ。圓 筒形。	剥皮文。ナデオサ エ。表面	B, E, C, 細 色, 色	良	黒褐色～褐色	5 YR 3/1 5 YR 3/2	赤褐色	5 YR 4/6 4/8	表面凹凸形。比較。形状 一致
	62	AIGC16-22	調査	深鉢	-	-	-	38± a	ナデ	ナデ	C, B, E	良	に赤い斑	T5YR6/4	に赤い斑	T5YR7/2	透視図。土壤顕微鏡状況 に赤い斑
	63	AIGC9-15	調査	深鉢	-	-	-	50± a	ナデ	ナデ	C, G, D 色鉛筆	良	に赤い赤褐色	T5YR5/4	に赤い黄褐色	T5YR6/4	土壤顕微鏡状況
	64	AIGC9-9	調査	深鉢	-	-	-	22± a	ナデ	ナデ。沈殿	細目	良	浅赤褐色	T5YR8/6	褐	T5YR7/6	剥皮文。沈殿
	65	AIGC11	調査	深鉢	-	-	-	48± a	ナデ	ナデ	C, E	良	黒褐色	T5YR2/1 2/2	赤褐色	5 YR 4/6 4/8	透視図。内面全部黒褐色 で黒色
	66	AIGC4-1	調査	深鉢	-	-	-	24± a	ナデ	沈殿	C, B	良	赤褐色	T5YR5/6	褐	5 YR 6/6	粗目。沈殿
	67	AIGC20	調査	深鉢	-	-	-	31± a	ナデ。接合縫。	剥皮文の突起	C, B, A, E	良	褐	T5YR4/4 4/6	褐	T5YR4/4 4/6	外周隆起の腹文か?
	68	AIGC16-21	調査	深鉢	-	-	-	47± a	ナデ	剥皮。	C, B, E	良	に赤い赤褐色	T5YR5/4	に赤い黄褐色	T5YR6/3	
	69	AIGC15-1	調査	深鉢	-	-	-	123± a	ナデ	剥皮。黒いミガキ	C, E, 全G	良	黒褐色	T5YR4/1	に赤い黄褐色	10 YR 7/4	
	70	AIGC6-2	調査	深鉢	-	-	-	95± a	ナデオサエ。接合 縫。	ナデミガキ? 接合 縫。	C, B, A, E, E	良	赤褐色	T5YR4/ 3/6	細～赤褐色	T5YR5/8	透視図
第14周	71	AIGC14-1	調査	深鉢	-	-	-	45± a	ナデ	ナデ	B, 全G, E	良	赤褐色	T5YR6/5 5/6	黒褐色	T5YR2/1	透視図。土壤顕微鏡
	72	AIGC8-27	調査	深鉢	-	-	-	45± a	ナデ。接合縫。ケ ヌリナデ	ナデ	C, B, G, E	良	細～赤褐色	T5YR5/8 5/9	細～赤褐色	T5YR5/8	土壤顕微鏡用。粘土質 を鉛筆に付けて軽く
	73	AIGC14	調査	深鉢	-	-	-	32± a	ナデ	ナデ	C, B	良	に赤い斑	T5YR3/3	に赤い斑	T5YR3/3	土壤。粘土による鉛跡 土壤顕微鏡
	74	A区	調査	深鉢	-	-	-	68± a	ヨコナデ	細いナデ	A, C, B, E, H	良	赤褐色	5 YR 4/8	明赤褐色	5 YR 4/8	土壤顕微鏡用。手標付
	75	AIGC16-18	調査	深鉢	-	-	-	91± a	ナデ	沈殿。ナデ	B, 細H	良	褐	T5YR5/6	浅黃	2.5Y7/4	土壤顕微鏡用。沈殿
	76	AIGC3-4	調査	深鉢	-	-	-	51± a	ナデ	ナデ。沈殿。	C, B, E, G, H	良	に赤い斑	T5YR6/3	に赤い斑	T5YR6/4	沈殿。土壤顕微鏡
	77	AIGC4-12	調査	深鉢	-	-	-	56± a	ヨコナデ	柔軟	C, B, D	良	に赤い斑	T5YR7/4	赤褐色	T5YR5/6	土壤顕微鏡状況
	78	AIGC5-7	調査	深鉢	-	-	-	52± a	オサエ。ナデ	オサエ。ナデ	C, A, E, H	良	細～赤褐色	T5YR6/8 5/9	黒褐色	5 YR 3/1 2/1	内面黒褐色。黒化。流紋付 。土壤顕微鏡用
	79	AIGC 12-31, G 16.5- 17	調査	深鉢 + 浅鉢	-	-	-	80± a	ナデ	ナデ	A, B, C, D 色鉛筆	良	に赤い赤褐色	10 YR 6/4	に赤い斑	T5YR6/4	土壤顕微鏡用。沈殿
	80	AIGC 12-37, 西内下層	調査	深鉢	-	-	-	60± a	ケズリ後ナデ	ナデ	A, C, B, E, E	良	赤褐色～赤 褐色	5 YR 5/8 4/8	赤褐色。黒褐色	5 YR 4/6 4/8	内面黒褐色にある黒斑とス タッカ付
	81	AIGC 11-18	調査	深鉢	-	-	-	42± a	ナデ	ていねいなナデ	C, E	良	細～赤褐色	5 YR 4/1 4/2	黒褐色	5 YR 2/2	
	82	AIGC 9-5	調査	深鉢	-	-	-	41± a	ていねいなナデ。 ヨコナデ。接合縫	ヨコナデ。接合縫。 ヨコナデ。接合縫	C, E	良	赤褐色～赤 褐色	5 YR 4/8 5/8	赤褐色～明赤褐色	5 YR 4/8 5/8	粗粒化
第14周	83	AIGC 7-11, 21-23, ワブテ 6	調査	深鉢	(28.0)	-	-	96± a	ナデ。柔軟	ナデ。柔軟 (二段目)	A, C	弱	淡黃	2.5Y5/4	淡黃	2.5Y5/3	土壤部分
	84	AIGC G-6 油封トレー 3.3	調査	深鉢	-	-	-	120± a	ナデ	ナデ	A, B, C, D 色鉛筆	良	に赤い赤褐色	T5YR5/3	に赤い黄褐色	T5YR7/4	透視図。ナセサエによる 赤褐色 (土壤) にナタカ方向の細い沈殿が 走る。
	85	AIGC 8-5-6- 17	調査	深鉢	-	-	-	131± a	ナデ。オサエ。接 合縫	オサエナデ。ナデ	B, C, E, H	良	細	5 YR 6/8 7/8	相。淡黃	5 YR 6/8 7.5 YR 7.8	粗粒化
	86	AIGC G-11- 23-40- 41-44- 46	調査	深鉢	-	-	-	145± a	ミガキ。ケズリ。 ナデ	ミガキ。ケズリ。 ナデ	A, C, B, G, E	弱	赤褐色～赤 褐色	5 YR 5/8 4/8	明赤褐色。黒褐色	5 YR 5/2 5 YR 2/1	透視図。内側もスス 付着

第9表 出土器物観察表(4)

回数 番号	年	出土場所	種別	基盤	法量(cm)		調査		出土 状況	色調				備考	
					内面		外面			内面(黒)		外面(黒)			
					口径	高さ	底径								
第14群	87	AICG 19-G 20	縦文	深鉢		100+ a	スヌケ着。ナデ	ナデ	C. A. H. 多層に含む	良	赤褐色	25 YR 4/6	黒褐	5 YR 3/3	
	88	AICG 10-11	縦文	深鉢		8.8+ a	ナデ	ナデ	A. G. E. 厚H.	良	暗褐色	7.5YR5/6	黒褐	10YR5/6	(縫合部)少しこげ
	89	AICG 22	縦文	深鉢		2.8+ a	ナデか	ナデか	A. G. E	良	褐色	9YR6/8	に5%黒	7.5YR5/4	(縫合部)少しこげ
	90	AICG 20-2	縦文	深鉢		4.0+ a	ナデか	ナデか	G. E	良	浅褐色	10 YR 8/3	黒褐	10 YR 3/2	(縫合部)調査不可
	91	AICG-3-2	縦文	深鉢		3.8+ a	ナデ	ナデ	A. G. E	良	黒褐	7.5YR3/1	褐~黒褐	7.5YR4/6	(縫合部)内面端部付近に模様がある(縫合直角)
	92	AICG 9	縦文	深鉢		2.9+ a	ナデ(えび牛糞ナデ?)	ナデ(えび牛糞ナデ?)	E. G. A	良	褐色~暗褐色	7.5 YR 4/6	に5%黒相~暗褐色	10 YR 6/4 ~ 10 YR 4/1	(縫合部)
	93	AICG20	縦文	深鉢		4.3+ a	ナデ、えび牛糞ナデ	ミガキナデ	E. G. E	良	に5%~6%	7.5YR5/4 ~ 4/2	相	7.5YR6/6	(縫合部)縦溝網目
	94	AICG 14-6	縦文	深鉢		3.9+ a	黒いナデ	黒いナデ	E. G. E	良	相	7.5 YR 6/6	相~黒褐	5 YR 6/6 ~ 7.5 YR 3/1	(縫合部)
	95	AIC-14- 16	縦文	深鉢		3.4+ a	ナデ	ナデ	E. G. G. B	良	暗褐色~黒	5 YR 5/1 ~ 7.5 YR 2/1	相	5 YR 6/6	(縫合部)縦溝網目
	96	AIC	縦文	深鉢		4.3+ a	ナデ	ナデ	E. A	良	暗褐色~黒褐	7.5YR4/5 ~ 10YR3/1	相	7.5YR4/3	(縫合部)縦溝網目、横文(沈縫か)外見網目
第15群	97	AICG 14-23	縦文	深鉢		2.4+ a	ナデ、えび牛糞	えび牛糞	E. G. E. B	良	に5%~6%	7.5 YR 5/4	に5%~6%	7.5 YR 5/4	(縫合部)
	98	AICG 9	縦文	深鉢		2.3+ a	黒いナデ	黒いナデ	技術	良	黒	7.5 YR 4/6	黒	7.5 YR 4/6	(縫合部)
	99	AICG 16 土居廻出	縦文	深鉢		2.8+ a	ナデ	ナデ、荒文	E. G. E. E	良	明褐色	SYR5/9	明褐色	SYR5/6 ~ 5/8	外見成形文
	100	AICG17- 14	縦文	深鉢		3.7+ a	ナデ	ミガキナデ	E. G. G. B	良	相	7.5YR6/6	相	7.5YR6/6	(縫合部)
	101	AICG 7.32	縦文	深鉢		3.2+ a	指ナデ	ナデ	A. E. C	良	相	5 YR 6/6	相	7.5 YR 6/6	こじ状突?
	102	AICG 12.7, サ ブレ-6, 焼出	縦文	深鉢	(28.6)	16.5+ a	ヨコナデ	ヨコ方向ナデ	G. B. E. 石斑	良	褐色~明褐色	7.5 YR 6/8 ~ 7.5 YR 5/8	相~黒褐	7.5 YR 6/8 ~ 7.5 YR 5/8	内面はうすく小さい黒斑 あり
	103	AICG- 23	縦文	深鉢		4.6+ a	ナデ	えび牛糞	E. G. G.	良	相	7.5YR6/6	に5%~6%	10YR5/4	(縫合部)縦溝網目
	104	AICG- 4-31	縦文	深鉢		4.5+ a	ナデ	ナデ	E. G. A	良	に5%~6%	7.5 YR 5/4	明褐色	7.5 YR 5/6	(縫合部)
	105	AICG 9	縦文	深鉢		4.5+ a	ていねいなヨコナ デ、表面	ていねいなヨコナ デ、表面	C. A. E. H. 植 物皮	良	赤褐色	5 YR 4/6 ~ 4/8	黒褐	5 YR 2/1	内面に施文(縦)、側文(縦)、横文(縦) あり
	106	AICG- 17	縦文	深鉢		4.3+ a	ナデ	ナデ	E. G. E. 植物	良	相	7.5YR6/6	相	7.5YR7/6	縦溝網目、縦溝網目
第16群	107	AICG20	縦文	深鉢		2.7+ a	ナデ	ナデ	G. F	良	暗褐色	10YR4/1	に5%~6%	10YR7/4	(縫合部)内面端部付近に模様がある(縫合直角)
	108	AICG- 9-22	縦文	深鉢		2.3+ a	ていねいなナデ。 ミガキ	ていねいなナデ	G. E	良	に5%~6%	10YR6/3 ~ 10 YR 5/3	に5%~6%	10 YR 5/3	(縫合部)
	109	AICG21- 1	縦文	深鉢		8.4+ a	ナデ	ナデ、側突	C. B. E	良	相	SYR5/6	相	SYR7/6	粘土紹介突出点。(縫合部)
	110	AICG- 14-32	縦文	深鉢		5.5+ a	植物等を指したナ デ	貝オサ等による縫 合、ナデ	G. m. 0.1m の小孔が多量に開 いてる	良	明褐色	5 YR 5/6	明褐色	7.5YR3/3	成形文
	111	AICG- 8-20	縦文	深鉢	(5.0)	ナデ	ナデ、沈縫	滑石	良	相	7.5 YR 6/8	暗褐色、暗褐色	5 YR 4/1 ~ 5 YR 6/6	沈縫、No. 172 と同一個体	
	112	AICG- 39	縦文	深鉢	(4.8)	ナデ	ナデ、沈縫	C. E. H	良	明褐色~ SYR4/8	明褐色~ 暗褐色	SYR5/8 ~ SYR4/8	沈縫		
	113	AICG 7.3	縦文	深鉢	(3.2)	ナデ	ナデ、表面はつり け	C. A. E. H	良	に5%~6%	10 YR 7/4 ~ 6/4	に5%~6%	10 YR 7/4 ~ 6/4	沈縫、表面はつりつけ	
	114	AICG- 16-土 焼出	縦文	浅鉢、 深鉢		5.3+ a	表面はつりけナ デ?	表面	A. C	良	相	7.5 YR 6/6	黒褐	7.5 YR 3/1	内面又は付着
	115	AICG11- 北上	縦文	深鉢	(5.1)	ナデ	沈縫、済多文	C. A.	良	明褐色~ 相	SYR5/8 ~ SYR4/8	明褐色~ 相	SYR5/8 ~ SYR6/8	外面沈縫・済多文	
	116	AICG 7-19	縦文	浅鉢、 深鉢		3.2+ a	ナデ	ナデ	A. E. H	良	赤褐色	5 YR 4/6	褐色	5 YR 4/1	外見赤褐色
	117	AICG 2-9	縦文	深鉢		3.8+ a	ナデ	技術	E. G. E. H	良	暗褐色	7.5 YR 4/2	黒褐	7.5 YR 3/1	技術
	118	AICG 7-22	縦文	深鉢		(3.2)	ナデ	技術、ナデ	E. C. E. H	良	に5%~6%	7.5 YR 5/4	黒	7.5 YR 4/6	技術(半曲凹)

第10表 出土器物観察表(5)

器種 番号	年	出土場所	種別	器種	法螺(φmm)		調査		南土	西 風 成	色調			備考
					上井	高井	底径	内面			内面(黒)	Hue	外面(赤)	
第15周	119	AIGC4-9	鐵文	深鉢		(6.1)	ヨコナデ	ヨコナデ	C, B, E	真~灰~黒	7.5 YR 6/4	に高い黄緑	10 YR 7/4	輪付
	120	AIGC 12-1	鐵文	深鉢		35+ a	ナデ	沈緑、刺史文、ナデ	D, 細H	真~黄	2.5 YR 8/3	灰白	2.5YR 2/2	沈緑、刺史文
	121	AIGC 17-1	鐵文	深鉢		(4.2)	条底、椎合縫	ナデ、沈緑	C, A, E	真~高い黄緑	10 YR 7/4	に高い黄緑	10 YR 7/4 ~ 6/4	沈緑
	122	AIGC 18-1	鐵文	深鉢		(5.7)	条底	ナデ、沈緑	C, A, E	真~明褐	7.5 YR 6/8 ~ 5/8	黒~明褐色	5 YR 3/1 ~ 5 YR 3/2	外面擦付か?
	123	AIGC 11	鐵文	深鉢		26+ a	ナデ	ナデ、沈緑	C, A, E, H	真~明褐	7.5 YR 5/2	灰黒	7.5 YR 5/2	網目7、沈緑
	124	AIGC 11	鐵文	深鉢		(2.8)	ナデ	ナデ、沈緑	C, A, B, E	真~明褐	7.5YR 5/6 ~ 5/8	黒~黒褐	7.5YR 2/7	外面擦付3条
	125	AIGC 4	鐵文	深鉢		(3.4)	ナデ	沈緑、ミガキ	C, B, E	真~明褐	5 YR 5/6	明褐	7.5 YR 5/	外面擦付
	126	AIG	鐵文	深鉢		3.8	オサエ、ナデ	沈緑	B, C, E, H	真 (地) に高い 黄緑、刺史文 (地)	10 YR 7/2 (地) 4/8 (地)	に高い黄緑	10 YR 6/4	(地) 沈緑付か? 沈緑
	127	AIGC B-18	鐵文	浅鉢・深鉢		32+ a	ハナ口、ナデ	ナデ	C, A, E	真~高い黄緑	10 YR 7/4	に高い黄緑	10 YR 7/4	
第16周	128	AIGC 15	鐵文	深鉢		(2.4)	ナデ	ナデ	B, C, A, E, R, 直口	真~赤	2.5YR 4/6 ~ 4/8	赤	2.5YR 4/6 ~ 4/8	面部付近か? 沈毛洗付
	129	AIG	鐵文	深鉢		(8.5)	ヨコナデ	沈緑文。刺史文。 直口は斜め付か?	C, A, E	真~赤	5/8R 4/6 ~ 4/8	赤	5 YR 4/6 ~ 4/8	(地) 直口突起、沈緑
	130	AIGC G11 北上層	鐵文	深鉢		(2.9)	ナデ	沈緑、帶地はつり け、条底	C, B, E, 帶 刺史文	真~明褐	5YR 2/1 ~ 2/2	赤褐	2.5YR 4/6 ~ 4/8	隙起記文、沈緑
	131	AIG	鐵文	深鉢		32+ a	ミガキ	ミガキ、刺史文	C, B	真~高い明	7.5YR 5/4	灰黒	10YR 5/2	刺史文
	132	AIGC 8-13	鐵文	深鉢		(3.8)	ていねいなミガキ	ていねいなミガキ	C, A, C, E	真~黒	5YR 3/1	黒	5YR 3/1	刺史文
	133	AIGC 13-42	鐵文	深鉢		(4.6)	ナデ	タテナデ、沈緑、 直口は斜め	C, B, A, E	真~黄緑~黒	10 YR 7/6 ~ 10 YR 6/8	浅黒~黄緑	10 YR 6/4 ~ 10 YR 6/8	直口は斜め、沈緑、 直口は斜め
	134	AIGC 14-51 44-51-51	鐵文	深鉢		(8.3)	ミガキナデ、ナデ	ミガキナデ、沈緑、 刺史文	C, B, E, 帶 刺史文	真~帶	7.5YR 7/6 ~ 7/8	赤	5YR 4/8	沈緑文、やや黒いつく り
	135	AIGC 27	鐵文	浅鉢		(3.7)	ミガキ	ミガキ、刺史文、 直口	C, A, E	真~黒	7.5YR 4/3 ~ 4/4	黒	7.5YR 4/2 ~ 2/2	沈緑文、沈緑、 刺史文
	136	AIGC 45- 45, G9	鐵文	深鉢		(5.0)	ミガキ、ナデ	ミガキ、沈緑、刺 史文	C, E	真~帶	7.5YR 6/6 ~ 6/8	帶~明褐	7.5YR 6/6 ~ 7.5YR 6/8	沈緑文
第17周	137	AIGC 4-1	鐵文	浅鉢		(2.1)	ナデ	ナデ、沈緑、鐵文	B, A, E, H	真~明褐~黒	7.5YR 6/6 ~ 7.5YR 4/6	帶~明褐	7.5YR 6/6 ~ 7.5YR 4/6	沈緑文、沈緑 直口は斜め
	138	AIGC 13-20	鐵文	深鉢		(3.5)	ミガキ	ミガキ、沈緑、鐵 文	C, E, 線 模様	真~明褐	5 YR 5/6 ~ 5/8	黒	5 YR 2/2	沈緑文、ミガキは丁寧、 直口は斜め付か?
	139	AIGC 12-10	鐵文			(4.9)	コサ付筋、ナデ	沈緑、貝殻模様文	C, A, E	真 (地) はく~ 明褐	7.5 YR 5/4 ~ 5/6	黒	7.5 YR 3/1	内面は斜め、沈緑、 内面は斜め付か? 外面 はすこし付か
	140	AIGC 9- G 10	鐵文	深鉢		(8.4)	ていねいなミガキ、 ミガキ	ていねいなミガキ、 刺史文、沈緑	C, E, H	真~黒	7.5 YR 3/2	赤褐、黒	5 YR 6/4 ~ 4/8	刺史文、直口は 斜め
	141	AIGC B-15	鐵文	深鉢		(4.9)	ミガキ	ミガキ、直口は 斜め	C, E	真~高い明~ 黒	7.5 YR 5/4 ~ 5/6	に高い明~黒	7.5 YR 5/4 ~ 5/6	刺史文が明るい、 ミガキは丁寧、内面は 斜め付か?
	142	AIGC 2-27	鐵文	深鉢		(3.9)	ナデ	ミガキ、沈緑、刺 史文	C, A, E, 帶 刺史文	真~帶	7.5YR 3/4	明褐	2.5YR 5/8	沈緑文、沈緑、刺史文、 直口は斜め
	143	RECOR 2000-20 10-100	鐵文	深鉢		(24.3)	ナデ、うすい黒縞	黒縞、ていねいな ナデ、黒縞2重	B, C, G, H	真~赤	2.5 YR 4/6 ~ 4/8	赤~赤黒	2.5 YR 4/1 ~ 4/2	内面は黒縞による黒度変り、 外側は付かず
	144	AIGC 13-20	鐵文	深鉢		(3.3)	ミガキ	ミガキ、沈緑、刺 史文	C, E, H	真~黒	7.5 YR 2/2	黒	7.5 YR 2/2	刺史文、直口は 斜め
	145	AIGC 3-23	鐵文	浅鉢・ 深鉢		50+ a	ていねいなミガキ、 ミガキ	ていねいなミガキ、 ナデ	C, E, 金C	真~高い明	7.5 YR 5/4	に高い黄	7.5 YR 5/3	
	146	AIGC 4-14	鐵文	浅鉢・ 深鉢		(3.5)	タテ方向のナデ	タテ方向のナデ	C, E, H	真~赤	5YR 4/6	赤	5YR 4/6	面部付近か、タテ方向の ナデ
	147	AIGC 14-19	鐵文	深鉢		(4.3)	ていねいなナデ、 椎合縫	ていねいなナデ、 椎合縫	C, C, E, H	真~赤	5 YR 4/6 ~ 4/8	明褐	5 YR 4/6 ~ 4/8	丁寧、やや粗製品か、 面部付近か
	148	AIGC 9	鐵文	浅鉢		39+ a	ミガキ	ミガキ	C, E, A	真~明褐	7.5 YR 4/2	に高い明	7.5 YR 5/4	
	149	AIGC 8-40	鐵文	浅鉢		41+ a	ナデ	ミガキ	B, E, C, A	真~帶	7.5 YR 6/6	帶	7.5 YR 6/6	
	150	AIG	鐵文	深鉢		(3.1)	ナデ	溝呂文付	E, 線色粒子、 H	真~明褐	10 YR 7/6 ~ 10 YR 6/8	に高い黄緑	10 YR 7/4	沈緑、溝呂文、粒~

第11表 出土土器観察表 (6)

測定番号	No.	出土地點	種類	器種	法算 (cm)		調査		出土	被成	色調			備考		
					(上)	高さ	底径	内面	外面		Hue	外面 (G)	Hue			
151	A区焼出	縄文	2694			(4.6)	ナデ	沈殿、ナデ	滑石	B	明るい赤褐色	5 YR 6/8 5-5 YR 4/8	暗~明るい	5 YR 6/8 ~ 5 YR 5/8	沈殿	
152	A区焼出	縄文	2694			(3.3)	ナデ	沈殿、ナデ	C, B, A, E, 白色粒子	B	暗	5 YR 6/6	に赤い青緑	10 YR 6/3	沈殿	
153	A区焼出	縄文	2694			(6.2)	ケズリ、葉組	ヨコナデ、沈殿 (ハ イガラ)	C, A, B, E	B	明るい~黒褐色	7.5 YR 4/2 ~ 7.5 YR 3/2	黒褐色~黒褐色	7.5 YR 4/2 ~ 7.5 YR 3/2	側面縫合、側面文 (入組 文など)、側面組	
154	A区焼出	縄文	2694			(3.1)	ミガキ	ミガキ、斜面文、 沈殿	C, E	B	明るい赤褐色	5 YR 3/3 3-3'4	黒褐色	5 YR 3/1	側面縫合、側面、斜面文	
155	A区焼出	縄文	2694			(2.3)	ナデ	沈殿文	C, A, G, E	B	明るい赤褐色	5 YR 3/2	明るい赤褐色	5 YR 5/8 ~ 5 YR 4/8	沈殿	
156	A区焼出	縄文	2694			3.4~	ナデ	斜面文、ナデ	A, B, E	B	黒褐色	7.5 YR 4/2	に赤い	7.5 YR 6/4	斜面文	
157	A区焼出	縄文	2694			3.8~	ナ	裏面 (二段口)	A, B, E	B	に赤い	5 YR 7/4	に赤い	5 YR 6/4		
158	A区焼出	縄文	2694			4.6~	ナ	裏面 (二段口)	A, C, E	B	暗褐色	10 YR 5/1	灰褐色	10 YR 5/2	上下傾不明	
159	A区G 21 下唇 焼出	縄文	2694			(11.8)	でいいなナデ	裏面ナデ	C, A, E, H	B	明るい赤褐色	5 YR 5/8 5-5 YR 4/8	明るい赤褐色	5 YR 5/8 ~ 7.5 YR 5/8		
160	A区G 13-15	縄文	2694			6.4~	ナデ	ナデミガキ	B, C, E	B	明るい赤褐色	5 YR 5/6	に赤い	7.5 YR 6/3		
161	A区焼出	縄文	2694			3.7~	裏面 (二段口)	沈殿、斜面文、ナ デ	C, B	B	暗褐色	10 YR 8/4	黒褐色	10 YR 3/1	沈殿、斜面文	
162	A区G 9	縄文	2694			3.5~	ナ	ナ (工具使用)	ヨコ方向ケズリの裏 面ナデ (側ナデ)	C, 滑石 (側 面)	暗褐色	5 YR 4/3	に赤い	5 YR 5/4		
163	A区G 10-16	縄文	2694			(5.0)	ヨコナデ	ヨコナデ、側起凸 文	A, B, E, H	B	明るい赤褐色	2.5 YR 3/6	明るい赤褐色	2.5 YR 3/6	側面縫合文	
164	A区G 4-12	縄文	不明			1.9~	ナ	斜面付帯	斜面ハクリ	E, A	B	に赤い	5 YR 5/4	に赤い	5 YR 7/4	斜面ハクリ、内部赤褐色 、小円のため縫合不明
165	A区G 17.11	縄文	2694			(5.7)	スス付着調節不明	ナデ	C, A, E	B	暗	7.5 YR 6/8	黒	7.5 YR 2/1	内部調節物多個に付着す る	
166	A区G 6-12	縄文	2694			4.7~	ナデ	ヨコ方向ケズリナデ	C, 全G, E	B	に赤い	5 YR 4/3 ~ 4/4	明るい赤褐色	5 YR 5/6		
167	A区G 10-24	縄文	2694			(3.8)	ナデ	側合縫	ナデ、側合縫	C, A, H	B	黒褐色	5 YR 3/1 ~ 3-3'2	相~青緑	7.5 YR 7/0 ~ 7.5 YR 7/8	内部ス付着、内部縫合 2個付着
168	A区G 6-14	縄文	2694			5.3~	ナ	側化物付着	タテ方向側ナデ	A, C, E	B	に赤い	7.5 YR 6/4	黒褐色~黒	7.5 YR 4/1 ~ 7.5 YR 4/5	内部側化物付着
169	A区G 11-16	縄文	2694			(5.8)	でいいなナデ、 こま方向	でいいなナデ、 ナナ付着	C, E	B	暗褐色	10 YR 4/1	黒褐色	10 YR 4/1	側縫合	
170	A区G 4-51	縄文	2694			3.6~	ナ	ナナ付着のナデ (工具使用)	A, C, E	B	暗	5 YR 6/6	暗	7.5 YR 4/3		
171	A区G 9	縄文	2694			2.5~	ナ	ナ (ヨコ方向)	ナデ (ヨコ方向)	B, G, A, E	B	明るい	10 YR 4/3	に赤い	10 YR 5/3	内部粘付縫合部
172	A区G 11-1 41, G 10, サブ トレー	縄文	2694			(12.5)	ナデ、スス付着黒 褐色、合縫	ナデ、合縫	A, C, E, H 白色粒子	B	明るい赤褐色 ~	5 YR 3/6 4/2	黒褐色~明るい	7.5 YR 4/1 ~ 7.5 YR 4/2	内部ス付着、黒褐色	
173	A区G 4, G 8.9 ~ 31	縄文	2694			(10.5)	でいいなナデ	ナデ	B, E, H	B	明るい	7.5 YR 5/6 ~ 5/6	に赤い	7.5 YR 5/4 ~ 7.5 YR 5/6	側面黒褐色箇所	
174	A区 G 16- 34・36, G 6-6 等	縄文	2694			(11.2)	ハク篠 (ヨコ方向) ナデ	ナデ	A, E, H	B	明るい赤褐色 ~	5 YR 5/8 5-5 YR 4/8	黒褐色、相~合縫	5 YR 2/1 5 YR 6/8 ~ 5 YR 5/8	内部は全面にスス付着	
175	A区G 13.1 ~ 8, 南北上立 I上立	縄文	2694			(16.9)	裏面ナデ	ナデ	C, B, E, H	B	暗~明るい	7.5 YR 6/8 ~ 10 YR 7/6	に赤い	10 YR 7/4 ~ 10 YR 7/6	外面上半ス付着	
176	A区G 9, G 3-23	縄文	2694			(12.8)	でいいなナデ、 スス多個に付着	でいいなナデ	C, A, B, E, 白色粒子	B	明るい赤褐色	5 YR 5/8	相~赤褐色	5 YR 5/8 ~ 5 YR 4/8	内部ス付着	
177	A区 G 12- 34・56	縄文	2694			(10.8)	ほとんど黒褐色、ナ デ、合縫	ナデ、合縫	C, B, E, H 白色粒子	B	やや暗	5 YR 5/8 5-5 YR 4/8	明るい赤褐色、黒褐色	10 YR 7/6 ~ 10 YR 3/1	内部黒褐色あり	
178	A区G 13-39	縄文	2694			6.7~	ナ	ナ (工具使用)	側~ナデ、黒化 のため調節不明	C, A	B	暗	7.5 YR 7/6	に赤い	10 YR 5/4	
179	A区G 7-8	縄文	2694			(5.4)	ナ	ヨコ方向のナデ	C, E	B	暗	5 YR 4/6 ~ 4/8	赤褐色	5 YR 4/6 ~ 4/8		
180	A区G 12- 4 ~ 5 ~ 6	縄文	2694			(13.4)	ナ	タテ方向のナデ	C, E, H	B	明るい	5 YR 5/8	暗	7.5 YR 5/6 ~ 5/8		
181	A区G 16- 28	縄文	2694			(10.3)	ヨコ方向のナデ	タテ方向のナデ	C, E, H	B	明るい	7.5 YR 5/6 ~ 5/8	暗	7.5 YR 3/3		

第12表 出土土器観察表(7)

国宝 番号	年	出土地	種別	基盤	基盤(cm)			調整		出土	相 成	色調			備考		
					上層		最深	内面				内面(赤)	Hue	外面(赤)	Hue		
					高さ	底径											
第10回	182	AIC12-29	國文	深鉢			(0.2)	ナデ	ケツリ後 ナデ	E, C, E	且 灰陶~陶	7.5VR4/2 ~ 7.5VR4/3	褐	7.5YR6/8			
	183	AICG7-36	國文	深鉢			(6.7)	ハケ後 ナデ	ハケ後 ナデ	C, E, H	良 黑陶, 陶	7.5VR3/2 ~ 7.5VR4/2 ~ 7.5VR4/4 ~ 4%v	黑陶	7.5VR3/1 ~ 3/2	内部全面黒陶による黒色		
	184	AICG12-52	國文	深鉢			(7.2)	ハケ口残る, ナデ	ナデ	A, C, B	良 赤陶	7.5VR4/8	黑陶	7.5YR3/1 ~ 3/2	内部全面黒陶		
	185	AICG12-35	國文	深鉢			(3.6)	ナデ	ナデ	C, B, E	良 陶~黄陶	7.5VR6/8 ~ 7.5VR7/8	褐	7.5YR6/8 ~ 7.5YR5/8			
	186	AICG11-北上層	國文	深鉢			(6.2)	ナデ	ナデ, 条幅 色鉛筆?	A, C, H, E	良 灰陶	明小輪~赤 陶&白陶	SB25/28 ~ SB4/8	黑陶	7.5YR3/1	内部少し釉化, 領域で黒 5%	
	187	AICG8-36	國文	深鉢			(5.0)	ていねいなナデ	ナデ	C, C, E, H	良 黑陶	SB25/1 ~ SB4/8	赤陶	SYR5/8			
	188	AICG17-2	國文	深鉢			(9.3)	ていねいなナデ	ヨコ方向 ナデ, 斜りナデ	B, C, E, H	良 褐~赤陶	SB25/8 ~ SB5/8	に赤い赤陶	SYR4/5			
	189	AICG11-北上層	國文	深鉢			(5.8)	ていねいなナデ	ハケ後 ナデ	C, A, E, 植物印?	良 灰陶	SB25/8	略赤陶	SYR3/4 ~ 3/5	植物印か		
	190	AICG9-24	國文	深鉢			(5.7)	ていねいなナデ	タテ方向のナデ	C, C, E	良 黑陶	7.5VR3/1	褐	7.5YR6/8			
	191	AICG9-6	國文	深鉢			(6.6)	ヨコ方向のナデ	ナデ, むずむに, 泥残	C, A, E, H	良 褐	7.5VR4/4 ~ 4%	褐, 黑陶	7.5YR4/4 ~ 4%, 7.5VR3/1	内部一部灰陶残存, 内部 部分に黒陶あり		
第19回	192	AICG16-15	國文	深鉢			(5.5)	ヨコナデ	条幅後	C, E, H	良 褐	7.5VR6/8	に赤い黒陶	10YR7/4 ~ 3/4	内部全面黒陶あり		
	193	AICG16-34	國文	深鉢			(5.6)	ハケ後ヨコ方向の ナデ	ハケ後ヨコ方向の ナデ, ヨコヨコヘナ メヨコヨコナデ	C, E	良 褐	7.5VR7/6 ~ 6%	褐	7.5YR7/6 ~ 6%	跡跡込みか 巻口による表面		
	194	AICG14-21	國文	深鉢			(5.2)	ヨコ方向のナデ	タテ方向のナデ	C, A, E, H	良 赤陶	SB25/6 ~ 4%	黑陶	SYR2/1	内部全面黒陶による黒色		
	195	AICG10-17	國文	深鉢			(6.2)	ていねいなナデ	ナデ, 斜めで明 顯	A, C, E, H	良 明陶	7.5VR5/6 ~ 5%	に赤い黒陶, 黑陶	10YR7/4 ~ 6%, 10YR3/1			
	196	AICG10-22	國文	深鉢+ 浅鉢			(5.4)	ていねいなナデ	ケツリ後 ナデ	C, E, H	良 灰陶	SB25/4 ~ 5%	に赤い褐陶	7.5YR5/3 ~ 5/4			
	197	AICG12	國文	深鉢+ 浅鉢			(5.1)	ハケ後 ナデ	ハケ後 ナデ	C, E	良 灰陶~赤 陶	SB25/8 ~ SB4/8	明赤陶~古陶	SYR5/8 ~ SYR4/8			
	198	AICG16-26	國文	深鉢			(4.2)	ていねいなナデ	タテ方向 ナデ	A, C, E	良 黑陶	10YR3/1 ~ 3/2	黑陶	10YR3/1 ~ 3/2			
	199	AICG4-51	國文	深鉢			(5.2)	ヨコ方向のナデ	ハケ後 ナデ	C, A, E	良 褐~明赤陶	SB25/8 ~ SB4/8	褐~明陶	7.5YR6/6 ~ 7.5VR5/6	内部うまく黒陶あり (~ 豊)		
	200	AICG10-17	國文	深鉢			(6.0)	ていねいなナデ	ていねいなナデ	C, B, H	良 黑陶, に赤い 赤陶	SB25/1 ~ 2/1, SB5/4	褐, 明赤陶	SYR6/8, 5/8			
	201	AICG8-8	國文	深鉢			(4.5)	ナデ?	ナデ?	B, E, H	良 明陶	SB25/6 ~ 5%	褐	7.5YR6/6 ~ 6%			
第20回	202	AICG16-33	國文	深鉢			(4.6)	タテ方向の条幅後 ナデ	ナデ	B, C, E	良 明陶~赤陶	10YR5/6 ~ 10YR6/4	灰赤陶, に赤い黄陶 ~明黄陶	10YR4/2 ~ 2/1, 10YR5/6 ~ 10YR6/5			
	203	AICG12-36	國文	深鉢			(4.9)	ナデ	粗いナデ	C, B, A, H	良 明陶	7.5VR5/8	褐	7.5YR6/8	粗製品		
	204	AICG12-54	國文	深鉢			(5.2)	ハケ後 ナデ	ハケ後 ナデ	C, E	良 赤陶	SB25/6 ~ 4/8	赤陶	SYR4/6 ~ 4/8	手作り製品		
	205	AICG14-7	國文	深鉢			(4.3)	ナデ	条幅	B, C, E	良 明~明陶	7.5VR6/8 ~ 7.5VR5/8	褐~明陶	7.5YR4/3 ~ 3/2	握感がうまい		
	206	AICG17-8	國文	深鉢			(4.2)	ヨコ方向+ナデ +, ほぼ全面に黒陶	タテ方向 ハケ後ナデ	C, E	良 褐~明陶	7.5VR6/6 ~ 7.5VR5/8	褐, 黑陶~黑	7.5YR6/6, 7.5VR4/3 ~ 7.5VR2/1			
	207	AICG17-5	國文	深鉢			(4.8)	ナデ	ナデ	C, H	良 明赤陶	SB25/8 ~ SB4/8	黑陶	SYR3/1 ~ SYR2/1	(内) 全面スズ付着		
	208	AICG15-16	國文	深鉢			(4.1)	ヨコ方向 ナデ	ナデ	A, C, E	良 褐~明赤陶	SB25/8 ~ SB4/8	に赤い褐, 黑陶	7.5YR7/3 ~ 5/4 7.5VR3/1	黒陶あり		
	209	AICG20-9	國文	深鉢			(4.9)	ていねいなナデ, ほぼ全面に黒陶	ナデ	B, E, H	良 褐	SYR6/8	褐, 黑陶	SYR6/8, SYR2/1			
	210	AICG11-38	國文	深鉢			(4.0)	ナデ	ヨコ方向のナデ	C, B, E, H	良 明赤陶~赤 陶	SB25/8 ~ SB4/8	褐~明陶	7.5YR6/8 ~ 7.5YR5/8	外端や中盤減, 粗製品か		
	211	AICG10-18	國文	深鉢			(0.5)	ナデ	ナデ, 条幅	A, B, H	良 褐, 黑	7.5VR4/4, 7.5VR5/2	褐, 黑陶~黑陶	7.5YR6/6, 7.5VR4/4 ~ 7.5VR4/2			
	212	AICG18-1	國文	深鉢			(6.1)	ヨコ方向 ナデ, 全面スズ付 着	ナデ	A, B, H, E	良 明赤陶~赤 陶	SYR5/8	黑陶	SYR2/1	全面スズ付着		
	213	AICG17-7	國文	深鉢			(3.2)	条幅, ナデ	ナデ	C, E, H	良 明陶	7.5VR5/6 ~ 5/8	明陶	7.5YR5/6 ~ 5/8			

第13表 出土土器観察表(8)

測定番号	No.	出土場所	種別	器種	(上) 高さ 幅さ 厚さ			調査		出土	被成	色調			備考			
					(上) 高さ 幅さ 厚さ			内面 外面				内面(裏) Hue						
					内面	外面	内面	内面	外面			内面	外面	内面				
第19回	214	AIG G16-25	鏡文	深鉢	-	(4.0)	ヨコ方向のナデ	ヨコ方向のナデ 方角ナデ	C, E	口に近い赤褐色	SYR4/3 ~ 4/4	明赤褐色	SYR5/6 ~ 5/8					
	215	AIG G19	鏡文	深鉢	-	(4.3)	ていいなナデ、 ナデ	ていいなナデ、 ナデ	C, E, H	口に近い明褐色	7.5YR6.6 ~ 7.5YR5.6	黄褐色・相、明褐色	7.5YR7.8 ~ 7.5YR6.9, 7.5YR5.6	鏡面中央付近か				
	216	AIG G10-19	鏡文	深鉢	-	(4.5)	ナデ	ナデ、 ケズリ後 ナデ	C, E, H	口に近い明褐色	7.5YR5.4 ~ 7.5YR5.6	相	7.5YR6.6	鏡面中央付近か				
	217	AIG G19	鏡文	深鉢	-	(5.4)	ナデ、接合部	ナデ	B, E, H	口に近い赤褐色	SYR8/3 ~ 8/4	明赤褐色、赤褐色	SYR4/8 ~ 5YR3/4					
	218	AIG G10-20	鏡文	深鉢	-	(3.9)	ていいなナデ	ナデ、ケズリ後ナデ	B, E, H	口に近い褐色	7.5YR6.4 ~ 7.5YR6.6	相	7.5YR6.6 ~ 6/8					
	219	AIG G11-34	鏡文	深鉢	-	(3.0)	ナデ、表面 沈殿	ナデ、 表面 沈殿	C, E	口に近い明褐色	7.5YR6.8 ~ 7.5YR5.8	黄褐色・相	7.5YR7.8 ~ 7.5YR6.8	表面沈殿わずかに残る				
	220	AIG土坑 東西トレ	鏡文	深鉢	-	(3.8)	ナデ	タテ方向のナデ	A, B, E	明褐色	10YR7.6 ~ 6.6	黒褐色	10YR3/1	内部斑跡による黑色				
	221	AIG G4-14	鏡文	深鉢	-	(3.5)	タテ方向のナデ	タテ方向のナデ	E, H	口に近い	SYR4/6	赤褐色	SYR4/6	鏡面付近か				
	222	AIG G-13.2	鏡文	浅鉢・ 盆	-	(6.8)	ヨコナデ、ナデ、 接合部	ナデ	A, C, E, H	口に近い明褐色	7.5 YR 6.8 ~ 7.5 YR 5.8	黒褐色	7.5 YR 3/1	内部又え付着(全体)、再 び一部にうすい黒褐色、鏡 面付近か				
	223	AIG 14-15	鏡文	深鉢	-	5.5~ a	ナデ、スヌ	スヌ	A, C, E	口に近い明褐色	7.5 YR 3.3	口に近い褐色	7.5 YR 5/3					
第20回	224	AIG G-15.12	鏡文	深鉢	-	(4.7)	ナデ、接合部	ナデ、オサエ同様 なる	A, C, E	口に近い	7.5 YR 4.6	黒褐色・黒	5 YR 2/1 ~ 5 YR 1.7/1	内部斑駁が残る				
	225	AIG G 2.9, G 6	鏡文	深鉢	-	6.5~ a	タテ方向ナデ、ヨ コ方向のナデ	ヨコ方向ナデ(ケズ り)	A, E, C	明赤褐色	5 YR 5.6	明赤褐色	5 YR 5/6	鏡面ハカリ				
	226	AIG G 11.北 付	鏡文	盆	-	(3.6)	底部付近		C, B, E	口に近い	7.5 YR 4.0	黒褐色、明褐色	7.5 YR 2/1, 7.5 YR 5/8	鏡面付近か				
	227	AIG C-12.44- 47.48	鏡文	深鉢	-	7.2~ a	接合部、ス ヌ付着	ナデ、接合部、ス ヌ付着	E, A	明赤褐色	5 YR 5.6 ~ 5/8	明赤褐色、暗赤褐色	5 YR 5.8 ~ 10 YR 4/1	粘土層残存する、外部下 部にスヌ付着、底部付近 少しおかげ(側面)1/2弱 付着				
	228	AIG G-12.41- 42	鏡文	深鉢	-	5.8~ a	ナデ	ヨコナデ(底面)	E, 金G, B	口に近い褐色	7.5 YR 6.4 ~ 7.5 YR 6.6	黒褐色	10YR6/2	鏡面付近				
	229	AIG土坑 東西トレ	鏡文	深鉢	-	4.0~ a	ナデ	指痕ナデ、ナデ	B, E, G	口に近い	5 YR 6.8	口に近い褐色	10 YR 5/3	鏡面付近、難割面				
	230	AIG G 12	鏡文	深鉢	-	(10.0)	2.6~ a	ナデ	E, G, A	口に近い	7.5 YR 7.4	褐色、一部灰褐色	7.5 YR 4/1, 7.5 YR 4/2	鏡面付近				
	231	AIG G12-32	鏡文	深鉢	-	3.6~ a	ナデ	ナデ	E, B, C	口に近い	10YR5.4	口に近い黒褐色	10YR4/3					
	232	AIG G-12.26	鏡文	深鉢	-	2.8~ a	ナデ	ヨコナデ	E, 金G, B	口に近い	7.5 YR 4.3	黒褐色	5 YR 2/1	内部又え、外壁底部に施 加				
	233	AIG G-13.18	鏡文	深鉢	-	3.3~ a	ナデ	ナデ(ヨコ幅頗 少)	E, A	口に近い	7.5 YR 5.4	灰褐色	10 YR 4/2	鏡面片				
第21回	234	AIG G-4.25	鏡文	深鉢	-	1.8~ a	ナデ	ナデ	A, E	口に近い	5 YR 5/3	黒褐色	5 YR 4/1	鏡面片				
	235	AIG G-14.5	鏡文	深鉢	-	2.4~ a	ナデ	ナデ(指痕付)	E, 金G, B	口に近い	5 YR 5/2	黒褐色	10 R 5/2	鏡面片、難割面				
	236	AIG G-8.1	鏡文	深鉢	-	1.6~ a	ナデ	ナデ(指痕付)	E, C, 金G, B	口に近い	5 YR 5.6 ~ 5/8	黒褐色	10 YR 4/2	鏡面片				
	237	AIG G-11.北 付	鏡文	深鉢	-	1.8~ a	ナデ	ナデ(指痕付)	A, B	口に近い	5YR7.6	相	5 YR 6/6	鏡面片				
	238	AIG G-6.7	鏡文	深鉢	-	3.6~ a	ハクリ	ヨコナデ、ナデ	E, B, 金G	口に近い	5 YR 5.6	明赤褐色	5 YR 5/6	鏡面片、内部ハカリ				
	239	AIG G-7.39	鏡文	深鉢	-	4.2~ a	ナデ	ナデ付、底面ハク リ	E, A	口に近い	5 YR 5.6 ~ 5/8	灰褐色	10 YR 4/2	鏡面片、難割面、底面ハ カリ				
	240	AIG G19	鏡文	深鉢	-	3.5~ a	ナデ	ナデ	A, E, B, C	口に近い	7.5YR4.4	黒褐色	10YR3/3	鏡面片				
	241	AIG G-4.34	鏡文	深鉢	-	6.3~ a	ナデ	ヨコナデ、ナデ	E, E, G	口に近い	7.5 YR 6.4	口に近い相	5 YR 6/4	鏡面片、難割面				
	242	AIG G-8.15	鏡文	深鉢	-	2.7~ a	指痕付ナデ	ナデ	E, A, B	口に近い	10 YR 7/4	口に近い黒褐色	10 YR 6/3	鏡面片				
	243	AIG G-4.57	鏡文	深鉢	-	2.8~ a	ナデ	指痕付、ナデ	E, A, G	口に近い	5 YR 5.6	明赤褐色、一部灰褐色	5 YR 5/6, 5 YR 4/2	鏡面片、難割面、底面ハ カリ				
	244	AIG G-3.3	鏡文	深鉢	-	4.2~ a	ナデ	ナデ付?	E, 金G, B	口に近い	10 YR 7/4	灰褐色	10YR5/2	鏡面片、底面ハカリ				
	245	AIG G-7.34	鏡文	深鉢	-	(12.4)	5.5~ a	ナデ、指痕付	E, A, C	口に近い	5 YR 6/8	相、口に近い黒褐色	5 YR 6/6, 10 YR 7/4	鏡面片、底面ハ カリ				
	246	AIG G-8.10	鏡文	深鉢	-	-	6.2~ a	ナデ	E, A	口に近い	7.5YR5/3	口に近い相	7.5YR6/4	鏡面片				

第14表 出土土器観察表(9)

図版番号	No.	出土遺物	種別	部類	法量(cm)		測定		胎土	性質	色調			参考
					口径	底高	直径	内面			内面(裏)	Hue	外面(表)	
					(12.4)	2.3a u	ナデ	ナデ	E, A	良、黒褐色	10 YR 4/6, 10 YR 3/1	赤	10 YR 4/6	粗製品、成形1/2 現存
第21回	247	AIG C-31/33・34	織文	深鉢	-	4.8v a	ナデ	ナデ	E, A	良、赤褐色	5 YR 4/6	黒	7.5 YR 2/1	粗製品、成形1
	248	AIG G-12・24	織文	深鉢	-	3.9v a	ナデ	ナデ	E, A	良、赤褐色	5 YR 4/6	黒	7.5 YR 2/1	粗製品、成形1
	249	AIG G-2・3	織文	深鉢	-	3.9v a	ナデ	ナデ	E, B, G., 細目	良、明赤褐色	5 YR 5/6	に赤い赤褐色	5 YR 5/4	成形1、粗製品
	250	AIG G-11・28	織文	浅鉢・深鉢	-	3.0v a	ナデ	ナデ	E, A	良、相	5 YR 6/6	相	7.5 YR 7/6	成形1
	251	AIG G-12・56	織文	浅鉢・深鉢	-	2.2v a	ナデ	ナデの頭部、ナデ	E, 複H, A	良、相	5 YR 6/6	灰褐色	7.5 YR 5/2	成形1、粗製品
	252	AIG G-10・19	織文	浅鉢・深鉢	-	4.3v a	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ、ナデ	C, A, E	良、相	7.5 YR 6/6 ~ 6/8	相	7.5 YR 6/6 ~ 6/8	上げ足か?
	253	AIG G-4-11	織文	浅鉢・深鉢	-	1.7v a	ナデ	ナデ	E, G	良、黄褐色	10 YR 6/2	灰褐色	10 YR 5/2	成形1、上げ足
	254	AIG G-4	織文	浅鉢・深鉢	-	1.6v a	ナデ	ナデ	E, A, B	良、白褐色	7.5 YR 6/3	に赤い赤褐色	10 YR 6/4	成形1
	255	AIG G-9	織文	深鉢	-	3.3v a	ナデ	ナデ	E, A	良、明赤褐色、明赤褐色	2.5 YR 4/2, 5 YR 5/6	に赤い赤褐色	10 YR 7/4	粗製品
	256	AIG G-5-6	織文	深鉢	-	2.1v a	ナデ	ナデ	E, A, G.	良、灰褐色	7.5 YR 5/2	相	7.5 YR 4/4	成形1、粗製品
	257	AIG G-7	織文	浅鉢・深鉢	-	3.0v a	ナデ	ナデ	E, A, B	良、相、明赤褐色	7.5 YR 6/6 6/6, 5 YR 5/6	相	7.5 YR 4/1	粗製品、成形1、調整不明瞭、粗い
第22回	258	A区焼出	織文	浅鉢・深鉢	-	3.0v a	ナデ	ナデ	E, A	良、相	7.5 YR 6/6	相	7.5 YR 7/6	成形1、調整不明瞭、粗い
	259	A区焼出	織文	浅鉢・深鉢	-	3.4v a	ナデ	ナデ	A, E, G	良、相	7.5 YR 6/6	灰褐色	10 YR 5/2	成形1、粗製品
	260	A区焼出	織文	浅鉢・深鉢	-	2.5v a	ナデ	ナデ	E, G	良、相	5 YR 6/6	に赤い赤褐色	7.5 YR 7/3 ~ 7/4	成形1、粗製品
	261	A区焼出	織文	浅鉢・深鉢	-	2.2v a	ナデ	ナデ	E, E, G	良、明褐色	7.5 YR 5/6	に赤い赤褐色、一部深褐色	7.5 YR 5/4, 7.5 YR 4/1	成形1、粗製品
	262	A区焼出	織文	浅鉢・深鉢	-	2.1v a	ナデ	ナデ	B, G., A	良、相	5 YR 4/8	灰褐色	5 YR 5/2	成形1
	263	A区焼出	織文	浅鉢・深鉢	-	2.0v a	ナデ	ナデ	E, G	良、に赤い赤褐色	5 YR 5/4	明褐色	5 YR 5/6	成形1、粗製品
	264	A区焼出	織文	浅鉢・深鉢	-	3.4v a	ナデ	ナデ	E, A, G.	良、に赤い赤褐色	5 YR 5/4	に赤い赤褐色	10 YR 6/4	成形1、底部裏面ハケリ、上部底少
	265	A区焼出	織文	浅鉢・深鉢	-	2.0v a	ナデ	ナデ(頭部曲か)、 ハクリ	E, G, C	良、に赤い赤褐色	7.5 YR 4/	相	7.5 YR 4/5	底部裏面ハクリが強しい
	266	A区	織文	深鉢	8.2 (縦大) B.1 (縦大) 大	1.5 (縦大)	ナデ	ナデ	A, C	明赤褐色	5 YR 5/6	相	5 YR 5/6	強がる一面に残る
	267	A区焼出	織文	鉢	5.4	4.1	2.7	ナデ、一部に強烈 あり、青褐色、斑状 文(均文)	B, E, H	良、青褐色	7.5 YR 7/8 ~ 7.5 YR 6/8	青褐色	7.5 YR 7/8 ~ 7.5 YR 6/8	上部の青褐色か?、土偶 面の可能性あり
第23回	1	A区南北トレ-1上 鉢	織文	深鉢	-	5.8v a	ナデ	ナデ(の頭部)	A, C, B, E, H	良、明褐色	2.5 YR 8/8 2.5 YR 8/8	青褐色	7.5 YR 7/8 ~ 7.5 YR 6/8	内部1/2程度熱による 黒褐色、即ち、成形1、粗製品
	2	A区南北トレ-1上 鉢	織文	深鉢	-	1.4v a	ヨコナメ、オサエ	凹面、ナデ	B, C, E, 相 合子	良、相	7.5 YR 7/8	明褐色	10 YR 7/6	成形1鉢、上部縁部均文
	3	A区南北トレ-1上 鉢	織文	深鉢	-	3.3v a	ナデ	ナデ、沈綻	A, C, E, H, 沿口凸起	良、明褐色	5 YR 8/8 ~ 5 YR 8/8	明褐色、相	5 YR 8/8 ~ 5 YR 8/8 5 YR 8/8 ~ 5 YR 8/8	少々向方に沈綻(ケズリ)、 中央部に弱い
	4	A区南北トレ-1上 鉢	織文	深鉢	-	4.9v a	ナデ	ナデ	A, E	良、に赤い赤褐色 ~灰褐色	5 YR 4/4 ~ 4/4	相	5 YR 4/1	上部縁部、相
	5	A区南北トレ-1上 鉢	織文	深鉢	-	4.7v a	ナデ	ナデ	A, C, E, H 多く省む	良、に赤い赤褐色	5 YR 6/3	に赤い赤褐色	10 YR 6/5	成形1鉢、上部縁部均文
	6	A区南北トレ-2上 鉢	織文	深鉢	-	6.1v a	ナデ	沈綻	B, C, E, A, H	良、黒褐色~相 合子	7.5 YR 2/2 ~ 7.5 YR 2/3	に赤い赤褐色~明褐色	7.5 YR 5/4 ~ 5/5	粗製品、外面不規則
	7	A区南北トレ-2上 鉢	織文	深鉢	-	5.6v a	ナデ	赤色茎部、降伏縫 文、沈綻、ナデ	C, B, E	良、相	2.5 YR 4/6 ~ 4/8	に赤い赤褐色	7.5 YR 5/4	成形1鉢、降伏縫文、外 面赤色茎部
	8	A区南北トレ-2上 鉢	織文	深鉢	-	3.4v a	ナデ、結合縫	瓜形文、ケズリ、 ナデ	B, A, G, E, H	良、明褐色	7.5 YR 4/2 ~ 4/3	明褐色、相	5 YR 5/8, 7.5 YR 6/6	瓜形状縫文
	9	A区南北トレ-2上 鉢	織文	深鉢	-	4.7v a	ナデ	ナデ	B, G, E	良、相	5 YR 7/6	相	7.5 YR 7/6	上部縁部
	10	A区南北トレ-2上 鉢	織文	深鉢	-	2.7v a	ナデ	ナデ	E	良、に赤い赤褐色	10 YR 7/4	浅褐色	10 YR 6/4	成形1鉢
	11	A区南北トレ-2上 鉢	織文	深鉢	-	(10.8)	ナデ	沈綻、ミガキ、研 磨	C, G, E	良、に赤い赤褐色	5 YR 4/3 ~ 4/4	赤褐色	2.5 YR 4/6 ~ 4/8	弱い縫文、沈綻、研 磨、赤色茎部あり
	12	A区南北トレ-2上 鉢	織文	深鉢	-	3.2v a	ミガキ	ミガキ、研 磨	B, H, E	良、相	5 YR 4/2	相	5 YR 6/6	沈綻、研磨

第15表 出土土器観察表(10)

調査番号	No	出土遺構	種別	沿標	法量(cm)			調査		出土	測定	色調				備考
					(1)目	(2)目	(3)目	内面	外面			内面(質)	Hue	外面(質)	Hue	
第22回	13	A区南北トレンジ上層	調査	浅鉢・深鉢	-	-	70+ a	ナデ	ナデサエナナデ、ナデ(ヨコ方面)	B. C. A	白 種	7.5 YR 7/6	浅黄褐色~褐色	7.5 YR 8/6 ~10 YR 4/1		
	14	A区南北トレンジ上層	調査	深鉢	-	(11.7)	-	ナデ?断滅のため調査不明。わずかに黒斑	B. H	白~灰~赤褐	5 YR 4/4	褐	7.5 YR 6/8		内面表面整す明確、黒斑あり	
	15	A区南北トレンジ上層	調査	深鉢	-	10.7+ a	ナデ。接合縫	ナデ、オサエナナデ、セイガナナデ	B. C. G. E.	白~灰~赤褐	5.5M4/3 ~ 4/4	褐	3YR6/6 ~ 6/8		口縁部断付時に削りにより波状凹面、内面周辺に凹みあり	
	16	A区南北トレンジ上層	調査	深鉢	-	55+ a	ナデ	ナデ	E. C. G.	白 種	5 YR 6/6	白~灰~褐	10 YR 4/3	少し削り、底部分		
	17	A区南北トレンジ上層	調査	浅鉢・深鉢	-	33+ a	ナデ	ナデ	E. A	白 種	7.5 YR 7/6	黒褐色	7.5 YR 3/1	底部分		
	18	A区南北トレンジ上層	調査	深鉢	-	30+ a	ナデ	ナデ	白色砂岩	白~灰~褐	7.5 YR 6/4	白~灰~褐	7.5YR6/3			
	19	A区南北トレンジ上層	調査	深鉢	-	27+ a	ナデ	ナデ	B. E	白 種	5YR6/6	褐	5YR7/6	口縁部に文様部口押模様に押引き連点		
	20	A区南北トレンジ上層	調査	深鉢	-	33+ a	ナデ	ナデ、削り	B	白~灰褐	2.5Y6/2	淡褐色	2.5YR5/3	削り		
	21	A区南北トレンジ上層	調査	深鉢	-	(4.5)	ナデ	ナデ、沈版	A. C. B. C.	白~灰~褐	7.5 YR 4/2 ~7.5 YR 3/2	暗褐色	7.5YR5/6 ~ 5/8	沈版、削れか?		
	22	A区南北トレンジ上層	調査	深鉢	-	(2.9)	ナデ、モザイク	ナデ、沈版、剥離	C. B. E. 帽 白色砂岩	白~灰~褐	7.5 YR 5/8	明褐色	7.5 YR 5/8	粘土色背景、表面純化、削れ、沈版		
第23回	23	A区南北トレンジ上層サブトレンジ	調査	深鉢	(23.8)	-	17.3+ a	ナデ、ミガキ、全面火入付着	白~灰~褐	A. C. B. E	白~灰~褐	2.5YR5/8 ~ 2.5YR4/8	明褐色	5 YR 2/1	内面全面にスス付着、外周部薄く削り	
	24	A区南北トレンジ上層	調査	浅鉢・深鉢	-	59+ a	ナデ	不明削、ナデ	E. A. G.	白~灰~褐	7.5 YR 6/6 ~ 7.5 YR 4/2	白~灰~褐	7.5 YR 5/4	底部分、調整不明削		
	25	A区南北トレンジ上層	調査	扁錐形直腹鉢	-	(4.5)	ヨコナデ	ナデ	E. A. B. E	白~灰~明褐色	5 YR 6/8 ~ 5.5 YR 5/3	白~明褐色	5 YR 6/8 ~ 5 YR 5/8	穿孔		
	26	A区南北トレンジ上層	調査	深鉢	-	23+ a	ナデ	ナデ	A. B. C	白 種	7.5YR4/3	白~灰~褐	7.5YR5/3	底凹凸付		
	27	A区南北トレンジ上層	調査	深鉢	-	41+ a	ミガキ風ナデ	ミガキ風ナデ	A. B. G. E	灰 黑褐色	10YR4/2	白~灰~褐	10YR5/4	口縁部		
	28	A区南北トレンジ上層	調査	深鉢	-	35+ a	ナデ、ミガキ風ナデ	ナデ、ミガキ風ナデ	C. A. B. E	白~灰~白~灰	5YR6/8 ~ 5.5 YR 5/3	白	5YR7/8	口縁部付か?		
	29	A区南北トレンジ上層	調査	深鉢	-	40+ a	ナデ	ナデ	E. A	白 種	5 YR 6/6	褐	5 YR 7/6	底部分、難観察		
	30	A区南北トレンジ上層	調査	浅鉢・深鉢	-	17+ a	ナデ	ナデ	E. C. G.	白 種	5YR6/6	明褐色	5 YR 2/1	底部分、難観察		
	31	A区南北トレンジ下層	調査	深鉢	-	26+ a	ナデ	ナデ	A. B. E	白 種	5YR6/6	白~灰~褐	5YR5/4	口縁部厚		
	32	A区南北トレンジ上層	調査	深鉢	-	54+ a	オサエナナデ	オサエナナデ	A. C. B. E	白~灰~褐	5 YR 6/8 ~ 5 YR 5/6	明褐色	7.5 YR 5/6	口縁部突起、洗い削れ		
第24回	33	A区南北トレンジ下層	調査	深鉢	-	71+ a	洗削	ナデ	A. B. C	白 種	7.5YR7/6	灰褐色	10YR5/2	底削り、口縁部削り		
	34	A区南北トレンジ上層	調査	深鉢	-	52+ a	オサエナナデ	ナデ、ケズリナナデ	B. C. G. E	白~灰~明褐色	7.5YR6/8 ~ 7.5YR5/6	白~明褐色	7.5YR6/6 ~ 7.5YR5/6	口縁部削り突出		
	35	A区南北トレンジ上層	調査	深鉢	-	73+ a	ナデ	ナデ	A. G. E. F	白~灰~明褐色	10YR5/4	白~灰~褐	10YR5/4	口縁部		
	36	A区南北トレンジ上層	調査	深鉢	-	10.4+ a	ナデ	ナデ	E. B	白 種	7.5YR6/6 ~ 5.5YR5/6	白~灰~褐	10YR5/4	口縁部付、粗い		
	37	A区南北トレンジ上層	調査	深鉢	-	26+ a	ナデ(接合縫)	ナデ(接合縫)	A. E	白 黑褐色	7.5 YR 3/2	黑褐色	7.5 YR 3/2	口縁部		
	38	A区南北トレンジ上層	調査	深鉢	-	47+ a	剥離	剥離	E. G. A.	白~灰~褐	7.5 YR 6/4	白~灰~褐	10 YR 7/4	底部分		
	39	A区南北トレンジ上層	調査	浅鉢・深鉢	-	31+ a	ナデ、接合縫	ナデ	E. A	白 種	5 YR 6/6	明褐色	5 YR 3/1	底削り、内面に彫刻み、結合痕有		
	40	A区サブトレンジ	調査	深鉢	-	90+ a	ナデ、接合縫	ナデ、沈版、接合縫、1ヶ所削り、茎部	A. C. E. H	白 種	7.5 YR 4/5	白~灰~褐	7.5 YR 6/6, 7.5 YR 4/1 ~ 4/2	底削り(1ヶ所削り)		
	41	A区サブトレンジ	調査	浅鉢	-	(2.5)	ナデ、オサエ	ナデ、沈版	E. E. E.	白~灰~明褐色	2.5 YR 4/9	白~灰~褐	2.5 YR 4/6 ~ 4/8	底削り		
	42	A区サブトレンジ	調査	深鉢	-	23+ a	ヨコナデ	ヨコナデ	C. B. E	白~灰~明褐色	5YR5/8 ~ 5YR5/6	明褐色~白~灰	5YR5/8 ~ 5YR4/8	底削り(1ヶ所削り)、内面が薄削り		
	43	A区サブトレンジ	調査	深鉢	-	(4.2)	ナデ	ナデ、沈版(凹面)、多孔	G. G. H.	白~灰~明褐色	5YR5/8 ~ 5YR5/6	明褐色	5YR2/1	底削り(凹面)、内面が薄削り		
	44	A区サブトレンジ	調査	浅鉢・深鉢	-	33+ a	ナデ、削りナデ	ナデ	A. G	白 明褐色	7.5 YR 5/6	褐	7.5 YR 6/6	底削り、上部削り		

第16表 出土土器観察表(11)

測定番号	年	出土遺物	種別	基盤	基盤(cm)			調査		底土	積成	色調			備考		
					上層		底層	内面				内面(赤)		Hue			
					高さ	底径		内面	外面			内面	外面	内面	Hue		
第24回	45	A区サブトレス2	圓文	深鉢		3.3±α	ナデ	ナデ	ナデ	E, A, G	良 明鏡面	5 YR 5/6	赤灰	5 R 4/1	近赤		
	46	A区サブトレス4	圓文	深鉢		4.9±α	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	A, E	良 暗、灰暗	7.5 YR 6/6	浅黄褐～黄褐	10 YR 4/4	10 YR 6/6	直斑(縦)、外面尖部文	
	47	A区	圓文	深鉢		6.0±α	丁寧なナデ	ナデ	ナデ	A, C, E, H	良 明鏡面～赤	2.5 YR 5/8	赤灰	5 YR 1/1	5 YR 1/1	口縁部鋸目	
	48	A区サブトレス5	圓文	深鉢		4.0±α	ナデ	ナデ	ナデ	A, C, E, H	良 暗	2 YR 8/8	赤	5 YR 5/8	5 YR 5/8	口縁部に刷文	
	49	A区サブトレス6	圓文	深鉢		1.6±α	七巧手	七巧手	七巧手	A, C, E	良 明鏡面～赤	5 YR 8/8	赤	5 YR 8/8	5 YR 8/8	口縁部内側	
	50	A区サブトレス6	圓文	深鉢		0.7±α	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	A, C, B, E, H	良 須磨	7.5 YR 4/6	暗	7.5 YR 7/6	7.5 YR 3/4	直斑(縦)	
	51	A区サブトレス6, G 10-30	圓文	深鉢		(1.5±)	ていねいなナデ	ナデ	ナデ	A, B, E, H	良 須磨	7.5 YR 4/6	暗	7.5 YR 5/8	7.5 YR 8/8	明鏡面、口縁部内側毛化	
	52	A区サブトレス6	圓文	深鉢		2.3±α	ナデ	ナデ	ナデ	E, G, C	良 黃	7.5 YR 5/4	黒	7.5 YR 3/1	7.5 YR 3/1	直斑(縦)	
	53	A区サブトレス7	圓文	深鉢		3.1±α	ミガキ	ミガキ	ミガキ	G, E	良 にぶい黄褐	10 YR 6/4	にぶい黄褐	10 YR 6/6	10 YR 6/6	直斑(縦)、ミガキ	
	54	A区サブトレス7	圓文	深鉢		3.7±α	墨痕(2枚目)	刷文、第6位	刷文、第6位	A, B, C	良 明鏡面	10 YR 4/2	黒	2.5 YR 7/2	2.5 YR 7/2	刷文	
第25回	55	A区サブトレス7-B	圓文	深鉢		6.0±α	ナデ	ナデ	ナデ	A, B, C, E	良 や	にぶい黄褐	10 YR 7/4	淡黄	2.5 YR 8/4	2.5 YR 8/4	直斑(縦)
	56	A区サブトレス8	圓文	深鉢		5.9±α	ナデ	ナデ	ナデ	B, C, E	良 にぶい黄褐	10 YR 5/4	暗黄	10 YR 7/6	10 YR 7/6	口縁部直、刷文尖端	
	57	A区サブトレス8	圓文	深鉢		(6.3)	ナデ? 全面スズ付	刷文、ナデ、洗模	刷文、ナデ、洗模	C, B, E	良 暗	7.5 YR 6/8	黒	7.5 YR 2/1	7.5 YR 2/1	ハイザイによる墨痕、洗模、全面全周スズ付	
	58	A区 G 12-53	土師器	直		5.6±α	ミカキ、ナデ	ミカキ	ミカキ	A, C, E, G, E	良 灰	10 YR 8/4	淡黄褐	10 YR 8/3	10 YR 8/3		
	59	A区 G 11-29	土師器	直		2.2±α	御オエ工場でないナデ	ナデ強きガラス	ナデ強きガラス	B, C, A, E	良 白	2.5 YR 8/2	灰白	2.5 YR 8/2	2.5 YR 8/2		
	60	A区 楕円	青磁	直		5.7±α	強繪	強繪、縞模	強繪、ごく少子	(強) うるさい赤み	(強) うるさい赤み	(強) うるさい赤み	(強) うるさい赤み	(強) うるさい赤み	7.5 YR 7/1	壁厚0.2mm程度、施装青磁箇所 B-b (大字原)、3c-29と同様	
	61	A区 カクラン	圓文	深鉢		4.1±α	ナデ	ナデ	ナデ	C, G, E	良 明鏡面～赤	5 YR 5/8	明鏡面	5 YR 8/8	5 YR 8/8	口縁部直、刷文尖端	
	62	A区 カクラン	圓文	深鉢		(4.5)	ナデ、ミガキ	ミガキ、洗模	ミガキ、洗模	A, C, E	良 小	5 YR 3/6	暗赤	5 YR 4/2	3-6	施装開元、洗模	
	1	B区 I部P17	染付	直	12.5	4.3±α	強繪	強繪	強繪	強白	(強) 壁厚0.2mm程度、施装青磁箇所 B-b (大字原)、3c-29と同様	NR 5	NR 5/0.6/0.6				
	2	B区 I部P17	青磁	火入	(9.8)	1.7±α	強繪	ロクロナデ	強繪	強白	(強) 強豊富	3 CT 0/2.0	(強) アイボリーカット	5 YR 0/1.0	外周口縁に貫入	口縁部直、強豊富	
第34回	3	B区 I部P17	染付	直	(7.0)	1.4±α	強繪	強繪	強繪	強白	(強) わずかな赤	3 P 0.5/5.5	スノウホワイト	NR 5	NR 5	内面強豊富	
	4	B区 I部P17	土師質	直	(7.1)	1.9±α	ミガキ	白模ナデ	強繪強	強白	淡黄	10 YR 8/3	淡黄	7.5 YR 8/6	内面一部にスズ付		
	5	B区 I部P17	瓦絵	直		2.2±α	御松子子地	御松子子ガラス	ヘワケズリ	強繪強	良 白	NA/1	灰	NA/1	NA/1		
	6	B区 2部P17	瓦絵	直		0.6±α	御松子子地	御松子子ガラス	御松子ケズリ	強白	強白	NA/1	灰	NA/1	NA/1		
	7	B区 2部P2	瓦絵	深鉢	(2.8)	1.1±α	強繪	強繪	強白	強白	2.5 YR 5/1	赤灰	2.5 YR 5/1	籠目			
	8	B区 2部P3	染付	直	14.9	4.7	6.6	強繪	強繪	強白	(強) スノウホワイト	NR 5	(強) バーニュワイト	NR 5	NR 5/2/0	露入、文様強豊富 (PBR 0.5/0)	
	9	B区 2部P3	瓦絵	直	(11.2)	4.9±α	強繪	強繪	強白	強白	強白	NR 5	(強) バーニュワイト	NR 5	NR 5		
	10	B区 2部P3	青磁	直	18.2	4.7±α	強繪	強繪	強白	強白	(強) ミストグリーン	3 CT 7.5/2.0	(強) アイボリーカット	5 YR 0/1.0	5 YR 0/1.0		
	11	B区 2部P3	染付	直		5.3±α	強繪	強繪	強白	強白	強白	588.5/2.0	スノウホワイト	NR 5	NR 5		
	12	B区 2部P3	陶邦	直		5.2±α	強繪	強繪	強白	強白	強白	584.0/5.5	スノウホワイト	NR 5	NR 5	文様アーチボリカット (SYO 0/1.0)	
	13	B区 2部P4	青磁	直	10.7	4.5±α	強繪	強繪	強白	強白	強白	3 C 0/2.0	(強) スノウホワイト	NR 5	NR 5	白化土による文様	

第17表 出土土器観察表(12)

回収番号	No.	出土階層	種別	基盤	法面(cm)		調査		重土	成	色調			備考	
					(左)	(右)	底径	内面			内面(真)	Hue	外面(真)	Hue	
第35回	14	B区 P5 2層P5	塗付	圓	10.0	3.9	5.05	施縫	施縫	粘土	良	-	-	-	
	15	B区 2層P5	塗付	圓	(3.8) (高さ 目)	3.2+ a	施縫	施縫	粘土	良	5885/2.0	(施) パールホワイト	N8.5	文様 細色 CBM35/5.5)	
	16	B区 2層P5	土模質 土器	火鉢	-	-	6.9+ a	ナデ ヨコナデ	ヨコナデ ヨリ引	西朝日 小海色系 C	良	陶風	10YR5/1	灰白	10YR7/1
	17	B区 2層P7	陶器	圓	(3.2) (高さ 目)	3.2+ a	施縫	施縫	粘土	やや 青白	10YR	10YR7/1	10YR7/1	内面付着物あり	
	18	B区 P47	塗付	三	-	1.7+ a	施縫	施縫	粘土	良	10YR	5885/2.0	(施) スノウホワイト	N9.5	文様(ホワイト)色 (SPB6.5/3.5), 鮎青色 (SPB2.5/3.5)
	19	B区 P47	土模質 土器	II?	-	1.9+ a	ナデ 文様	ナデ	目	にじみ 青白	10YR7/4	浅黄緑	10YR8/3		
	20	B区 P8	陶器	圓× 三	(8.9)	-	2.0+ a	施縫 ホロ	施縫	粘土	良	洋紅 洋紅色	Y5.0/1.0	(施) オイスター	5Y7.5/1.0
	21	B区 P40	陶器	圓	-	-	4.1+ a	施縫	施縫	粘土	良	(施) 淡青色	10YR8/4	(施) 淡青色	10YR8/4 内面斑入
	22	B区 P33	磁器	圓	-	-	3.9+ a	施縫	施縫	粘土	良	(施) 淡青	2.5Y8/3	(施) 淡青	2.5Y8/3 内面斑入
第36回	23	B区 P7	陶器	圓× 田	-	-	3.9+ a	施縫	"施縫 ロクロナデ"	"粘土 モルタル ナデ"	良	洋紅 洋紅色	3CY5.5/8.8 3Y7.5/2.0	(施) タリーム色	2Y9.0/2.0 内外面斑入
	24	B区 P2	陶器	圓	-	-	2.3+ a	施縫	施縫	粘土	良	洋紅 洋紅色	N7.5	(施) 洋紅色	N7.5 内面斑入
	25	B区 P23	陶器	圓	-	2.4+ a	2.2	施縫	施縫	"粘土 モルタル ナデ"	良	ミストード リン	3CY7.5/2.0	(施) 白色	4YR4.0/2.0
	26	B区 P47	陶器	三	"4.9 (高 目)"	3.1+ a	施縫	施縫	"粘土 モルタル ナデ" H"	粘土	良	洋紅 洋紅色	10YR7/1	(施) 淡青 にじみ 青白	2.5Y7.5/3 2.5Y8/4 10YR8/4
	27	B区 2層P16	陶器	圓	"(4.7) (高 目)"	1.6+ a	施縫	施縫	"粘土 モルタル ナデ"	良	洋紅 洋紅色 くすみ色	3Y5.0/1.0 6Y4.5/3.0	(施) サロー	5Y7.5/2.0 内面に斑入	
	28	B区 P6	陶器	月13 小鉢	-	-	3.45+ a	施縫	施縫	"粘土 モルタル ナデ"	良	オーランド ラグ	3Y4.5/2.0	(施) ねずみ色	N5.5
	29	B区 1層P27	陶器	青灰	11.4	-	2.1+ a	"施縫 ロクロナデ"	"施縫 施縫底状"	"粘土 モルタル ナデ" H"	良	洋紅 洋紅色 モルタル ナデ	3G5.0/4.5	(施) キヤヌ	4YR5.5/6.5 内面斑入
	30	B区 2層P10	塗付	三	-	-	2.7+ a	施縫	施縫	粘土	良	5885/2.0	(施) アイボリホワイト	5Y9.0/1.0	文様 細色 CBM35/5.5)
	31	B区 P21	塗付	圓	-	-	4.4+ a	施縫	施縫	粘土	良	5885/2.0	(施) 白	N9.5	文様 細色 CBM35/5.5)
第37回	32	B区 横 出	塗付	圓	9.9	3.8	5.8	施縫	施縫	粘土	良	オーランド ナデ	3G9.0/1.0	(施) スノウホワイト	N9.5 "人、文様細色 (SPB6.5/3.5) 間に斜筋有"
	33	B区 P19	磁器	圓	12.8	-	2.3+ a	施縫	施縫	粘土	良	洋紅 洋紅色 モルタル ナデ	3Y4.0/2.0	(施) ラグ	Y5.0/1.0
	34	B区 2層P1	塗付	圓	"(4.9) (高 目)"	-	2.0+ a	施縫	施縫	粘土	良	ペールホワ イト	N8.5	(施) アイボリホワイト	5Y9.0/1.0 文様 細色 CBM35/5.5) 内面斑入
	35	B区 横 出	陶器	三	"3.9 (高 目)"	3.4+ a	施縫	施縫	粘土	良	洋 灰黃	10YRA/4 2.5Y6/2	にじみ 青白	10YR7/4 内面斑入 外側に斑入	
	36	B区 横 出	陶器	省	-	T3Y5.0 a	"回転ナデ, カビナデ, ユビオサエ"	"回転ナデ, カビナデ, 白然地"	粘土	良	灰黃 灰黃	7.5YRA/2 7.5YR3/4	にじみ 青白	7.5YR/4.0 磁器部付	
	37	B区 横 出	陶器	圓	"4.0 (高 目)"	3.9+ a	施縫	施縫	"施縫 砂 F"	良	灰黃	2.5Y7/2	黒褐	10YR2/2	
	38	"B区 横出 P47"	陶器	油壺 L	"(5.6) (高 目)"	4.7+ a	施縫	施縫	粘土	良	(施) オリーブ	5.5Y4/4	にじみ 青白	10YR2/3 ~6.3' 江口有り	
	39	B区 横 出	陶器	省	"火薬 土器" (高さ 底)	6.5+ a	ロクロナデ	施縫	"粘土 モルタル 海色系"	粘土	良	洋 灰黃	9Y7.5/2.0	(施) アイボリホワイト	5Y9.0/1.0 文様オーランド (SPB3.5/3.0)
	40	B区 横出	"火薬 土器"	壺	(2.5)	-	7.1+ a	"ナデ 回転ナデ ナデ"	"回転ナデ ナデ"	H. G.	良	灰黃	2.5Y6/1	灰黃	2.5Y6/1 磁器
第37回	41	B区 P13	"土模質 土器"	林	(25.4)	-	7.3+ a	回転ナデ	"ナケ後ナデ ナデ"	H. 赤褐色 E. G.	にじみ 灰 灰黃	10YR8/3 10YR5/2'	にじみ 黄褐	10YR7/3 ~6.3'	
	42	B区 P16	"土模質 土器"	瓶	-	-	4.8+ a	不明	"ヨコナデ 回転ケズリ"	微細 H	良	-	-	-	
第37回	43	B区 P23	"土模質 土器"	壺	-	-	2.9+ a	ハケ目?	粘土	良	浅黄色	7.5YR/8/4	"浅黄相 色"	7.5YR8/3 5YR7/6 壺日	
	44	B区 P1	"土模質 土器"	土鉢	3.3-5.2 (高さ 底)	6.2-9.5 (厚さ 底)	-	-	微細な H	良	浅黄色	10YR8/4	-	-	

第18表 出土土器観察表(13)

測定番号	No.	出土遺跡	種別	器種	法算(cm)		調査		胎土	焼成	色調			備考		
					(日本)	高さ	底径	内面	外面		内面(質)	Hue	外面(質)			
第13回	1	C区 P35	土器質 土器	三	-	-	2.9	188ナデ	188ナデ 底深め切り離し	H 赤褐色	良 浅黄相	7.5YR8/4	黄	7.5YR7/6		
	2	C区 P38	土器質 土器	三	-	-	2.6+α	188ナデ	188ナデ	H 赤褐色	良 浅黄相	7.5YR8/4	に赤・橙	7.5YR7/4	外腹スリ付有	
	3	C区 P6	脚器	猪× 足	-	-	3.1	工具ナデ 自然輪	188ナデ ナデ	H	良 に赤い斑紋	10YR7/3	に赤・黄相 オリーブ黒	10YR6/3 7.5Y3/3	斑紋有	
	4	C区 P16	脚器	骨器	-	-	2.7+α	脚輪	脚輪	H	良 白	7.5YR3/1	(赤) 灰白	7.5YR4/1		
	5	C区 2脚P5	土器質 土器	大鉢	-	-	5.9+α	ナデ	ナコナデ 小鉢	H, L, A	良 浅黄相	10YR8/4 5YR7/6	浅黄相	10YR8/4		
	6	C区 P10	底盤器	廣	-	-	5.0+α	当て貝殻	タタキ地 カドリ	良	良	10YR5/2	褐相	10YR5/1		
	7	C区 P7	背瓶	圓	-	-	3.8+α	背瓶	背瓶	良	良 白	3CY5.5/5.5	(暗) パールホワイト	N8.5		
	8	C区 P22	背瓶	圓	-	-	2.6+α	背瓶	背瓶	良	良 白	3CY5.5/5.5	(暗) オイスター	5Y7.5/1.0	内面質人入有	
	9	C区 P13	口瓶	圓	-	-	2.4+α	背瓶	背瓶	良	良 白	5Y7.5/1.0	(暗) オイスター	5Y8.8/1		
	10	C区 1脚P7	脚輪器	圓	-	-	1.6+α	脚輪	脚輪	H (暗) 灰白	5Y 8/1 ~ 8/2	(暗) 灰白	10 Y 7/1 ~ 7/2	質變鉄製品。(内面凹うす い質人、脚輪 0.2mm程度)		
	11	C区 P8	背瓶	三	-	-	1.9+α	背瓶 ロクロナデ	背瓶 ロクロナデ	F	良 白	3CY7.5/2.0	(暗) オイスター	5Y 8/1		
	12	C区 1脚P3	背瓶	圓	-	-	1.3+α	背瓶	背瓶	H (暗) 灰白	5 Y 7/1 ~ 7/2	(暗) 灰白	10 Y 7/2 ~ 10 Y 6/2	質變鉄製品。(内面凹うす い質人、脚輪 0.2mm程度)		
	13	C区 P21	背瓶	圓	-	-	(2.7)	背瓶	背瓶。しのぎ窪	良	良 白	10 Y 5/2 ~ 4/2	(暗) 灰白	10 Y 7/1 ~ 7/2		
	14	C区 P3	背瓶	三	-	-	(2.3)	背瓶	背瓶。窪状	良	良 白	5 Y 7/1	(暗) 灰白	10 Y 7/2 ~ 10 Y 6/2	背瓶質變瓶(大学)	
	15	C区 P27	口瓶	圓	-	-	1.4+α	背瓶	背瓶。窪状	良	良 白	3G9.0/1.0	(暗) クリーム色	2Y0.0/2.0	内面質人質人	
	16	C区 瓶出	脚器	脚輪	-	(12.0)	5.2+α	脚り日	カドリ。 ナデ	良	良 白	7.5YR4/1	(暗) 灰	N6/		
第47回	1	D区 1型	梁器	圓	-	(3.4) (高)	ナデ	3.2+α	背瓶	背瓶	良	(暗) 灰白	588.5/2.0	(暗) スノーカホワイト	N9.5	文様(花はなだ GP8.5/0.55) 内面凹入人、外腹コンニャ 手削
	2	D区 1型	梁器	圓	-	3.9 5.5 (高)	ナデ	3.95+α	背瓶	背瓶	良	(暗) 白	588.4/2.0 5YR4/1	(暗) に赤い質相	10YR6/3	
第50回	1	D区 M61	灰質 土器	楕球	-	-	0.9+α	脚り日	ナデ	良	良 白	7.5Y6/1	灰	N5/		
	2	D区 2脚P4	灰質 土器	脚	-	-	5.25+α	ハケ日	ハケ日	HG	良	良	2.5Y5/1	黄	2.5Y4/1	
	3	D区 2脚P6	灰質 土器	脚	-	-	4.95+α	平明	188ナデ 188ナデ ケズリ	HG	良	良	10Y5/1	黄	2.5Y5/1	
	4	D区 2脚P6	土器質 土器	脚	-	-	2.2+α	188ナデ	188ナデ 底深め切り離し	H, L 赤褐色 黒色	良 白	10YR7/4	に赤い質相	10YR7/4		
	5	D区 2脚P7	脚器	脚	-	-	5.8+α	背瓶	背瓶	良	(暗) 白	2.5Y8/2	(暗) 灰白	2.5Y8/2	内面質人	
	6	D区 2脚P6	脚器	三	(12.4)	-	2.4+α	背瓶	背瓶	良	(暗) 白	7.5Y6/1	(暗) 灰白	2.5Y8/1	内面質人	
	7	D区 P7	脚器	三	(12.3)	-	2.1+α	背瓶 ロクロナデ	背瓶	良	(暗) 白	7.5Y6/2	(暗) 灰白	2.5Y7/2		
	8	D区 2脚P6	灰質 土器	脚	-	-	1.4+α	エダキ	ナデ 188ナデ	良	良 白	2.5Y5/2	黄	2.5Y5/1	背瓶質變瓶(大学)	
第53回	1	E区 P3 瓶出	脚器	三	(12.0)	-	2.8+α	ロクロナデ 背瓶	背瓶 ロクロナデ	良	(暗) 白	5Y6/2 2.5Y8/4	(暗) 灰白	2.5Y7/2		
	2	E区 瓶出	脚器	土瓶	(7.8)	-	2.5+α	背瓶 ロクロナデ	背瓶	良	(暗) 白	5YR4.0/1.0 5YR4.0/0.5	(暗) オイスター	5Y7.5/1.0	文様 アイボリーカホワイト (SYR9.0/1.0)	
	3	E区 P6	脚器	圓	-	(4.4) (高)	ナデ	3.9+α	背瓶	背瓶	良	(暗) 白	2.5Y7/2	(暗) 灰白	2.5Y8/2	内面質人
	4	E区 P14	脚器	圓	-	-	1.8+α	背瓶	背瓶	良	(暗) 白	588.5/2.0	スノーカホワイト	N9.5	文様 棒状 GP83.5/5.5	
	5	E区 P14	灰質 土器	楕球	-	-	10.2+α	ケズリ後ナデ	平明	H	少 少 白	2.5Y3/1	灰白	2.5Y8/2		
第57回	1	E区 M61	灰質 土器	脚	(9.1)	2.4	188ナデ後ナデ	188ナデ 底深め切り離し	H, L 赤褐色 黒	良 白	10YR8/4	浅黄相、 白	7.5Y8/4, 5YR7/4			
	2	E区 M61	灰質 土器	脚	-	-	3.0+α	背瓶	背瓶	良	(暗) 白	3CY7.5/2.0	(暗) アイボリーカホワイト	5Y8.0/1.0	質人入有	
	3	E区 P11	陶器	脚	-	-	(6.7)	188ナデ ロクロナデ 自然輪	自然輪	H, L 赤褐色	良 白	2.5Y3/2	脚部～脚部	2.5Y3/2		

第19表 出土土器観察表 (14)

監号	No.	出土場所	種別	基種	法面 (cm)			調査		重土	成	色調			備考	
					(Ⅰ)面	(Ⅱ)面	(Ⅲ)面	内面	外面			内面 (真)	Hue	外面 (真)	Hue	
第57周	4	FIK_P23	土質質 土器	Ⅲ	-	-	3.3+ a	ヨコナデ	ヨコナデ、 底深く切り離し	H. 小湖色調 G.	Ⅲ に赤い黄緑	10YR7/3	に赤い黄緑	10YR7/3	器一ヶ月	
	5	FIK_P5	土質質 土器	Ⅲ	(8.4)	(7.1)	1.6	刮削ナデ	刮削ナデ 底深く切り離し	H. 小湖色調 G.	Ⅲ 浅黄緑	10YR8/4	浅黄緑 相	7.5YR8/4 5YR7/6		
	6	FIK_P23	土質質 土器	Ⅲ	-	-	2.85	ナデ	ナデ 底深く切り離し	黄褐色	Ⅲ に赤い相	7.5YR7/4	に赤い相	7.5YR7/4		
	7	FIK_P2	土質質 土器	Ⅲ	-	-	2.9+ a	刮削ナデ	刮削ナデ 底深く切り離し	H. 沖縄色 G.	Ⅲ 相	5YR7/6	相	5YR7/6		
	8	FIK_P7	土質質 土器	Ⅲ	-	-	1.7	刮削ナデ	刮削ナデ 底深く切り離し	H. G. A.	Ⅲ 浅黄緑	10YR8/4	浅黄緑	10YR8/4 10YR7/6	口縁部にスズ付有	
	9	FIK_P1	土質質 土器	Ⅲ	-	-	4.2+ a	ヨビナデ ユビナサエ	ヨビナデ ユビナサエ	H. A. C. 小湖色調	Ⅲ 浅黄緑	10YR8/3	灰 灰白	5Y7/1 5Y7/1		
	10	FIK_P6	土質質 土器	Ⅲ	-	-	1.8+ a	波彌 ミカホ	波彌 ナデ 赤色生彩	H	Ⅲ 灰白 に赤い赤緑	2.5YR8/1 3YR5/4	相	7.5YR4/1		
	11	FIK_P29	土質質 土器	土器 (古器)	6 (6)	2 (2)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	ナデ	ナデ 青を含まない	Ⅲ 灰白	5Y8/1		定期	
	12	FIK_P28	土質質 土器	土器 (古器)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	ナデ	ナデ 青を含まない	Ⅲ 灰白	2.5Y7/1		一部欠損		
	13	FIK_P1	白織	Ⅲ	(11.9)	-	2.0+ a	施脂	施脂	施脂	Ⅲ (施) バーレルホワイト	N8.5	(施) スノウホワイト	N9.5		
	14	FIK_P37	白織	Ⅲ	(11.2)	-	2.0+ a	施脂	施脂	施脂	Ⅲ (施) カラーミム色	5Y7.5/1.0	(施) カラーミム色	2Y9.0/2.0		
	15	FIK_P13	柒付	Ⅲ	(15.1)	-	1.7+ a	施脂	施脂	施脂	Ⅲ (施) オイスター	3Y7.5/1.0	(施) シルバーダレイ	N7.5		
	16	FIK_P30	陶器	Ⅲ	-	-	4.1+ a	施脂	施脂	施脂	Ⅲ (施) ゴールデン ローン	3YR8.5/6.5	(施) ラセットゴールド 金色	2Y4.0/5.5 3Y6.0/6.0	個人入念	
	17	FIK_P42	柒付	Ⅲ	-	-	2.2+ a	施脂	施脂	施脂	Ⅲ (施) バーレルホワイト	3Y5.0/1.0	(施) バーレルホワイト	N8.5	文様 背面 (SH25/4.5)	
	18	FIK_ハ イフ	陶器	Ⅲ	-	-	3.7+ a	刮削ナデ	刮削ナデ	H	Ⅲ 灰	N5/	Ⅲ 灰	N5/	Ⅲ 灰に工具痕	
第62周	1	G区 P15	磁器	Ⅲ	-	-	3.25+ a	施脂	施脂	施脂	Ⅲ (施) カリ色	8Y9.0/2.0	(施) カリム色	2Y9.0/2.0		
	2	G区 焼市	柒付	Ⅲ	-	4 (高 付)	2 (2)	3.1+ a	施脂	施脂	施脂	Ⅲ (施) ウォッシュ	3YR8.5/7.1	(施) スノウホワイト	N9.5	文様 背面 (SH35/5.5)
	3	G区 焼市	柒付	Ⅲ	-	4 (高 付)	0 (0)	1.7+ a	施脂	施脂	施脂	Ⅲ (施) ストウホワ イト	N9.5	(施) アイボリホワイト	5Y9.0/1.0	
	4	G区 P16	陶器	Ⅲ	-	-	(12.5)	当て具盛 ナデ	ナデ 底深く切り離し	E	Ⅲ (施) ダグリー ン油色	3Y2.5/1.5 3Y6.0/6.0	(施) オリーブフラグ	5Y4.5/2.0		
	5	G区 P11	土質 質	土器 (古器)	3 (古器)	9 (9)	3 (3)	1 (1)	ナデ しぶり底	ナデ 底深く切り離し	Ⅲ 灰	N6/	灰	N6/		
	6	G区 焼市	土質 質	フイ ゴ 器	5.1 (5)	5.0 (5)	-	-	-	H	Ⅲ 黒周 灰地 灰表面	10YR1/1 10YR5/1 10YR5/2	-	-	表面に墨跡部分に溶解現 が現る	
	7	焼市	土質 質	水注	-	-	5.1+ a	ナデ	ナデ ケツリ	施脂 施脂	Ⅲ に赤い黄緑	10YR7/4	浅黄緑	7.5YR8/6		

() は現存と復元を表す。

重土：A.角閃石 B.石英 C.長石 D.赤色粒子 E.白色粒子 F.黑色粒子 G.雲母 H.滑石

第20表 出土石器・石製品観察表

回収番号	No.	出土遺跡	種別	法量 (cm)			重さ (g)	材質	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
第 26 回	1	AIG-16 土器焼出	刮削	5.8	6.6	1.7	35.16	サヌカイト	二次加工あり
	2	AIGサブトレーン	刮削	4.1	6.1	1.1	21.15	サヌカイト	表面部に微細ハクリあり
	3	AIGサブトレ-2	刮削	1.9	2.8	0.4	1.98	鶴島産黒曜石	一次加工なし
	4	AIG南北2-2 上層	刮削	4.2	2.2	0.3	5.47	サヌカイト	二次加工なし
	5	AIG南北2-2	磨削刮削	4.4	1.9	0.5	6.54	サヌカイト	
	6	AIG南北2-2 上層	刮削	3.1	2	0.4	1.9	鶴島産黒曜石	二次加工なし
	7	AIG東西1-1 西1下層	刮削石斧	6.2	2.9	2.1	135.68	砂岩か?	
第 27 回	8	AIG南北トレ	石核	4.5	8.5	1.8	66.01	安山岩	
	9	AIG焼出	ナイフ形石器?	3.9	2.5	0.8	5.93	黒曜石	
	10	AIG焼出	石器	2.4	1.4	0.4	0.96	鶴島産黒曜石	先端部使用時の欠損か?
	11	AIG焼出	石器	2.1	1.5	0.8	1.72	小川産黒曜石?	初期は新鮮状に加工。
	12	AIG G 2	石器	2.1	1.6	0.3	0.44	西部九州産黒曜石	
	13	AIG G 17-17	刮削	2.8	4.4	0.8	7.76	サヌカイト	
	14	AIG 12-49	刮削	2.7	4.5	0.5	7.09	サヌカイト	二次加工のある刮削
	15	AIG G 9	刮削	3.8	3.5	1.0	9.51	サヌカイト	石器?
	16	AIG G 15-11	石器	4.2	5.0	0.9	20.43	サヌカイト	
	17	AIG G 16-10	石器	4.3	3.8	0.8	10.11	サヌカイト	
	18	AIG G 14-4	刮削	5.0	7.5	1.5	66.35	安山岩	
	19	AIG G 4-64	石核	3.4	4.7	1.6	26.66	安山岩	
	20	AIG焼出	刮削	3.1	3.2	0.5	3.65	サヌカイト	二次加工あり
	21	AIG焼出	刮削	1.9	2.2	0.2	0.80	鶴島産黒曜石	二次加工あり
	22	AIG G-11	刮削	2.2	2.1	0.4	1.63	鶴島産黒曜石	微細ハクリあり
	23	AIG焼出	刮削	1.8	3.2	0.5	2.87	サヌカイト	
	24	AIG G 17	刮削	2.7	2.5	0.5	4.03	サヌカイト	
	25	AIG G 2	刮削	2.3	0.8	0.2	0.50	鶴島産黒曜石	二次加工なし
	26	AIG G 4-58	精良刮削	3.1	6.3	1.1	24.00	安山岩	
第 28 回	27	AIG 焼出	刮削石斧	9.5	5.1	2.0	134.94	板状岩	
	28	AIG G10-32	刮削石斧	12.5	5.1	3.6	318.5	砂岩か?	
	29	AIG G14-35	刮削石斧	11.4	5.9	1.7	143.07	板状岩	
	30	AIG G13-30	刮削石斧	2.2	5.5	2.1	22.41	砂岩か?	
	31	AIG G16-7	刮削石斧	8.3	4.8	1.9	95.65	板状岩	
	32	AIG G 2	刮削石斧	10.0	4.7	1.7	109.77	板状岩	
	33	AIG G8-14	刮削石斧	11.3	5.4	3.6	312.7	砂岩か?	
第 30 回	34	AIG G16-6	刮削石斧	10.6	4.7	2.2	159.52	安山岩	
	35	AIG G8-11	刮削石斧	15.4	6.5	4.1		角閃石安山岩	
	36	AIG	石斧	14.5	5.5	4.7			
第 31 回	37	IK G (A区付近)	刮削石斧	13.1	4.6	2.4	173.1	板状岩か?	
	1	BIG P37	刮削	3.4	1.9	0.7	4.99	黒曜石	
	2	BIG P27	石斧	13.1	4.9	3.4		粘板岩か?	
	3	BIG P23	砾石	7.9	7.1	3	309.99	角石か?	
第 44 回	1	CIG 焼出	刮削	5.9	7.6	1.6	65.59	安山岩	
	1	DIG P7	砾石	6.9	3.6	1.2	57.67	粘板岩か?	
第 51 回	1	FIG P5	石核	7.0	4	1.7	48.57	板状岩	二次加工刮削
	1	GIG 焼出	刮削	4.1	1.6	0.8	5.43	鶴島産黒曜石	
第 63 回	2	GIG P10	石核	15.0	12.9	7.2			

() は現存、もしくは復元を表す。



調査地全景（東から）



調査区（C～G 区）全景（北から）

写真図版2



A区空中写真（南から）



B区空中写真（東から）



C～G区空中写真（南から）



A区包含層検出状況（北から）



A区包含層検出状況（南から）



A区発掘状況（北から）

写真図版 4



A区1号土坑土層断面（東から）



A区1号土坑土層断面（北から）



A区1号土坑完堀状況（西から）



① A 区包含層 (G-2) 発掘状況 1 (西から)



② A 区包含層 (G-4) 発掘状況 2 (西から)



③ A 区包含層 (G-5) 発掘状況 3 (西から)



④ A 区包含層 (G-8) 発掘状況 4 (西から)



⑤ A 区包含層 (G-8) 発掘状況 5 (西から)



⑥ A 区包含層 (G-10) 発掘状況 6 (西から)



⑦ A 区包含層 (G-11) 発掘状況 7 (西から)



⑧ A 区包含層 (G-16) 発掘状況 8 (西から)

写真図版6



① A区南北土層（北側）



② A区南北土層（南側）



③ A区東西土層（東側）



④ A区東西土層（西側）



⑤ B区検出状況（西から）



⑥ B区発掘状況（西から）



⑦ B区発掘状況（南から）



⑧ B区1・2号掘立柱建物発掘状況（西から）



① C 区空中写真（北から）



② C 区発掘状況（東から）



③ C 区発掘状況（西から）



④ C 区 1・2号掘立柱建物発掘状況（東から）



⑤ C 区 3号掘立柱建物発掘状況（南から）



⑥ C 区土層断面（東から）



⑦ C 区土層断面（南から）



⑧ D・E 区空中写真（北から）

写真図版8



① D 区発掘状況（東から）



② D 区東側検出状況（東から）



③ D 区発掘状況（西から）



④ D 区竪穴建物土層断面（東から）



⑤ D 区 1号掘立柱建物発掘状況（北から）



⑥ D 区 2号掘立柱建物発掘状況（南から）



⑦ E 区発掘状況（西から）



⑧ E 区発掘状況（西から）



① F 区空中写真 1 (南から)



② F 区空中写真 2 (北から)



③ F 区発掘状況発掘状況 (西から)



④ F 区 2 号掘立柱建物発掘状況 (西から)



⑤ G 区空中写真 (北から)



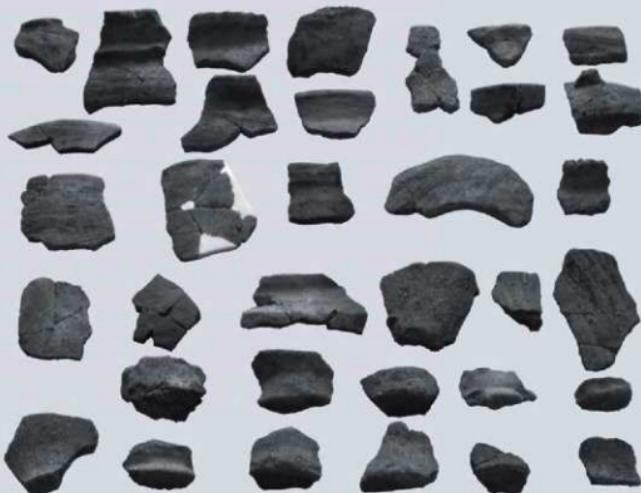
⑥ G 区発掘状況 (東から)



⑦ G 区発掘状況 (西から)



⑧ G 区 1 号掘立柱建物発掘状況 (東から)



出口遺跡出土縄文土器集合写真



7-2



7-3



7-5



11-1



11-2



11-3



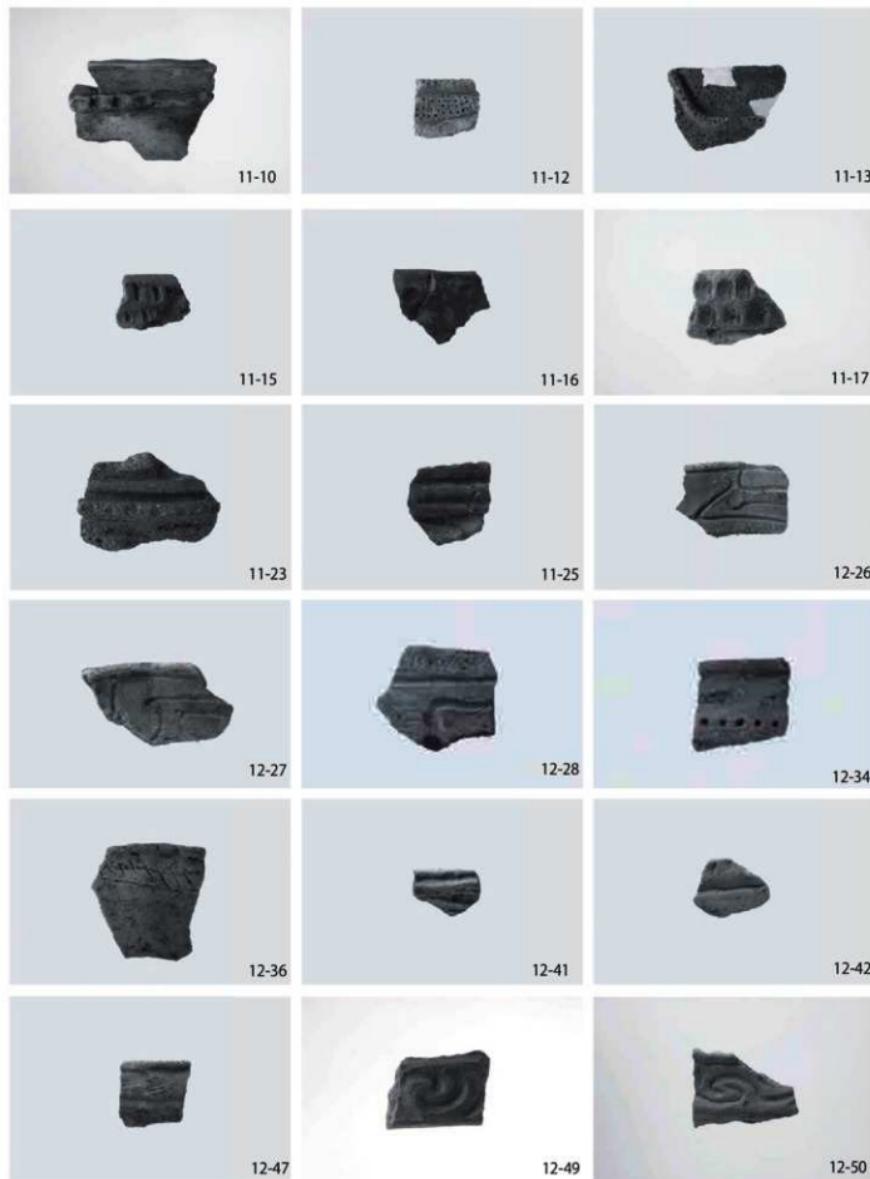
11-5



11-6



11-8



写真図版 1 2



12-53



12-54



12-55



12-57



12-58



13-62



13-67



13-68



13-69



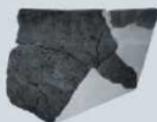
14-83



14-84



14-74 (正面)



14-85



14-86



14-74 (俯瞰)



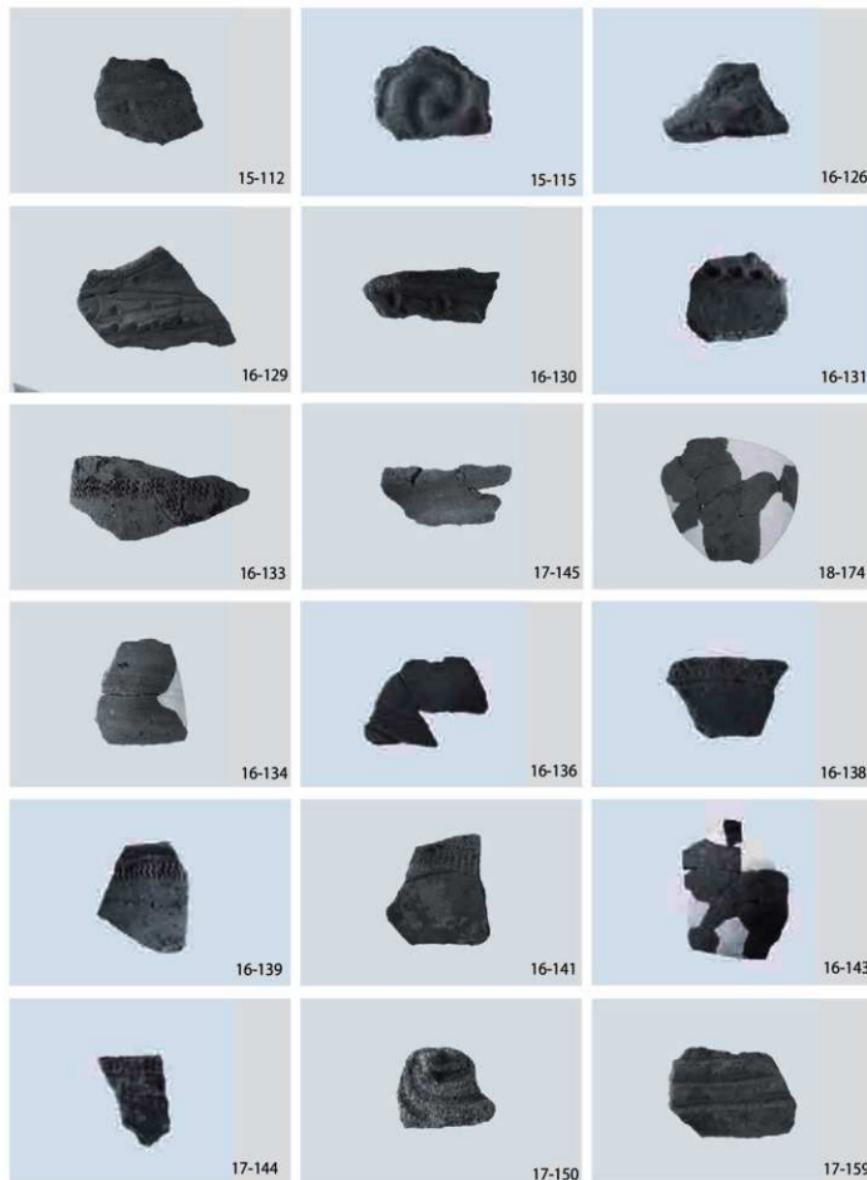
15-103



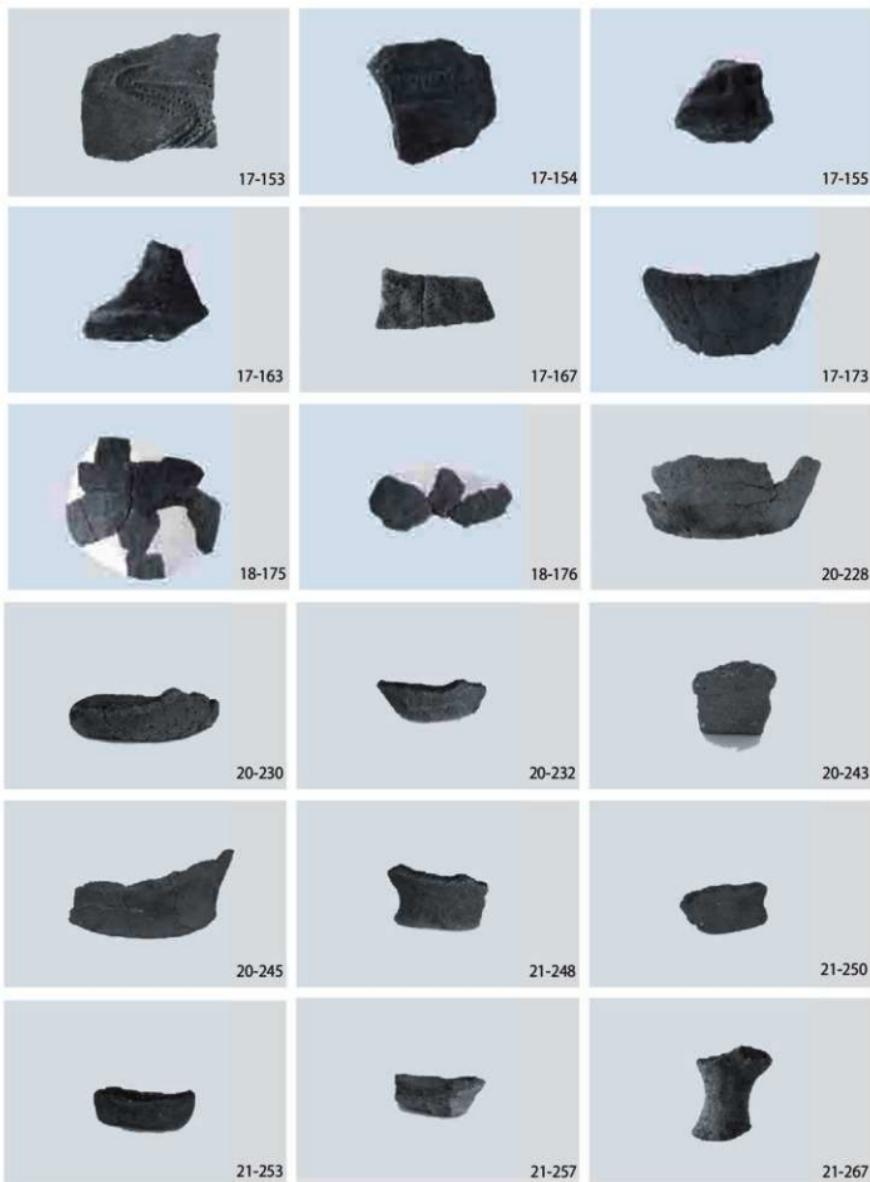
15-109



15-111



写真図版 14





21-267



22-5



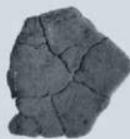
22-7



22-8



22-11



22-14



22-22



23-23



23-25



24-40



24-47



24-47



24-46



24-50



24-52



24-54



24-55



24-57

写真図版 1 6



25-3



43-13



26-3



27-9



27-12



27-13



28-26



27-16

報 告 書 抄 錄

出口遺跡

日田市埋蔵文化財調査報告書第 126 集

2017 年 3 月 15 日

編集 日田市教育庁 文化財保護課

〒 877-0077 大分県日田市南友田町 516-1

発行 日田市教育委員会

〒 877-8601 大分県日田市田島 2 丁目 6-1

印刷 日田時報紙器印刷株式会社

〒 877-0086 大分県日田市二串町 345-3



日田市